

お客様各位

カタログ等資料中の旧社名の扱いについて

2010年4月1日を以ってNECエレクトロニクス株式会社及び株式会社ルネサステクノロジが合併し、両社の全ての事業が当社に承継されております。従いまして、本資料中には旧社名での表記が残っておりますが、当社の資料として有効ですので、ご理解の程宜しくお願ひ申し上げます。

ルネサスエレクトロニクス ホームページ (<http://www.renesas.com>)

2010年4月1日

ルネサスエレクトロニクス株式会社

【発行】ルネサスエレクトロニクス株式会社 (<http://www.renesas.com>)

【問い合わせ先】<http://japan.renesas.com/inquiry>

ご注意書き

1. 本資料に記載されている内容は本資料発行時点のものであり、予告なく変更することがあります。当社製品のご購入およびご使用にあたりましては、事前に当社営業窓口で最新の情報をご確認いただきますとともに、当社ホームページなどを通じて公開される情報に常にご注意ください。
2. 本資料に記載された当社製品および技術情報の使用に関連し発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権の侵害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
3. 当社製品を改造、改変、複製等しないでください。
4. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器の設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因しお客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
5. 輸出に際しては、「外国為替及び外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続を行ってください。本資料に記載されている当社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的その他軍事用途の目的で使用しないでください。また、当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器に使用することができません。
6. 本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りがないことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。
7. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」、「高品質水準」および「特定水準」に分類しております。また、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使われることを意図しておりますので、当社製品の品質水準をご確認ください。お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途に当社製品を使用することができません。また、お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、意図されていない用途に当社製品を使用することができません。当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途または意図されていない用途に当社製品を使用したことによりお客様または第三者に生じた損害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。なお、当社製品のデータ・シート、データ・ブック等の資料で特に品質水準の表示がない場合は、標準水準製品であることを表します。
標準水準： コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット
高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、防災・防犯装置、各種安全装置、生命維持を目的として設計されていない医療機器（厚生労働省定義の管理医療機器に相当）
特定水準： 航空機器、航空宇宙機器、海底中継機器、原子力制御システム、生命維持のための医療機器（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの、治療行為（患部切り出し等）を行うもの、その他直接人命に影響を与えるもの）（厚生労働省定義の高度管理医療機器に相当）またはシステム等
8. 本資料に記載された当社製品のご使用につき、特に、最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他諸条件につきましては、当社保証範囲内でご使用ください。当社保証範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は耐放射線設計については行っておりません。当社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないようお客様の責任において冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、機器またはシステムとしての出荷保証をお願いいたします。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様が製造された最終の機器・システムとしての安全検証をお願いいたします。
10. 当社製品の環境適合性等、詳細につきましては製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを固くお断りいたします。
12. 本資料に関する詳細についてのお問い合わせその他お気付きの点等がございましたら当社営業窓口までご照会ください。

注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサスエレクトロニクス株式会社およびルネサスエレクトロニクス株式会社とその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいいます。

注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

FM, MW, LWチューナ (車載) 用
PLL周波数シンセサイザおよびコントローラ

μPD17012GF-054は全世界対応のPLL周波数シンセサイザ方式FM, MW, LWチューナ用に開発されたCMOS LSIです。

PLL周波数シンセサイザ・コントローラ、LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバおよびIFカウンタを内蔵しているため、デタッチャブル・タイプで電子ボリューム対応の車載用ステレオをはじめとした高性能な時計付きFM, MW, LWチューナがコンパクトに構成できます。また、ノンデタッチャブル・タイプにも対応できます。

特 徴

- 全世界のFM, MWバンドおよび欧州のLWバンドが受信可能
- AMアップコンバージョン対応
- マニュアル・チューニング、オートチューニング (シーク、スキャン) およびプリセット・メモリ・スキャンなどの豊富な選局機能
- 6ボタンでFM18局 (FM1, FM2, FM3各6局) MAX., MW12局 (MW1, MW2各6局) MAX., LW6局MAX., およびVF6局の独立したプリセット・メモリ
- FM: 3, MW: 2, LW: 1, VF: 1のラスト・チャンネル・メモリ
- VF放送局 (交通情報) のオートチューニング (SK信号サーチ) およびDKスタンバイ機能
- “ST” (ステレオ) 表示 (MWバンド, “ST” 表示可能)
- MTL (METAL), NR (Noise Reduction) およびAMS (Auto Music Search) のコントロール出力と表示
- オートプリセット・メモリ機能
- “CD” (コンパクト・ディスク) / “TRPE” (カセット・テープ) 表示
- LOUD (ラウドネス) コントロール出力および表示
- 12時間または24時間表示の時計機能
- 内蔵LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ (外部LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバとの切り替え可能)
- 外部LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ (μPD17202AGF-011) 対応
- IFカウンタ内蔵
- KEY, LCDパネル着脱可能
- 電子ボリューム機能 (I²Cバス対応)

オーダ情報

オーダ名称	パッケージ
μPD17012GF-054-3BE	64ピン・プラスチックQFP (14×20 mm)

本資料の内容は、後日変更する場合があります。

機能の概要

受信周波数, チャンネル・スペース, 基準周波数, 中間周波数

地域	バンド	受信周波数	チャンネル・スペース	基準周波数	中間周波数
東 欧	FM	87.5 - 108.0 MHz	50 KHz	25 kHz	10.7 MHz
	MW	522 - 1620 kHz	9 kHz	9 kHz	450 kHz/10.71 MHz
	LW	144 - 290 kHz	1 kHz	1 kHz	450 kHz/10.71 MHz
西 欧	FM	87.5 - 108.0 MHz	50 kHz	25 kHz	10.7 MHz
	MW	522 - 1620 kHz	9 kHz	9 kHz	450 kHz/10.71 MHz
	LW	144 - 290 kHz	1 kHz	1 kHz	450 kHz/10.71 MHz
中 国	FM	87.0 - 108.0 MHz	50 kHz	25 kHz	10.7 MHz
	MW	531 - 1602 kHz	9 kHz	9 kHz	450 kHz/10.71 MHz
豪 州 中近東	FM	87.5 - 108.0 MHz	100 kHz	25 kHz	10.7 MHz
	MW	531 - 1602 kHz	9 kHz	9 kHz	450 kHz/10.71 MHz
米国 1	FM	87.5 - 108.0 MHz	100 kHz	25 kHz	10.7 MHz
	MW	530 - 1620 kHz	10 kHz	10 kHz	450 kHz/10.71 MHz
米国 2	FM	87.5 - 107.9 MHz	200 kHz	25 kHz	10.7 MHz
	MW	530 - 1620 kHz	10 kHz	10 kHz	450 kHz/10.71 MHz
米国 3	FM	87.5 - 107.9 MHz	200 kHz	25 kHz	10.7 MHz
	MW	530 - 1710 kHz	10 kHz	10 kHz	450 kHz/10.71 MHz
日 本	FM	76.0 - 90.0 MHz	100 kHz	25 kHz	— 10.7 MHz
	MW	522 - 1629 kHz	9 kHz	9 kHz	450 kHz/10.71 MHz

ラジオ機能

(1) マニュアル・チューニング

種 類	機 能
マニュアル・アップ マニュアル・ダウン	ステップ送りと早送りができます。

(2) オートチューニング

種 類	機 能
シーク・アップ シーク・ダウン	放送局を検出すると、その周波数を保持します。
スキャン・アップ スキャン・ダウン	放送局を 5 秒間ずつ受信します。

(3) プリセット・メモリ・スキャン… プリセット・メモリの内容を 5 秒間ずつ受信します。

(4) VFオートチューニング

種 類	機 能
SKシーク・アップ SKシーク・ダウン	交通情報放送局を検出すると、その周波数を保持します。
SKスキャン・アップ SKスキャン・ダウン	交通情報放送局を5秒間ずつ受信します。

(5) プリセット・メモリ

- FMバンド… FM1：6局、FM2：6局、FM3：6局
- MWバンド… MW1：6局、MW2：6局
- LWバンド… 6局
- VFバンド… 6局

(6) ラスト・チャンネル・メモリ… FM1、FM2、FM3、MW1、MW2、LW、VF独立に各1局

(7) LOC（ローカル）のコントロール出力と表示（オートローカル機能選択可能）

(8) “ST”（ステレオ）表示機能… FMおよびVFバンドで有効

MWバンドでも表示可能（切り替え機能あり）

(9) オートストア・メモリ

(10) DKスタンバイ、SKアラーム機能

テープ機能

- (1) テープ走行方向表示… 早送り時は2.5 Hzで点滅可能
- (2) AMS（Auto Music Search）のコントロール出力と表示
- (3) MTL（METAL）のコントロール出力と表示
- (4) NR（Noise Reduction）のコントロール出力と表示
- (5) “TAPE”（カセット・テープ）表示機能

電子ボリューム機能（電子ボリュームA、Bに対応し、1種類を選択）

- (1) ボリューム／バス／トレブル／バランス／フェーダ機能
- (2) LCDパネルに“VOL”／“BAS”／“TREB”／“BAL”／“FAD”表示
- (3) ミュート機能（ミュート時はパネル全体の表示を点滅）
- (4) ラウドネス機能（電子ボリュームAのみ対応）

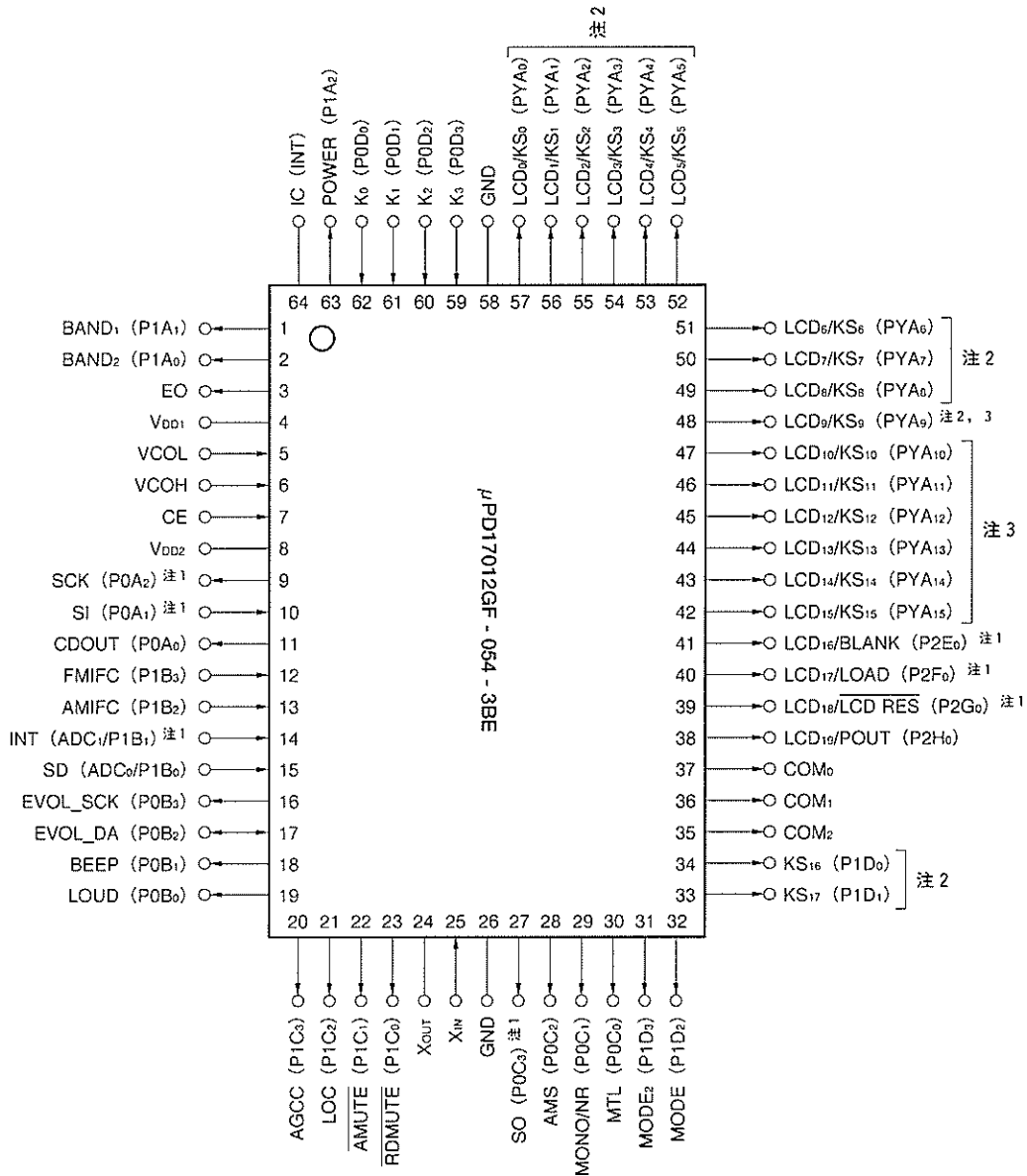
時計機能

- (1) 12時間表示（“AM”，“PM”表示付き）および24時間表示選択可能
- (2) コロン（“：”）のフラッシング（1 Hz）選択可能
- (3) 時計なしモードでは低消費電流（10 μA MAX.）でのバック・アップ可能

その他

- (1) LOUD (ラウドネス) のコントロール出力と表示… ラジオ、テープ、CDモード共通
- (2) キー・アクノリッジ (ビープ) 出力… 有効モメンタリ・キー・オンで出力
- (3) 表示切り替えおよび優先表示機能
- (4) “CD” (コンパクト・ディスク) 表示
- (5) 外部LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ (μPD17202AGF-011) 対応可能
- (6) KEY, LCDパネル着脱可能 (μPD17202AGF-011使用時のみ)

端子接続図 (Top View)



注1. 外部LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ (μPD17202AGF-011) 使用時に用いる端子

2. 初期設定ダイオードおよびトランジスタ・スイッチ

3. モメンタリ・キー (KLCD = 0 (内蔵LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ使用時) のときのみ有効)

注意 “IC” 端子はGNDに直接接続してください。

備考1. IC (Internally Connected) : 内部接続端子です。

2. () 内は μPD17012GFでの名称です。

目 次

1. 端子機能	7
2. キー・マトリクス構成	17
2.1 キー・マトリクスの配置	17
2.2 スイッチの接続	18
2.3 キー・マトリクスの接続	19
2.4 初期設定ダイオード・マトリクス	20
2.5 オルタネートまたはトランジスタ・スイッチ	33
2.6 モメンタリ・キー	35
2.6.1 モメンタリ・キー・マトリクスの配置 (KLCD = 1 (μPD17202AGF-011使用時))	35
2.6.2 モメンタリ・キー・マトリクスの接続 (KLCD = 1 (μPD17202AGF-011使用時))	35
2.6.3 モメンタリ・キーの説明 (KLCD = 0 (内蔵LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ使用時) およびKLCD = 1 (μPD17202AGF-011使用時))	36
3. モード遷移	72
3.1 初期設定ダイオードRDONが1のときのモード遷移 (CE端子状態の切り替えによるラジオのオン/オフ)	72
3.2 初期設定ダイオードRDONが0のときのモード遷移 (RDSETスイッチ状態の切り替えによるラジオのオン/オフ)	82
4. 表 示	93
4.1 LCDパネル	93
4.2 字 体	93
4.3 表 示 例	93
4.4 LCD割り当て	94
4.5 LCD割り当て表	94
4.5.1 内蔵LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバのLCD割り当て表	94
4.5.2 外部LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ (μPD17202AGF-011) のLCD割り当て表	95
4.6 表示説明	96
5. ミュート出力タイミング・チャート	98
5.1 ラジオ・ミュート ($\overline{\text{RDMUTE}}$ 端子) 出力タイミング・チャート	98
5.2 ラジオ・ミュート ($\overline{\text{RDMUTE}}$ 端子) とオーディオ・ミュート ($\overline{\text{AMUTE}}$ 端子) 出力タイミング・チャート	103
6. 端子の入出力回路	105
7. 応用回路例	109

8. 電気的特性 (暫定) …	111
9. 外形図 …	114
10. 半田付け推奨条件 …	115
付録A. LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ (μ PD17202AGF-011) について …	116
付録B. 通信について …	118

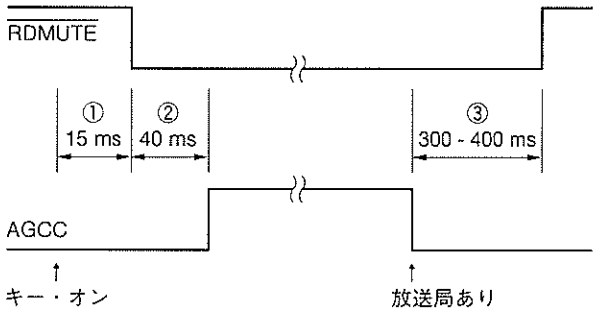
1. 端子機能

端子番号	記号	端子名称	説明	入出力形式																					
1 2	BAND ₁ BAND ₂	バンド切り替え信号出力	<p>ラジオ・モード時のバンド切り替え信号出力端子です。</p> <p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード時</p> <p>バンド切り替えキーにより受信バンドを切り替えると各バンドにおいて次のよう出力します。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>端子 バンド</th> <th>BAND₁</th> <th>BAND₂</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MW</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>LW</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>FM</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>VF</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>(0:ロウ・レベル, 1:ハイ・レベル)</p> <p>(2) テープDKオン・モード, CD・DKオン・モード, テープDKスタンバイ・モード, CD・DKスタンバイ・モード時</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>端子 バンド</th> <th>BAND₁</th> <th>BAND₂</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>VF</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1:ハイ・レベル)</p> <p>(3) テープ・モード, CDモード, パワーオフ・モード時</p> <p>ロウ・レベルを出力します。</p>	端子 バンド	BAND ₁	BAND ₂	MW	0	0	LW	0	1	FM	1	0	VF	1	1	端子 バンド	BAND ₁	BAND ₂	VF	1	1	CMOS プッシュプル 出力
端子 バンド	BAND ₁	BAND ₂																							
MW	0	0																							
LW	0	1																							
FM	1	0																							
VF	1	1																							
端子 バンド	BAND ₁	BAND ₂																							
VF	1	1																							
3	EO	エラー・アウト	<p>PLLを構成する位相比較器のチャージ・ポンプ出力端子です。発振周波数を分周したものが基準周波数より高い場合は、これらの端子からハイ・レベルが出力され、逆に低い場合は、ロウ・レベルが出力されます。一致するとフローティングとなります。</p>	CMOS 3ステート 出力																					
4 8	V _{DD1} V _{DD2}	電源端子	<p>デバイスの電源端子です。</p> <p>デバイス動作時には5V ± 10%の電圧を供給します。</p> <p>V_{DD}の立ち上がり時間は、500ms以下(0 → 4.5V)であることが必要です。立ち上がり時間が極端に長い場合、また完全に0Vに落ちないでなおかつ動作電圧以下から3.5Vに立ち上がった場合には、初期設定用のダイオード・スイッチの状態を正常に読み込まないときがあります(このような場合はCE端子を使用して、初期設定用のダイオード・スイッチの状態を正常に読み込ませませす)。</p> <p>V_{DD}を最初に投入したときにCE端子をハイ・レベルにすると、FMバンドの最低周波数が呼び出されます。</p>	—																					

端子番号	記号	端子名称	説明	入出力形式
5	VCOL	AM局部 発振入力	AM (MW, LW) バンドの局部発振出力 (VCO) を入力する端子です。 MWおよびLWを受信しているときはアクティブとなり、そのほかのときは内部でプルダウンされます。 入力できる周波数は0.58 - 30 MHz (0.3 V _{pp}) です。交流アンプを内蔵しているため、コンデンサで直流分をカットして入力してください。	入力
6	VCOH	FM局部 発振入力	FM (FM, VF) バンドの局部発振出力 (VCO) を入力する端子です。 FMおよびVFを受信しているときはアクティブとなり、その他のときは内部でプルダウンされます。 入力できる周波数は9 - 150 MHz (0.3 V _{pp}) です。交流アンプを内蔵しているため、コンデンサで直流分をカットして入力してください。	入力
7	CE	チップ・イ ネーブル	デバイスの選択信号入力端子です。 デバイスに通常の動作 (ラジオ、テープ、CD、時計表示等) をさせる場合は、ハイ・レベルを入力し、デバイスを使用しない場合は、ロウ・レベルを入力します。ただし、165 μs以下のハイ・レベルおよびロウ・レベルは受けつけられません。 この端子がロウ・レベルのときは、ラジオ、テープ、CDおよび表示をすべてオフし、データ保持状態となります。このとき初期設定ダイオードNOCLKを1 (ダイオードでショート、時計なしモード) にすると低消費電流でのデータ保持状態とすることができます (2.4 初期設定ダイオード・マトリクス参照)。	入力
9	SCK	外部LCDコン トローラ/キ ー・スキャン ドライバ用 シリアル・ クロック出力	外部LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ (μPD17202AGF-011) 制御用のシリアル・クロック出力端子です。	CMOS プッシュプル 出力
10	SI	外部LCDコント ローラ/キ ー・スキャン・ドラ イバ用シリア ル・データ入力	外部LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ (μPD17202AGF-011) 制御用のシリアル・データ入力端子です。	入力
11	CDOUT	CDモード出力	CDモード出力端子です。 モメンタリ・キー <input type="checkbox"/> CD を押すごとにCDOUT出力を反転します。 次のモードではCDOUT出力は、常にロウ・レベルを出力します。 ●CE = ロウ・レベル時 ●パワーオフ・モード (CE = ハイ・レベルでラジオ、テープ、CDオフ時) ●トランジスタ・スイッチDTH = オフ時	CMOS プッシュプル 出力

端子番号	記号	端子名称	説明	入出力形式												
12	FMIFC	F M中間周波数入力	<p>FMバンドおよびAMバンド (MW, LW) で、初期設定ダイオード IFAM = 1のときの中間周波数 (IF) 入力端子です。</p> <p>入力できる周波数は5 - 15 MHz (0.3 V_{pp}) です。交流アンプを内蔵しているため、コンデンサで直流分をカットして入力してください。</p> <p>この端子は初期設定ダイオードENFMIF = 1のとき、オートチューニング中に放送局の有無を検出するために使用します。</p> <p>放送局ありと判断させるための入力周波数範囲と入力条件は次のようになります</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目 バンド</th> <th>入力周波数 範囲①</th> <th>入力周波数 範囲②</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FM, VF</td> <td>10.7 MHz ± 50 kHz</td> <td>10.7 MHz ± 12.5 kHz</td> </tr> <tr> <td>MW</td> <td>10.71 MHz ± 5 kHz</td> <td>10.71 MHz ± 2 kHz</td> </tr> <tr> <td>LW</td> <td>10.71 MHz ± 5 kHz</td> <td>10.71 MHz ± 1 kHz</td> </tr> </tbody> </table> <p>入力周波数範囲①は、PLLがロックしたあと20 ms以内に入力しなければならない周波数です。入力周波数範囲①と②が両方満たされたとき、放送局ありと判断され、オートチューニングをストップします。</p>	項目 バンド	入力周波数 範囲①	入力周波数 範囲②	FM, VF	10.7 MHz ± 50 kHz	10.7 MHz ± 12.5 kHz	MW	10.71 MHz ± 5 kHz	10.71 MHz ± 2 kHz	LW	10.71 MHz ± 5 kHz	10.71 MHz ± 1 kHz	入力
項目 バンド	入力周波数 範囲①	入力周波数 範囲②														
FM, VF	10.7 MHz ± 50 kHz	10.7 MHz ± 12.5 kHz														
MW	10.71 MHz ± 5 kHz	10.71 MHz ± 2 kHz														
LW	10.71 MHz ± 5 kHz	10.71 MHz ± 1 kHz														
13	AMIFC	A M中間周波数入力	<p>初期設定ダイオードIFAM = 0のときのAM (MW, LW) バンドの中間周波数 (IF) 入力端子です。</p> <p>入力できる周波数は0.3 - 1.0 MHz (0.3 V_{pp}) です。交流アンプを内蔵しているため、コンデンサで直流分をカットして入力してください。</p> <p>この端子は初期設定ダイオードENAMIF = 1のとき、オートチューニング中に放送局の有無を検出するために使用します。</p> <p>放送局ありと判断させるための入力周波数範囲と入力条件は次のようになります。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目 バンド</th> <th>入力周波数 範囲① [kHz]</th> <th>入力周波数 範囲② [kHz]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MW</td> <td>450 ± 5</td> <td>450 ± 2</td> </tr> <tr> <td>LW</td> <td>450 ± 5</td> <td>450 ± 0.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>入力周波数範囲①は、PLLがロックしたあと20 ms以内に入力しなければならない周波数です。入力周波数範囲①と②が両方満たされたとき、放送局ありと判断され、オートチューニングをストップします。</p>	項目 バンド	入力周波数 範囲① [kHz]	入力周波数 範囲② [kHz]	MW	450 ± 5	450 ± 2	LW	450 ± 5	450 ± 0.5	入力			
項目 バンド	入力周波数 範囲① [kHz]	入力周波数 範囲② [kHz]														
MW	450 ± 5	450 ± 2														
LW	450 ± 5	450 ± 0.5														

端子番号	記号	端子名称	説明	入出力形式																				
14	INT	外部LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバのキー・スキャン完了入力	<p>外部LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ(μPD17202AGF-011)からのキー・スキャン完了入力端子です。</p> <p>キー・スキャン状態により、次のような入力レベルになります。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>キー・スキャン状態</th> <th>入力レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>キー・スキャン中</td> <td>ロウ</td> </tr> <tr> <td>キー・スキャン完了</td> <td>ハイ</td> </tr> </tbody> </table>	キー・スキャン状態	入力レベル	キー・スキャン中	ロウ	キー・スキャン完了	ハイ	入力														
キー・スキャン状態	入力レベル																							
キー・スキャン中	ロウ																							
キー・スキャン完了	ハイ																							
15	SD	SD入力	<p>SD (Station Detector) 信号入力端子です。</p> <p>この端子に次に示す電圧が加わると、SDありと判断します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">バンド</th> <th rowspan="2">LOCAL/ DXモード</th> <th colspan="2">SDありと判断する電圧</th> </tr> <tr> <th></th> <th>V_{DD} = 5 V時</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">FM VF</td> <td>LOCAL</td> <td>$\frac{28.5}{64} \times V_{DD}$以上</td> <td>2.227</td> </tr> <tr> <td>DX</td> <td>$\frac{12.5}{64} \times V_{DD}$以上</td> <td>0.977</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">MW LW</td> <td>LOCAL</td> <td>$\frac{15.5}{64} \times V_{DD}$以上</td> <td>1.211</td> </tr> <tr> <td>DX</td> <td>$\frac{12.5}{64} \times V_{DD}$以上</td> <td>0.977</td> </tr> </tbody> </table> <p>SD信号は、放送局ありの判断に使用します。</p>	バンド	LOCAL/ DXモード	SDありと判断する電圧			V _{DD} = 5 V時	FM VF	LOCAL	$\frac{28.5}{64} \times V_{DD}$ 以上	2.227	DX	$\frac{12.5}{64} \times V_{DD}$ 以上	0.977	MW LW	LOCAL	$\frac{15.5}{64} \times V_{DD}$ 以上	1.211	DX	$\frac{12.5}{64} \times V_{DD}$ 以上	0.977	入力
バンド	LOCAL/ DXモード	SDありと判断する電圧																						
			V _{DD} = 5 V時																					
FM VF	LOCAL	$\frac{28.5}{64} \times V_{DD}$ 以上	2.227																					
	DX	$\frac{12.5}{64} \times V_{DD}$ 以上	0.977																					
MW LW	LOCAL	$\frac{15.5}{64} \times V_{DD}$ 以上	1.211																					
	DX	$\frac{12.5}{64} \times V_{DD}$ 以上	0.977																					
16	EVOL_SCK	電子ボリューム用クロック出力	電子ボリューム用のクロック出力端子です。	CMOS プッシュプル 出力																				
17	EVOL_DA	電子ボリューム用データ入出力	電子ボリューム用のデータ入出力端子です。	入出力 CMOS プッシュプル 出力																				
18	BEEP	ビープ出力	<p>モメンタリ・キーが押されたときのビープ音出力端子として動作します。</p> <p>モメンタリ・キーが押されたとき周波数3 kHz、デューティ50%の方形波を約40 ms出力します。この時間は先出しミュートの時間と等しくなります。</p> <p>モメンタリ・キーを押し、LCDパネルの表示または出力ポートの状態が変化する場合(有効キー)およびプリセット・メモリ・スキャンとスキャン動作中の5秒間のホールドが終了したときにビープ音を出力します。</p> <p>またビープ音出力はDKスタンバイ時のSKアラームにも使用できます。使用しない場合は、オープンにしてください。</p>	CMOS プッシュプル 出力																				

端子番号	記号	端子名称	説明	入出力形式											
19	LOUD	ラウドネス 出力	ラウドネス・コントロール信号出力端子です。 ラウドネス・オン時、ハイ・レベルを出力します。	CMOS プッシュプル 出力											
20	AGCC	AGCカット 出力	ラジオ・モード時のAGC (Auto Gain Control) カット信号出力端子です。 オートチューニング中に次のようにハイ・レベルを出力します。  <p style="text-align: center;">①: キー・オン・チャタリング待ち ②: 先出しミュート ③: 後出しミュート</p>	CMOS プッシュプル 出力											
21	LOC	ローカル信号 出力	ラジオ・モード時のローカル信号出力端子です。 モードにより動作が次のように異なります。 (1) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード, テープDKオン・モード, CD・DKオン・モード, テープDKスタンバイ・モード, CD・DKスタンバイ・モード時 LOCはローカル状態でオートチューニング時のみ、ハイ・レベルを出力します。 LOCはチューニング状態およびLOCAL/DX状態により、次のように端子の出力レベルを決定します。 <table border="1" data-bbox="671 1429 1210 1608"> <thead> <tr> <th>オートチューニング状態</th> <th>LOCAL/DX状態</th> <th>LOC出力レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">動作中</td> <td>LOCAL</td> <td>ハイ</td> </tr> <tr> <td>DX</td> <td>ロウ</td> </tr> <tr> <td>動作外</td> <td>Don't care</td> <td>ロウ</td> </tr> </tbody> </table> (2) 上記モード以外 ロウ・レベルを出力します。	オートチューニング状態	LOCAL/DX状態	LOC出力レベル	動作中	LOCAL	ハイ	DX	ロウ	動作外	Don't care	ロウ	CMOS プッシュプル 出力
オートチューニング状態	LOCAL/DX状態	LOC出力レベル													
動作中	LOCAL	ハイ													
	DX	ロウ													
動作外	Don't care	ロウ													

端子番号	記号	端子名称	説明	入出力形式
22	AMUTE	オーディオ・ミュート出力	<p>テープおよびCDのミュート信号出力端子です。</p> <p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード, テープDKオン・モード, CD・DKオン・モード, パワーオフ・モード時 ロウ・レベルを出力します。</p> <p>(2) CDモード, テープ・モード, CD・DKスタンバイ・モード, テープDKスタンバイ・モード時 ハイ・レベルを出力します。</p> <p>詳しくは5. ミュート出力タイミング・チャートを参照してください。</p>	CMOS プッシュプル 出力
23	RDMUTE	ラジオ・ミュート出力	<p>ラジオのミュート信号出力端子です。</p> <p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード, テープDKオン・モード, CD・DKオン・モード時 ラジオ・オン/オフ時 バンド切り替え時 受信周波数切り替え時 ロウ・レベルを出力します。</p> <p>(2) CDモード, テープ・モード, CD・DKスタンバイ・モード, テープDKスタンバイ・モード時 初期設定ダイオードMUTESELにより出力方法を選択できます(2.4 初期設定ダイオード・マトリクス参照)。 ただしDKスタンバイまたはラジオ・モニタ機能を使用するときはMUTESELを0にしてロウ・レベル出力を選択してください。</p> <p>詳しくは5. ミュート出力タイミング・チャートを参照してください。</p>	CMOS プッシュプル 出力
24	XOUT	水晶振動子	水晶振動子を接続するための端子です。	—
25	XIN		4.5 MHzの水晶振動子を接続します。	入力
26	GND	グラウンド	グラウンド端子です。	—
58			26番ピンと58番ピンは必ず同電位に接続してください。	
27	SO	外部LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ用シリアル・データ出力	外部LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ(μPD17202AGF-011) 制御用のシリアル・データ出力端子です。	N-ch オープン・ドレイン出力

端子番号	記号	端子名称	説明	入出力形式																												
28	AMS	AMS 信号出力	<p>AMS (AUTO Music Search) 信号出力端子です。</p> <p>AMSのオン/オフ状態により次のように端子の出力レベルを決定します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>AMS状態</th> <th>出力レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ON</td> <td>ハイ</td> </tr> <tr> <td>OFF</td> <td>ロウ</td> </tr> </tbody> </table> <p>なお端子からは、モードにかかわらずTPSETスイッチがオンのときAMS状態に対応したレベルを出力します。</p>	AMS状態	出力レベル	ON	ハイ	OFF	ロウ	CMOS プッシュプル 出力																						
AMS状態	出力レベル																															
ON	ハイ																															
OFF	ロウ																															
29	MONO/NR	モノラル およびノイズ・リダクション出力	<p>モノラル信号出力端子またはノイズ・リダクション信号出力端子です。</p> <p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード, テープDKオン・モード, CD・DKオン・モード時</p> <p>モノラル信号出力端子として動作します。</p> <p>選択バンドおよびMONOのオン/オフ状態により次のように端子の出力レベルを決定します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>選択バンド</th> <th>MONO状態</th> <th>出力レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">FM</td> <td>ON</td> <td>ハイ</td> </tr> <tr> <td>OFF</td> <td>ロウ</td> </tr> <tr> <td>LW</td> <td>Don't care</td> <td>ロウ</td> </tr> </tbody> </table> <p>MWバンド選択時は、初期設定ダイオードMWSの設定により、次のように端子の出力レベルを決定します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>MWS</th> <th>MONO状態</th> <th>出力レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">1</td> <td>ON</td> <td>ハイ</td> </tr> <tr> <td>OFF</td> <td>ロウ</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>Don't care</td> <td>ロウ</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1 : ダイオードでショート 0 : オープン)</p> <p>(2) テープ・モード, テープDKスタンバイ・モード時</p> <p>ノイズ・リダクション信号出力端子として動作します。</p> <p>NRのオン/オフ状態により次のように端子の出力レベルを決定します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>NR状態</th> <th>出力レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ON</td> <td>ハイ</td> </tr> <tr> <td>OFF</td> <td>ロウ</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) CDモード, CD・DKスタンバイ・モード, パワーオフ・モード時</p> <p>ロウ・レベルを出力します。</p>	選択バンド	MONO状態	出力レベル	FM	ON	ハイ	OFF	ロウ	LW	Don't care	ロウ	MWS	MONO状態	出力レベル	1	ON	ハイ	OFF	ロウ	0	Don't care	ロウ	NR状態	出力レベル	ON	ハイ	OFF	ロウ	CMOS プッシュプル 出力
選択バンド	MONO状態	出力レベル																														
FM	ON	ハイ																														
	OFF	ロウ																														
LW	Don't care	ロウ																														
MWS	MONO状態	出力レベル																														
1	ON	ハイ																														
	OFF	ロウ																														
0	Don't care	ロウ																														
NR状態	出力レベル																															
ON	ハイ																															
OFF	ロウ																															

端子番号	記号	端子名称	説明	入出力形式																															
30	MTL	メタル信号出力	<p>メタル信号出力端子です。</p> <p>METALのオン/オフ状態により次のように端子の出力レベルを決定します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>METAL状態</th> <th>出力レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ON</td> <td>ハイ</td> </tr> <tr> <td>OFF</td> <td>ロウ</td> </tr> </tbody> </table> <p>なお端子からは、モードにかかわらずTPSETスイッチがオンのときMETAL状態に対応したレベルを出力します。</p>	METAL状態	出力レベル	ON	ハイ	OFF	ロウ	CMOS プッシュプル 出力																									
METAL状態	出力レベル																																		
ON	ハイ																																		
OFF	ロウ																																		
31 32	MODE ₂ MODE	モード信号 出力	<p>モード切り替え信号出力端子です。</p> <p>各モードのときに次のように出力されます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>モード</th> <th>MODE</th> <th>MODE₂</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CE = ロウ・レベル時</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>CE = ハイ・レベルでラジオ、テープ、 CDオフ時 (パワーオフ・モード)</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>ラジオ・モード時</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>テープ・モード時</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>CDモード時</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>テープDKスタンバイ・モード時</td> <td rowspan="2">1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>CD・DKスタンバイ・モード時</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>CD・DKオン・モード時</td> <td rowspan="2">1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>テープ・ラジオ・モニタ・モード時</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>CDラジオ・モニタ・モード時</td> <td></td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>(0:ロウ・レベル, 1:ハイ・レベル)</p>	モード	MODE	MODE ₂	CE = ロウ・レベル時	0	0	CE = ハイ・レベルでラジオ、テープ、 CDオフ時 (パワーオフ・モード)	0	0	ラジオ・モード時	1	0	テープ・モード時	0	0	CDモード時	0	1	テープDKスタンバイ・モード時	1	0	CD・DKスタンバイ・モード時	1	CD・DKオン・モード時	1	0	テープ・ラジオ・モニタ・モード時	1	CDラジオ・モニタ・モード時		1	CMOS プッシュプル 出力
モード	MODE	MODE ₂																																	
CE = ロウ・レベル時	0	0																																	
CE = ハイ・レベルでラジオ、テープ、 CDオフ時 (パワーオフ・モード)	0	0																																	
ラジオ・モード時	1	0																																	
テープ・モード時	0	0																																	
CDモード時	0	1																																	
テープDKスタンバイ・モード時	1	0																																	
CD・DKスタンバイ・モード時		1																																	
CD・DKオン・モード時	1	0																																	
テープ・ラジオ・モニタ・モード時		1																																	
CDラジオ・モニタ・モード時		1																																	
33 34	KS ₁₇ KS ₁₆	キー・ソース 信号出力	キー・マトリクスのキー・ソース信号出力端子です。	CMOS プッシュプル 出力																															
35 37	COM ₂ COM ₀	LCDコモン 信号出力	LCDパネルへのコモン信号出力端子です。	CMOS 3ステート 出力																															
38	LCD ₁₉ /POUT	LCDセグメン ト信号出力/ 着脱信号出力	<p>LCDパネルへのセグメント信号出力端子またはデタッチャブル状態信号出力端子として動作します。</p> <p>初期設定ダイオードKLCDの状態により次のように動作が異なります。</p> <p>(1) KLCD = 0のとき LCDパネルへのセグメント信号出力端子です。</p> <p>(2) KLCD = 1のとき DTHスイッチがオフのとき着脱信号出力端子として1 Hz, 1/2デューティの信号を出力します。</p>	CMOS プッシュプル 出力																															


端子番号	記号	端子名称	説明	入出力形式						
39	LCD ₁₆ / LCD RES	LCDセグメント出力または外部LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ用リセット信号出力	LCDパネルへのセグメント信号出力端子または外部LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ(μPD17202AGF-011)へのリセット信号出力端子です。 初期設定ダイオードKLCDの状態により次のように動作が異なります。 (1) KLCD = 0のとき LCDパネルへのセグメント信号出力端子です。 (2) KLCD = 1のとき 外部LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ(μPD17202AGF-011)へのリセット信号として動作します。ロウ・レベルを出力時に外部LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバがリセット状態になります。	N-ch オープン・ドレイン出力						
40	LCD ₁₇ /LOAD	LCDセグメント出力または外部LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ用ロード信号出力	LCDパネルへのセグメント信号出力端子または外部LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ(μPD17202AGF-011)制御用のロード信号出力端子です。 (1) KLCD = 0のとき LCDパネルへのセグメント信号出力端子です。 (2) KLCD = 1のとき 外部LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ(μPD17202AGF-011)へのロード信号として動作します。	CMOS プッシュプル出力						
41	LCD ₁₆ /BLANK	LCDセグメント出力または外部LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ用ブランク出力	LCDパネルへのセグメント信号出力端子または外部LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ(μPD17202AGF-011)への表示点灯/消灯のコントロール信号出力端子です。LCD表示状態により、次のように出力レベルを決定します。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>LCD表示状態</th> <th>出力レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>点灯</td> <td>ロウ</td> </tr> <tr> <td>消灯</td> <td>ハイ</td> </tr> </tbody> </table> (1) KLCD = 0のとき LCDパネルへのセグメント信号出力端子です。 (2) KLCD = 1のとき 外部LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ(μPD17202AGF-011)へのブランク信号として動作します。	LCD表示状態	出力レベル	点灯	ロウ	消灯	ハイ	N-ch オープン・ドレイン出力
LCD表示状態	出力レベル									
点灯	ロウ									
消灯	ハイ									

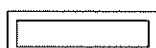
端子番号	記号	端子名称	説明	入出力形式
42 57	LCD ₁₅ /KS ₁₅ LCD ₀ /KS ₀	LCDセグメント出力/ キー・ソース 信号出力	LCDパネルへのセグメント信号出力端子およびキー・マトリクスのキー・ソース信号出力端子です。 キー・マトリクスのキー・ソース信号とLCDセグメント信号を共用しているため、キー・ソース信号として使用するために逆流防止用のダイオードが必要となります。	CMOS プッシュプル 出力
59 62	K ₃ K ₀	キー・リターン 信号入力	キー・マトリクスのキー・リターン信号入力端子です。 キー・ソース信号出力は、LCDセグメント信号と共用しているため、このキー・リターン信号入力端子にはプルダウン抵抗を接続しないでください。	入力
63	POWER	パワー出力	POWER キーを押すごとに出力を反転します。 この端子はセットの電源のオン/オフなどに使用してください。	CMOS プッシュプル 出力
64	IC	IC	内部接続端子です。GNDに直接接続してください。	—

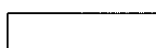
2. キー・マトリクスの構成

2.1 キー・マトリクスの配置

入力端子 (端子番号) 出力端子 (端子番号)	K ₃ (59)	K ₂ (60)	K ₁ (61)	K ₀ (62)
KS ₁₇ (33)	ENFM	DISFM3	ENMW2	DISLW
KS ₁₆ (34)	RDON	AREA3	AREA2	AREA1
LCD ₁₅ /KS ₁₅ (42)	M6	M5	M4	M3 (TP3)
LCD ₁₄ /KS ₁₄ (43)	M2 (TP2)	M1 (TP1)	MTL	LOC
LCD ₁₃ /KS ₁₃ (44)	LOUD	P.SCAN	DISP	ME
LCD ₁₂ /KS ₁₂ (45)	VF	BAND	SCAN UP	SEEK UP
LCD ₁₁ /KS ₁₁ (46)	MAN DWN	MAN UP	RDMONI	NR
LCD ₁₀ /KS ₁₀ (47)	AMS	MONO	SCAN DWN	SEEK DWN
LCD ₉ /KS ₉ (48)	CD	MUTE	VOL DWN	VOL UP
LCD ₈ /KS ₈ (49)	VOL SEL	POWER	SK	DK
LCD ₇ /KS ₇ (50)	RDSET	ST	DTH	CDSET
LCD ₆ /KS ₆ (51)	FF	RL	TPSET	VKysel
LCD ₅ /KS ₅ (52)	VOLATT_L	VOLATT_H	EVOLSEL	KLCD
LCD ₄ /KS ₄ (53)	IFAM	M2S	VF1	MWS
LCD ₃ /KS ₃ (54)	AUTO500	MUTESEL	AUTOLOC	FAD_SEL
LCD ₂ /KS ₂ (55)	CKHLT	KAMS	KNR	KMTL
LCD ₁ /KS ₁ (56)	NOCLK	CLKDISP	FLASH	DISAMEMO
LCD ₀ /KS ₀ (57)	ENFMIF	ENAMIF	PRIQ2	PRIQ1

 初期設定ダイオード

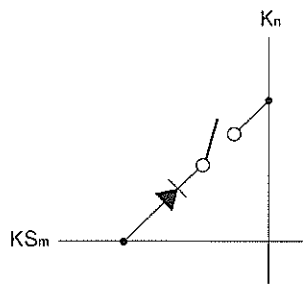
 オルタネート・スイッチまたはトランジスタ・スイッチ

 モメンタリ・キー

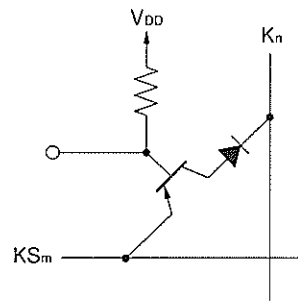
備考 モメンタリ・キーはKLCD = 0のときのみ有効です (2.4 初期設定ダイオード・マトリクス参照)

2.2 スイッチの接続

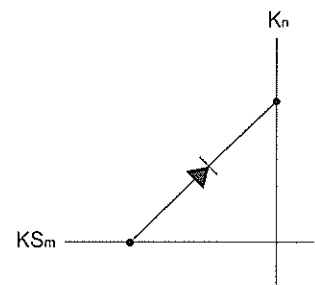
オルタネート・スイッチ



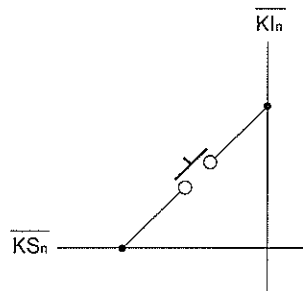
トランジスタ・スイッチ






初期設定ダイオード

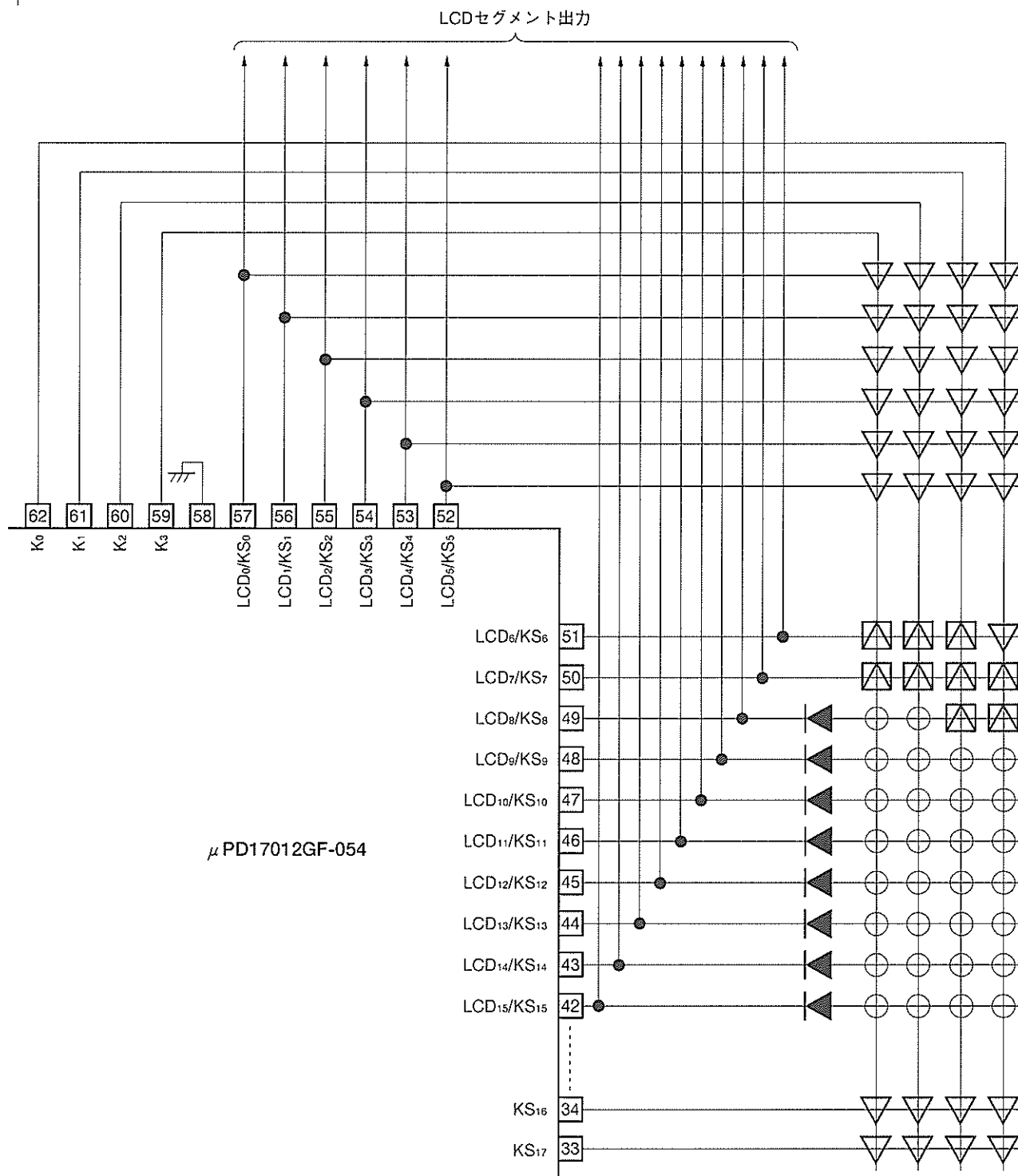


モーメンタリ・キー



2.3 キー・マトリクス接続

-  オルタネットまたはトランジスタ・スイッチ
-  初期設定ダイオード
-  モメンタリ・キー



備考 モメンタリ・キーはKLCD = 0のときのみ有効です。

2.4 初期設定ダイオード・マトリクス

初期設定ダイオード・マトリクスには次の21種類があります。これらはすべて最初にV_{DD}端子に電源を投入したとき（パワーオン・リセット）と、CE端子がロウ・レベルからハイ・レベルに変化したとき（CEリセット）のみ読み込まれ、そのほかの期間では無視されます。

- (1) 受信地域を設定するためのスイッチ
AREA1, AREA2, AREA3
- (2) 受信バンドを設定するためのスイッチ
DISFM3, ENMW2, DISLW, ENFM
- (3) オート・メモリの使用を設定するためのスイッチ
DISAMEMO
- (4) 放送局検出に周波数カウンタの使用の有無を設定するためのスイッチ
ENFMIF, ENAMIF
- (5) プリセット・メモリ動作を設定するためのスイッチ
M2S
- (6) チューニング動作を設定するためのスイッチ
AUTO500
- (7) 表示の優先度を設定するためのスイッチ
PRIO1, PRIO2
- (8) ラジオのオン/オフを設定するためのスイッチ
RDON
- (9) 時計機能を設定するためのスイッチ
NOCLK, CLKDISP, FLASH
- (10) テープ機能を設定するためのスイッチ
KAMS, KNR, KMTL
- (11) ミュート出力を設定するためのスイッチ
MUTESEL
- (12) ローカル動作を設定するためのスイッチ
AUTOLOC

- (13) AMバンド (MW, LW) の中間周波数を設定するためのスイッチ
IFAM

- (14) VFバンドのオートリチューン (受信状態の悪化を検出して自動的にシーク・アップ動作を行う) 機能の有無を設定するためのスイッチ
VF1

- (15) MWバンドのステレオ受信機能の有無を設定するスイッチ
MWS

- (16) 時計なしのときのスタンバイ・モードを設定するためのスイッチ
CKHLT

- (17) 電子ボリュームのフェーダ機能の有無を設定するスイッチ
FAD_SEL

- (18) 電子ボリュームの各モードのコントロールを行うキー (VOL UP/VOL DWNまたはMAN UP/MAN DWN) を設定するスイッチ
VKYSEL

- (19) 電子ボリュームを設定するスイッチ
EVOLSEL

- (20) 使用するLCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバを設定するためのスイッチ
KLCD

- (21) 電子ボリューム内蔵の初段アンプのアッテネータを設定するためのスイッチ (電子ボリュームA使用時のみ)
VOLATT_H
VOLATT_L

これらのスイッチの設定はマトリクス上をダイオードでショートするか、またはオープンにして設定してください。次に、初期設定ダイオード・マトリクスの機能について説明します。

記号	機能説明																																																																														
<p>AREA1 AREA2 AREA3</p>	<p>受信地域を設定するためのスイッチです。 次のように設定されます。 各地域における受信周波数などは、機能の概要を参照してください。</p> <table border="1" data-bbox="420 342 1059 748"> <thead> <tr> <th>AREA3</th> <th>AREA2</th> <th>AREA1</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>西欧</td></tr> <tr><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>豪州、中近東</td></tr> <tr><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>日本</td></tr> <tr><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>米国1</td></tr> <tr><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>米国2</td></tr> <tr><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>東欧</td></tr> <tr><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>米国3</td></tr> <tr><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>中国</td></tr> </tbody> </table> <p>(1：ダイオードでショート 0：オープン)</p>	AREA3	AREA2	AREA1	地域	0	0	0	西欧	0	0	1	豪州、中近東	0	1	0	日本	0	1	1	米国1	1	0	0	米国2	1	0	1	東欧	1	1	0	米国3	1	1	1	中国																																										
AREA3	AREA2	AREA1	地域																																																																												
0	0	0	西欧																																																																												
0	0	1	豪州、中近東																																																																												
0	1	0	日本																																																																												
0	1	1	米国1																																																																												
1	0	0	米国2																																																																												
1	0	1	東欧																																																																												
1	1	0	米国3																																																																												
1	1	1	中国																																																																												
<p>DISFM3 ENMW2 DISLW ENFM</p>	<p>受信バンドを設定するためのスイッチです。 各スイッチにより次のように設定されます。</p> <p>○DISFM3……1にすることによりFM3バンドを禁止します。 ○ENMW2……1にすることによりMW2バンドを有効にします。 ○DISLW ……西欧、東欧において1にすることによりLWバンドを禁止します。 DISLWスイッチは西欧、東欧以外の地域では無効となります。 ○ENFM ……1にすることにより受信バンドをFMバンドのみにします。 これらのスイッチにより各地域における受信バンドは次のように設定されます。</p> <table border="1" data-bbox="420 1155 1400 1832"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>ENFM</th> <th>DISFM3</th> <th>ENMW2</th> <th>DISLW</th> <th>受信バンド</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">西欧 東欧</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>FM1, FM2, FM3</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>FM1, FM2</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>FM1, FM2, FM3, MW1, LW</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>FM1, FM2, FM3, MW1</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>FM1, FM2, FM3, MW1, MW2</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>FM1, FM2, MW1, LW</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>FM1, FM2, MW1</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>FM1, FM2, MW1, MW2</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">その他の地域</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>FM1, FM2, FM3</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>FM1, FM2</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>—</td> <td>FM1, FM2, FM3, MW1,</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>FM1, FM2, FM3, MW1, MW2</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>—</td> <td>FM1, FM2, MW1</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>FM1, FM2, MW1, MW2</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1：ダイオードでショート 0：オープン —：Don't care)</p>	地域	ENFM	DISFM3	ENMW2	DISLW	受信バンド	西欧 東欧	1	0	—	—	FM1, FM2, FM3	1	1	—	—	FM1, FM2	0	0	0	0	FM1, FM2, FM3, MW1, LW	0	0	0	1	FM1, FM2, FM3, MW1	0	0	1	—	FM1, FM2, FM3, MW1, MW2	0	1	0	0	FM1, FM2, MW1, LW	0	1	0	1	FM1, FM2, MW1	0	1	1	—	FM1, FM2, MW1, MW2	その他の地域	1	0	—	—	FM1, FM2, FM3	1	1	—	—	FM1, FM2	0	0	0	—	FM1, FM2, FM3, MW1,	0	0	1	—	FM1, FM2, FM3, MW1, MW2	0	1	0	—	FM1, FM2, MW1	0	1	1	—	FM1, FM2, MW1, MW2
地域	ENFM	DISFM3	ENMW2	DISLW	受信バンド																																																																										
西欧 東欧	1	0	—	—	FM1, FM2, FM3																																																																										
	1	1	—	—	FM1, FM2																																																																										
	0	0	0	0	FM1, FM2, FM3, MW1, LW																																																																										
	0	0	0	1	FM1, FM2, FM3, MW1																																																																										
	0	0	1	—	FM1, FM2, FM3, MW1, MW2																																																																										
	0	1	0	0	FM1, FM2, MW1, LW																																																																										
	0	1	0	1	FM1, FM2, MW1																																																																										
	0	1	1	—	FM1, FM2, MW1, MW2																																																																										
その他の地域	1	0	—	—	FM1, FM2, FM3																																																																										
	1	1	—	—	FM1, FM2																																																																										
	0	0	0	—	FM1, FM2, FM3, MW1,																																																																										
	0	0	1	—	FM1, FM2, FM3, MW1, MW2																																																																										
	0	1	0	—	FM1, FM2, MW1																																																																										
	0	1	1	—	FM1, FM2, MW1, MW2																																																																										

記号	機能説明						
M2S	<p>プリセット・メモリの書き込み方法を設定するスイッチです。 次のように設定されます。</p> <table border="1" data-bbox="368 291 1348 470"> <thead> <tr> <th>M2S</th> <th>書き込み方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td><input type="checkbox"/> ME キーによる5秒間書き込み可能状態中に <input type="checkbox"/> M1(TP1) ~ <input type="checkbox"/> M6 キーを押すことにより書き込みます。</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td><input type="checkbox"/> M1(TP1) ~ <input type="checkbox"/> M6 キーを2秒以上押し続けることにより書き込みます。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1:ダイオードでショート 0:オープン)</p> <p>詳しくは <input type="checkbox"/> ME , <input type="checkbox"/> M1(TP1) ~ <input type="checkbox"/> M6 の項を参照してください。</p>	M2S	書き込み方法	0	<input type="checkbox"/> ME キーによる5秒間書き込み可能状態中に <input type="checkbox"/> M1(TP1) ~ <input type="checkbox"/> M6 キーを押すことにより書き込みます。	1	<input type="checkbox"/> M1(TP1) ~ <input type="checkbox"/> M6 キーを2秒以上押し続けることにより書き込みます。
M2S	書き込み方法						
0	<input type="checkbox"/> ME キーによる5秒間書き込み可能状態中に <input type="checkbox"/> M1(TP1) ~ <input type="checkbox"/> M6 キーを押すことにより書き込みます。						
1	<input type="checkbox"/> M1(TP1) ~ <input type="checkbox"/> M6 キーを2秒以上押し続けることにより書き込みます。						
AUTO500	<p><input type="checkbox"/> MAN UP および <input type="checkbox"/> MAN DWN キーの機能を設定するスイッチです。このスイッチにより、 <input type="checkbox"/> MAN UP , <input type="checkbox"/> MAN DWN キーを、オートチューニング（シーク動作）キーとして兼用することができます。次のように設定されます。</p> <table border="1" data-bbox="368 694 1348 1064"> <thead> <tr> <th>AUTO500</th> <th><input type="checkbox"/> MAN UP , <input type="checkbox"/> MAN DWN キーの機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>マニュアル・チューニングのみ行います。 1回押すごとに1チャンネルだけアップまたはダウンし、0.5秒以上押し続けることによりマニュアル早送りを行います。</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>マニュアル・チューニングおよびオートチューニングを行います。 1回押すごとに1チャンネルだけアップまたはダウンし、0.5秒以上押し続けると、次のチャンネルからオートチューニング（シーク動作）を行います。 <input type="checkbox"/> SEEK UP キーおよび <input type="checkbox"/> SEEK DWN キーは無効となります。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1:ダイオードでショート 0:オープン)</p>	AUTO500	<input type="checkbox"/> MAN UP , <input type="checkbox"/> MAN DWN キーの機能	0	マニュアル・チューニングのみ行います。 1回押すごとに1チャンネルだけアップまたはダウンし、0.5秒以上押し続けることによりマニュアル早送りを行います。	1	マニュアル・チューニングおよびオートチューニングを行います。 1回押すごとに1チャンネルだけアップまたはダウンし、0.5秒以上押し続けると、次のチャンネルからオートチューニング（シーク動作）を行います。 <input type="checkbox"/> SEEK UP キーおよび <input type="checkbox"/> SEEK DWN キーは無効となります。
AUTO500	<input type="checkbox"/> MAN UP , <input type="checkbox"/> MAN DWN キーの機能						
0	マニュアル・チューニングのみ行います。 1回押すごとに1チャンネルだけアップまたはダウンし、0.5秒以上押し続けることによりマニュアル早送りを行います。						
1	マニュアル・チューニングおよびオートチューニングを行います。 1回押すごとに1チャンネルだけアップまたはダウンし、0.5秒以上押し続けると、次のチャンネルからオートチューニング（シーク動作）を行います。 <input type="checkbox"/> SEEK UP キーおよび <input type="checkbox"/> SEEK DWN キーは無効となります。						
AUTOLOC	<p>ローカル機能を設定するためのスイッチです。 次のように設定されます。</p> <table border="1" data-bbox="368 1198 1348 2049"> <thead> <tr> <th>AUTOLOC</th> <th>ローカル機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>キー入力によるLOCAL/DXの切り替えを行います（オートローカル機能なし）。 <input type="checkbox"/> LOC キーを押すごとにローカル状態とDX状態を反転します。 ローカル出力は、オートチューニング（シーク、スキャン、オートストア）中のローカル時のみハイ・レベルを出力します。</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>オートローカルを行います（オートローカル機能あり）。 <input type="checkbox"/> LOC キーは無効となります。 <input type="checkbox"/> SEEK UP , <input type="checkbox"/> SEEK DWN , <input type="checkbox"/> SCAN UP , <input type="checkbox"/> SCAN DWN キー、または <input type="checkbox"/> P.SCAN キーを2秒以上押し続けることにより、オートチューニングになると“LOC”表示を点灯し、ローカル出力をハイ・レベルにしてオートチューニングを行います。オートチューニングが1周すると、DXモード（“LOC”表示オフ、ローカル出力=ロウ・レベル）でサーチします。 オートチューニング中以外は“LOC”表示を消灯し、ローカル出力はロウ・レベルになります。オートチューニング中に同一キー（シーク・アップ中に <input type="checkbox"/> SEEK UP キーなど）を押すと、ローカル中であればオートチューニングを始めたときの周波数からDXでサーチし、DX中であれば、オートチューニングをストップし、オートチューニングを始めたときの周波数に戻ります。 AUTO500スイッチを1（ <input type="checkbox"/> MAN UP , <input type="checkbox"/> MAN DWN キーを0.5秒押すことによるオートチューニング）に設定したときの動作も上記と同様になります。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1:ダイオードでショート 0:オープン)</p>	AUTOLOC	ローカル機能	0	キー入力によるLOCAL/DXの切り替えを行います（オートローカル機能なし）。 <input type="checkbox"/> LOC キーを押すごとにローカル状態とDX状態を反転します。 ローカル出力は、オートチューニング（シーク、スキャン、オートストア）中のローカル時のみハイ・レベルを出力します。	1	オートローカルを行います（オートローカル機能あり）。 <input type="checkbox"/> LOC キーは無効となります。 <input type="checkbox"/> SEEK UP , <input type="checkbox"/> SEEK DWN , <input type="checkbox"/> SCAN UP , <input type="checkbox"/> SCAN DWN キー、または <input type="checkbox"/> P.SCAN キーを2秒以上押し続けることにより、オートチューニングになると“LOC”表示を点灯し、ローカル出力をハイ・レベルにしてオートチューニングを行います。オートチューニングが1周すると、DXモード（“LOC”表示オフ、ローカル出力=ロウ・レベル）でサーチします。 オートチューニング中以外は“LOC”表示を消灯し、ローカル出力はロウ・レベルになります。オートチューニング中に同一キー（シーク・アップ中に <input type="checkbox"/> SEEK UP キーなど）を押すと、ローカル中であればオートチューニングを始めたときの周波数からDXでサーチし、DX中であれば、オートチューニングをストップし、オートチューニングを始めたときの周波数に戻ります。 AUTO500スイッチを1（ <input type="checkbox"/> MAN UP , <input type="checkbox"/> MAN DWN キーを0.5秒押すことによるオートチューニング）に設定したときの動作も上記と同様になります。
AUTOLOC	ローカル機能						
0	キー入力によるLOCAL/DXの切り替えを行います（オートローカル機能なし）。 <input type="checkbox"/> LOC キーを押すごとにローカル状態とDX状態を反転します。 ローカル出力は、オートチューニング（シーク、スキャン、オートストア）中のローカル時のみハイ・レベルを出力します。						
1	オートローカルを行います（オートローカル機能あり）。 <input type="checkbox"/> LOC キーは無効となります。 <input type="checkbox"/> SEEK UP , <input type="checkbox"/> SEEK DWN , <input type="checkbox"/> SCAN UP , <input type="checkbox"/> SCAN DWN キー、または <input type="checkbox"/> P.SCAN キーを2秒以上押し続けることにより、オートチューニングになると“LOC”表示を点灯し、ローカル出力をハイ・レベルにしてオートチューニングを行います。オートチューニングが1周すると、DXモード（“LOC”表示オフ、ローカル出力=ロウ・レベル）でサーチします。 オートチューニング中以外は“LOC”表示を消灯し、ローカル出力はロウ・レベルになります。オートチューニング中に同一キー（シーク・アップ中に <input type="checkbox"/> SEEK UP キーなど）を押すと、ローカル中であればオートチューニングを始めたときの周波数からDXでサーチし、DX中であれば、オートチューニングをストップし、オートチューニングを始めたときの周波数に戻ります。 AUTO500スイッチを1（ <input type="checkbox"/> MAN UP , <input type="checkbox"/> MAN DWN キーを0.5秒押すことによるオートチューニング）に設定したときの動作も上記と同様になります。						

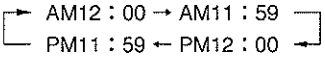
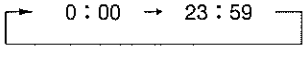
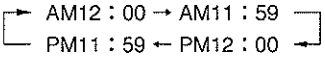
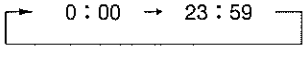
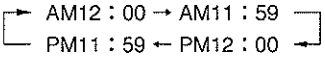
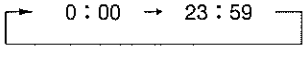
記号	説明		
<p>PRIO1</p> <p>PRIO2</p>	<p>優先表示を設定するためのスイッチです。</p> <p>優先表示とは、表示が切り替わったあと何もしなければ、5秒後にその表示に復帰する表示のことで、 なお初期設定ダイオードNOCLK=0（時計あり）のときのみ、PRIO1およびPRIO2スイッチの状態により優先表示を決定します。NOCLK=1（時計なし）のときはPRIO1およびPRIO2スイッチの状態を無視します。</p>		
<p>PRIO1</p> <p>PRIO2</p> <p>0</p> <p>0</p>	<p>優先表示</p> <p>なし</p>	<p>説明</p>	<p>表示の切り替えは <input type="checkbox"/> DISP キーおよび選局キー（時計表示中）を操作したときに行います。</p> <p>○ラジオ・モード時 <input type="checkbox"/> DISP キーを押すごとに周波数表示と時計表示を切り替えます。 時計表示中に選局キーを押すと周波数表示となります。</p> <p>○テープ・モード時 <input type="checkbox"/> DISP キーを押すごとに“TAPE”表示と時計表示を切り替えます。</p> <p>○CDモード時 <input type="checkbox"/> DISP キーを押すごとに“CD”表示と時計表示を切り替えます。</p> <p>○テープDKスタンバイ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード時 <input type="checkbox"/> DISP キーを押すごとに、“TAPE”表示、周波数表示および時計表示を切り替えます。 “TAPE”および時計表示中に選局キーを押すと、周波数表示になります。 最初にテープDKスタンバイ・モードおよびテープ・ラジオ・モニタ・モードになったときは周波数表示となります。</p> <p>○CD・DKスタンバイ・モード、CDラジオ・モニタ・モード時 <input type="checkbox"/> DISP キーを押すごとに、“CD”表示、周波数表示および時計表示を切り替えます。 “CD”および時計表示中に選局キーを押すと、周波数表示になります。 最初にCD・DKスタンバイ・モードおよびCDラジオ・モニタ・モードになったときは周波数表示になります。</p> <p>○テープDKオン・モード、CD・DKオン・モード時 周波数表示となります。 <input type="checkbox"/> DISP キーは無効となります。</p>
<p>(0：オープン)</p>			

記号	説明		
PRIO1			
PRIO2	PRIO1	PRIO2	優先表示 説明
	1	0	<p>周波数または“$\square d$”または“TAPPE”表示から \square DISP キーにより時計表示にすると、何の操作もしなければ5秒後に元の表示に戻ります。</p> <p>○ラジオ・モード時 通常周波数表示をしており、\square DISP キーを押すと、5秒間時計表示となります。 5秒間の時計表示中に再度 \square DISP キーを押すか、選局キーを押すと、周波数表示に戻ります。</p> <p>○テープ・モード時 通常“TAPPE”表示をしており、\square DISP キーを押すと、5秒間時計表示となります。 5秒間の時計表示中に再度 \square DISP キーを押すと、“TAPPE”表示に戻ります。</p> <p>○CDモード時 通常“$\square d$”表示をしており、\square DISP キーを押すと、5秒間時計表示となります。 5秒間の時計表示中に再度 \square DISP キーを押すと、“$\square d$”表示に戻ります。</p> <p>○テープDKスタンバイ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード時 通常“TAPPE”表示をしており、\square DISP キーを押すと、5秒間周波数表示となります。 5秒間の周波数表示中に再度 \square DISP キーを押すと、時計表示となります。 5秒間の時計表示中に再度 \square DISP キーを押すと、“TAPPE”表示に戻ります。 “TAPPE”および時計表示中に選局キーを押すと、5秒間周波数表示になります。</p> <p>○CD・DKスタンバイ・モード、CDラジオ・モニタ・モード時 通常“$\square d$”表示をしており、\square DISP キーを押すと、5秒間周波数表示となります。 5秒間の周波数表示中に再度 \square DISP キーを押すと、時計表示となります。 5秒間の時計表示中に再度 \square DISP キーを押すと、“$\square d$”表示に戻ります。 “$\square d$”および時計表示中に選局キーを押すと、5秒間周波数表示になります。</p> <p>○テープDKオン・モード、CD・DKオン・モード時 周波数表示になります。 \square DISP キーは無効となります。</p>

(1 : ダイオードでショート 0 : オープン)

記号	説明			
PRIO1				
PRIO2	PRIO1	PRIO2	優先表示	説明
	0	1	時計	<p>時計表示優先となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ラジオ・モード時 通常時計表示をしており、<input type="checkbox"/> DISP キーを押すと、5秒間周波数表示となります。 5秒間の周波数表示中に再度 <input type="checkbox"/> DISP キーを押すと、時計表示に戻ります。 ○テープ・モード時 通常時計表示をしており、<input type="checkbox"/> DISP キーを押すと、5秒間“TAPE”表示となります。 5秒間の“TAPE”表示中に再度 <input type="checkbox"/> DISP キーを押すと、時計表示に戻ります。 ○CDモード時 通常時計表示をしており、<input type="checkbox"/> DISP キーを押すと、5秒間“CD”表示となります。 5秒間の“CD”表示中に再度 <input type="checkbox"/> DISP キーを押すと、時計表示に戻ります。 ○テープDKスタンバイ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード時 通常時計表示をしており、<input type="checkbox"/> DISP キーを押すことにより5秒間“TAPE”表示となります。5秒間の“TAPE”表示中に再度 <input type="checkbox"/> DISP キーを押すと、周波数表示になります。 5秒間の周波数表示中に再度 <input type="checkbox"/> DISP キーを押すと、時計表示に戻ります。 “TAPE”および時計表示中に選局キーを押すと、5秒間周波数表示になります。 ○CD・DKスタンバイ・モード、CDモード時 通常時計表示をしており、<input type="checkbox"/> DISP キーを押すと、5秒間“CD”表示となります。 5秒間の“CD”表示中に再度 <input type="checkbox"/> DISP キーを押すと、周波数表示になります。 5秒間の周波数表示中に再度 <input type="checkbox"/> DISP キーを押すと、時計表示に戻ります。 “CD”および時計表示中に選局キーを押すと、5秒間周波数表示になります。 ○テープDKオン・モード、CD・DKオン・モード時 周波数表示になります。 <input type="checkbox"/> DISP キーは無効となります。
	1	1	—	このモードに設定しないでください。

(1 : ダイオードでショート 0 : オープン)

記号	説明															
PRIO1 PRIO2	<p>時計なし (NOCLK=1) のときは、PRIO1, PRIO2スイッチに関係なく次の表示になります。また DISP キーは無効になります。</p> <table border="1" data-bbox="373 293 1052 741"> <thead> <tr> <th>モード</th> <th>表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ラジオ・モード</td> <td>周波数</td> </tr> <tr> <td>テープ・モード</td> <td>TAPE</td> </tr> <tr> <td>CDモード</td> <td>CD</td> </tr> <tr> <td>●テープDKスタンバイ・モード</td> <td rowspan="6">周波数</td> </tr> <tr> <td>●CD・DKスタンバイ・モード</td> </tr> <tr> <td>●テープDKオン・モード</td> </tr> <tr> <td>●CD・DKオン・モード</td> </tr> <tr> <td>●テープ・ラジオ・モニタ・モード</td> </tr> <tr> <td>●CDラジオ・モニタ・モード</td> </tr> </tbody> </table>	モード	表示	ラジオ・モード	周波数	テープ・モード	TAPE	CDモード	CD	●テープDKスタンバイ・モード	周波数	●CD・DKスタンバイ・モード	●テープDKオン・モード	●CD・DKオン・モード	●テープ・ラジオ・モニタ・モード	●CDラジオ・モニタ・モード
モード	表示															
ラジオ・モード	周波数															
テープ・モード	TAPE															
CDモード	CD															
●テープDKスタンバイ・モード	周波数															
●CD・DKスタンバイ・モード																
●テープDKオン・モード																
●CD・DKオン・モード																
●テープ・ラジオ・モニタ・モード																
●CDラジオ・モニタ・モード																
RDON	<p>ラジオのオン/オフの方法を設定するためのスイッチです。 次のように設定されます。</p> <table border="1" data-bbox="373 882 1149 1059"> <thead> <tr> <th>RDON</th> <th>ラジオ・オン/オフの方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>RDSETスイッチをオンすることによりラジオがオンします。</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>CE端子をハイ・レベルにすることによりラジオがオンします。 RDSETスイッチは無効となります。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1 : ダイオードでショート 0 : オープン)</p>	RDON	ラジオ・オン/オフの方法	0	RDSETスイッチをオンすることによりラジオがオンします。	1	CE端子をハイ・レベルにすることによりラジオがオンします。 RDSETスイッチは無効となります。									
RDON	ラジオ・オン/オフの方法															
0	RDSETスイッチをオンすることによりラジオがオンします。															
1	CE端子をハイ・レベルにすることによりラジオがオンします。 RDSETスイッチは無効となります。															
NOCLK	<p>時計の有無を設定するためのスイッチです。 次のように設定されます。</p> <table border="1" data-bbox="373 1196 788 1330"> <thead> <tr> <th>NOCLK</th> <th>時計の有無</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>あり</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>なし</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1 : ダイオードでショート 0 : オープン)</p> <p>時計なしモードではCE端子をロウ・レベルにすることにより低消費電流 (10 μA MAX.) でのバックアップが可能となります。</p>	NOCLK	時計の有無	0	あり	1	なし									
NOCLK	時計の有無															
0	あり															
1	なし															
CLKDISP	<p>時計の時間制を設定するためのスイッチです。 次のように設定されます。</p> <table border="1" data-bbox="373 1554 937 1872"> <thead> <tr> <th>CLKDISP</th> <th>時間制</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td> 12時間制  </td> </tr> <tr> <td>1</td> <td> 24時間制  </td> </tr> </tbody> </table> <p>(1 : ダイオードでショート 0 : オープン)</p>	CLKDISP	時間制	0	12時間制 	1	24時間制 									
CLKDISP	時間制															
0	12時間制 															
1	24時間制 															

記号	説明						
FLASH	<p>時計のコロン（:）表示を設定するためのスイッチです。 次のように設定されます。</p> <table border="1" data-bbox="415 297 1012 521"> <thead> <tr> <th>FLASH</th> <th>コロン（:）表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>常灯</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>点滅 ●周波数；1 Hz ●デューティ；6（点灯）：4（消灯）</td> </tr> </tbody> </table> <p>（1：ダイオードでショート 0：オープン）</p>	FLASH	コロン（:）表示	0	常灯	1	点滅 ●周波数；1 Hz ●デューティ；6（点灯）：4（消灯）
FLASH	コロン（:）表示						
0	常灯						
1	点滅 ●周波数；1 Hz ●デューティ；6（点灯）：4（消灯）						
CKHLT	<p>初期設定ダイオードNOCLK=1でCE=ロウ・レベルとなったときに、STOPモードかHALTモードのどちらのスタンバイ・モードを使用するかを設定するためのスイッチです。</p> <table border="1" data-bbox="415 660 863 792"> <thead> <tr> <th>CKHLT</th> <th>CE=ロウ・レベル時</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>STOPモード</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>HALTモード</td> </tr> </tbody> </table> <p>（1：ダイオードでショート 0：オープン）</p>	CKHLT	CE=ロウ・レベル時	0	STOPモード	1	HALTモード
CKHLT	CE=ロウ・レベル時						
0	STOPモード						
1	HALTモード						

記号	説明																																																																									
KAMS KNR KMTL	<p>テープ機能 (AMS, NR, MTL) をラジオ機能キーと共用させるためのキーです。</p> <p>次のように共用できるキーを選択できます。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">KAMS</th> <th rowspan="2">KNR</th> <th rowspan="2">KMTL</th> <th colspan="3">共用キー</th> </tr> <tr> <th>M1 (TP1)</th> <th>M2 (TP2)</th> <th>M3 (TP3)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>AMS</td><td>NR</td><td>MTL</td></tr> <tr><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>AMS</td><td>NR</td><td>—</td></tr> <tr><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>AMS</td><td>MTL</td><td>—</td></tr> <tr><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>AMS</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>NR</td><td>MTL</td><td>—</td></tr> <tr><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>NR</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>MTL</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> </tbody> </table> <p>(1: ダイオードでショート 0: オープン)</p> <p>これらのテープ兼用機能を使用すると、テープDKスタンバイ・モードでの M1 (TP1) ~ M6 キーの動作は次のようになります。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>KAMS</th> <th>KNR</th> <th>KMTL</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td> M1 (TP1) ~ M6 キーはプリセット・メモリ呼び出しおよび書き込みキーとして動作します(ラジオ機能)。 </td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">どれか1つでも1のとき</td> <td> M1 (TP1) ~ M6 キーはラジオ機能キーとして動作しません。 なお、テープ機能を共用している M1 (TP1) ~ M3 (TP3) キーはテープ機能キーとして動作します。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>(1: ダイオードでショート 0: オープン)</p> <p>なお、KAMS, KNRおよびKMTLの状態にかかわらず、次のモードでは、プリセット・メモリ呼び出しおよび書き込みキーとして動作します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●テープDKオン・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CD・DKオン・モード ●CD・DKスタンバイ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード 					KAMS	KNR	KMTL	共用キー			M1 (TP1)	M2 (TP2)	M3 (TP3)	1	1	1	AMS	NR	MTL	1	1	0	AMS	NR	—	1	0	1	AMS	MTL	—	1	0	0	AMS	—	—	0	1	1	NR	MTL	—	0	1	0	NR	—	—	0	0	1	MTL	—	—	0	0	0	—	—	—	KAMS	KNR	KMTL	説明	0	0	0	M1 (TP1) ~ M6 キーはプリセット・メモリ呼び出しおよび書き込みキーとして動作します(ラジオ機能)。	どれか1つでも1のとき			M1 (TP1) ~ M6 キーはラジオ機能キーとして動作しません。 なお、テープ機能を共用している M1 (TP1) ~ M3 (TP3) キーはテープ機能キーとして動作します。
KAMS	KNR	KMTL	共用キー																																																																							
			M1 (TP1)	M2 (TP2)	M3 (TP3)																																																																					
1	1	1	AMS	NR	MTL																																																																					
1	1	0	AMS	NR	—																																																																					
1	0	1	AMS	MTL	—																																																																					
1	0	0	AMS	—	—																																																																					
0	1	1	NR	MTL	—																																																																					
0	1	0	NR	—	—																																																																					
0	0	1	MTL	—	—																																																																					
0	0	0	—	—	—																																																																					
KAMS	KNR	KMTL	説明																																																																							
0	0	0	M1 (TP1) ~ M6 キーはプリセット・メモリ呼び出しおよび書き込みキーとして動作します(ラジオ機能)。																																																																							
どれか1つでも1のとき			M1 (TP1) ~ M6 キーはラジオ機能キーとして動作しません。 なお、テープ機能を共用している M1 (TP1) ~ M3 (TP3) キーはテープ機能キーとして動作します。																																																																							

記号	説明																														
MUTESEL	<p>テープ・モード時およびCDモード時のRDMUTE端子出力方法を設定します。 次のように設定されます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>MUTESEL</th> <th>RDMUTE端子出力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td> <p>テープ、CDモード時にミュートはオフします。</p> <p>MUTESEL=1としたときは、DKスタンバイおよびラジオ・モニタ機能は使用しないでください。</p> </td> </tr> <tr> <td>0</td> <td> <p>テープ、CDモード時にミュートはオンしたままとなります。</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p>(1：ダイオードでショート 0：オープン)</p> <p>詳しくは、5. ミュート出力タイミング・チャートを参照してください。</p>	MUTESEL	RDMUTE端子出力	1	<p>テープ、CDモード時にミュートはオフします。</p> <p>MUTESEL=1としたときは、DKスタンバイおよびラジオ・モニタ機能は使用しないでください。</p>	0	<p>テープ、CDモード時にミュートはオンしたままとなります。</p>																								
MUTESEL	RDMUTE端子出力																														
1	<p>テープ、CDモード時にミュートはオフします。</p> <p>MUTESEL=1としたときは、DKスタンバイおよびラジオ・モニタ機能は使用しないでください。</p>																														
0	<p>テープ、CDモード時にミュートはオンしたままとなります。</p>																														
ENFMIF ENAMIF	<p>放送局検出に周波数カウンタの使用の有無を設定するためのスイッチです。 次のように設定されます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ENFMIF</th> <th rowspan="2">ENAMIF</th> <th colspan="2">放送局検出方法</th> </tr> <tr> <th>バンド</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">1</td> <td rowspan="2">1</td> <td>FM, VF</td> <td>周波数カウンタとSD方式</td> </tr> <tr> <td>MW, LW</td> <td>周波数カウンタとSD方式</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1</td> <td rowspan="2">0</td> <td>FM, VF</td> <td>周波数カウンタとSD方式</td> </tr> <tr> <td>MW, LW</td> <td>SD方式</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">0</td> <td rowspan="2">1</td> <td>FM, VF</td> <td>SD方式</td> </tr> <tr> <td>MW, LW</td> <td>周波数カウンタとSD方式</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">0</td> <td rowspan="2">0</td> <td>FM, VF</td> <td>SD方式</td> </tr> <tr> <td>MW, LW</td> <td>SD方式</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1：ダイオードでショート 0：オープン)</p>	ENFMIF	ENAMIF	放送局検出方法		バンド		1	1	FM, VF	周波数カウンタとSD方式	MW, LW	周波数カウンタとSD方式	1	0	FM, VF	周波数カウンタとSD方式	MW, LW	SD方式	0	1	FM, VF	SD方式	MW, LW	周波数カウンタとSD方式	0	0	FM, VF	SD方式	MW, LW	SD方式
ENFMIF	ENAMIF			放送局検出方法																											
		バンド																													
1	1	FM, VF	周波数カウンタとSD方式																												
		MW, LW	周波数カウンタとSD方式																												
1	0	FM, VF	周波数カウンタとSD方式																												
		MW, LW	SD方式																												
0	1	FM, VF	SD方式																												
		MW, LW	周波数カウンタとSD方式																												
0	0	FM, VF	SD方式																												
		MW, LW	SD方式																												
DISAMEMO	<p>オートストア・メモリ機能を禁止するためのスイッチです。 次のように設定されます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>DISAMEMO</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td> <p>オートストア・メモリ機能を使用できます。 P.SCAN キーを2秒以上押し続けるとオートストア・メモリ動作を始めます。</p> </td> </tr> <tr> <td>1</td> <td> <p>オートストア・メモリ機能を禁止します。 P.SCAN キーはプリセット・スキャン機能のみとなります。</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p>(1：ダイオードでショート 0：オープン)</p>	DISAMEMO	説明	0	<p>オートストア・メモリ機能を使用できます。 P.SCAN キーを2秒以上押し続けるとオートストア・メモリ動作を始めます。</p>	1	<p>オートストア・メモリ機能を禁止します。 P.SCAN キーはプリセット・スキャン機能のみとなります。</p>																								
DISAMEMO	説明																														
0	<p>オートストア・メモリ機能を使用できます。 P.SCAN キーを2秒以上押し続けるとオートストア・メモリ動作を始めます。</p>																														
1	<p>オートストア・メモリ機能を禁止します。 P.SCAN キーはプリセット・スキャン機能のみとなります。</p>																														

記号	説明						
IFAM	<p>AMバンド (MW, LW) の中間周波数を設定するためのスイッチです。 次のように設定されます。</p> <table border="1" data-bbox="373 297 788 432"> <thead> <tr> <th>IFAM</th> <th>中間周波数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>450 kHz</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>10.71 MHz</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1 : ダイオードでショート 0 : オープン)</p>	IFAM	中間周波数	0	450 kHz	1	10.71 MHz
IFAM	中間周波数						
0	450 kHz						
1	10.71 MHz						
VF1	<p>VFバンドのオートリチューン (受信状態の悪化を検出して自動的にシーク・アップ動作を行う) 機能の有無を設定するスイッチです。 次のように設定されます。</p> <table border="1" data-bbox="373 611 1354 835"> <thead> <tr> <th>VF1</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>VFバンドのオートリチューン機能を使用します。</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>VFバンドのオートリチューン機能を禁止します。 ただしVFバンド選択時に交通情報局を受信していなかった場合のみシーク・アップ動作を行い、交通情報局の検出を行います。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1 : ダイオードでショート 0 : オープン)</p>	VF1	説明	1	VFバンドのオートリチューン機能を使用します。	0	VFバンドのオートリチューン機能を禁止します。 ただしVFバンド選択時に交通情報局を受信していなかった場合のみシーク・アップ動作を行い、交通情報局の検出を行います。
VF1	説明						
1	VFバンドのオートリチューン機能を使用します。						
0	VFバンドのオートリチューン機能を禁止します。 ただしVFバンド選択時に交通情報局を受信していなかった場合のみシーク・アップ動作を行い、交通情報局の検出を行います。						
MWS	<p>MWバンドのステレオ受信機能の有無を設定するスイッチです。 次のように設定されます。</p> <table border="1" data-bbox="373 972 1354 1106"> <thead> <tr> <th>MWS</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>MWバンドのステレオ受信機能を使用します。</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>MWバンドのステレオ受信機能を禁止します。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1 : ダイオードでショート 0 : オープン)</p>	MWS	説明	1	MWバンドのステレオ受信機能を使用します。	0	MWバンドのステレオ受信機能を禁止します。
MWS	説明						
1	MWバンドのステレオ受信機能を使用します。						
0	MWバンドのステレオ受信機能を禁止します。						

記号	説明						
FAD_SEL	<p>電子ボリュームのフェーダ機能の有無を設定するためのスイッチです。 次のように設定されます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>FAD_SEL</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td> <p>フェーダ機能を有効にします。 電子ボリューム・モードは、VOL SEL を押すことにより、次のように切り替わります。</p> <pre> ① ボリューム → バス → トレブル ② フェーダ ←————— バランス </pre> </td> </tr> <tr> <td>1</td> <td> <p>フェーダ機能を無効にします。 電子ボリューム・モードは、VOL SEL を押すことにより、次のように切り替わります。</p> <pre> ① ボリューム ————— バス ② バランス ←————— トレブル </pre> </td> </tr> </tbody> </table> <p>(1 : ダイオードでショート 0 : オープン)</p>	FAD_SEL	説明	0	<p>フェーダ機能を有効にします。 電子ボリューム・モードは、VOL SEL を押すことにより、次のように切り替わります。</p> <pre> ① ボリューム → バス → トレブル ② フェーダ ←————— バランス </pre>	1	<p>フェーダ機能を無効にします。 電子ボリューム・モードは、VOL SEL を押すことにより、次のように切り替わります。</p> <pre> ① ボリューム ————— バス ② バランス ←————— トレブル </pre>
FAD_SEL	説明						
0	<p>フェーダ機能を有効にします。 電子ボリューム・モードは、VOL SEL を押すことにより、次のように切り替わります。</p> <pre> ① ボリューム → バス → トレブル ② フェーダ ←————— バランス </pre>						
1	<p>フェーダ機能を無効にします。 電子ボリューム・モードは、VOL SEL を押すことにより、次のように切り替わります。</p> <pre> ① ボリューム ————— バス ② バランス ←————— トレブル </pre>						
VKysel	<p>電子ボリューム・モードでのアップ/ダウンを行うキーを設定するスイッチです。 次のように設定されます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>VKysel</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td> <p>各電子ボリューム・モードのコントロールは、 VOL UP、VOL DWN キーで行います。</p> </td> </tr> <tr> <td>1</td> <td> <p>電子ボリューム・モードのコントロールは、 MAN UP、MAN DWN キーで行います。 VOL UP、VOL DWN キーでは行えません。</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p>(1 : ダイオードでショート 0 : オープン)</p>	VKysel	説明	0	<p>各電子ボリューム・モードのコントロールは、 VOL UP、VOL DWN キーで行います。</p>	1	<p>電子ボリューム・モードのコントロールは、 MAN UP、MAN DWN キーで行います。 VOL UP、VOL DWN キーでは行えません。</p>
VKysel	説明						
0	<p>各電子ボリューム・モードのコントロールは、 VOL UP、VOL DWN キーで行います。</p>						
1	<p>電子ボリューム・モードのコントロールは、 MAN UP、MAN DWN キーで行います。 VOL UP、VOL DWN キーでは行えません。</p>						
EVOLSEL	<p>電子ボリュームを設定するスイッチです。 次のように設定されます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>EVOLSEL</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>電子ボリュームAに対応します。</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>電子ボリュームBに対応します。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1 : ダイオードでショート 0 : オープン)</p>	EVOLSEL	説明	0	電子ボリュームAに対応します。	1	電子ボリュームBに対応します。
EVOLSEL	説明						
0	電子ボリュームAに対応します。						
1	電子ボリュームBに対応します。						
KLCD	<p>使用するLCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバを設定するためのスイッチです。 次のように設定されます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>KLCD</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td> <p>内蔵のLCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバを使用します。 モメンタリ・キーの読み込みはμPD17012GF-054側で行います。</p> </td> </tr> <tr> <td>1</td> <td> <p>外付けLCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ(μPD17202AGF-011)を使用します。 モメンタリ・キーの読み込みはμPD17202AGF-011側で行います。</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p>(1 : ダイオードでショート 0 : オープン)</p>	KLCD	説明	0	<p>内蔵のLCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバを使用します。 モメンタリ・キーの読み込みはμPD17012GF-054側で行います。</p>	1	<p>外付けLCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ(μPD17202AGF-011)を使用します。 モメンタリ・キーの読み込みはμPD17202AGF-011側で行います。</p>
KLCD	説明						
0	<p>内蔵のLCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバを使用します。 モメンタリ・キーの読み込みはμPD17012GF-054側で行います。</p>						
1	<p>外付けLCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ(μPD17202AGF-011)を使用します。 モメンタリ・キーの読み込みはμPD17202AGF-011側で行います。</p>						

記号	説明		
VOLATT_H VOLATT_L	電子ボリューム内蔵の初段アンプのアッテネータを設定するスイッチです（電子ボリュームA使用時のみ）。		
	VOLATT_H	VOLATT_L	ボリューム・アッテネータ (dB)
	0	0	11.25
	0	1	7.5
	1	0	0
	1	1	3.75
	(1：ダイオードでショート 0：オープン)		

2.5 オルタネートまたはトランジスタ・スイッチ

次の表の説明で、スイッチのオンはハイ・レベルが入力されていることを示し、スイッチのオフはロウ・レベルが入力されていることを示します。

記号	説明													
CDSET	CDモードにするためのスイッチです。 CE端子がハイ・レベルのときのみ有効になります。 このスイッチをオンすることにより、CDモードになります。													
TPSET	テープ・モードにするためのスイッチです。 CE端子がハイ・レベルのときのみ有効となります。 CDSETスイッチがオフのときに、このスイッチがオンしているとテープ・モードになります。													
RDSET	ラジオ・モードにするためのスイッチです。 CE端子がハイ・レベルのときのみ有効となります。 CDSET, TPSETスイッチがともにオフのとき、このスイッチがオンしているとラジオ・モードになります。 このスイッチは、初期設定ダイオードRDON=0のとき有効となり、RDON=1のときは無効となります。													
FF	テープ・モードの早送り信号入力スイッチです。 RLスイッチの状態により次のようにテープ走行表示 (◀▶) を点灯します。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>FF</th> <th>RL</th> <th>表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">0</td> <td>0</td> <td>◀▶</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>▶◀</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1</td> <td>0</td> <td>◀▶</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>▶◀</td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-left: 20px;">(▶：消灯 ◀：点灯 ▶：点滅 (2.5Hz) 0：オフ 1：オン)</p>	FF	RL	表示	0	0	◀▶	1	▶◀	1	0	◀▶	1	▶◀
FF	RL	表示												
0	0	◀▶												
	1	▶◀												
1	0	◀▶												
	1	▶◀												
RL	テープ・モード時の走行方向信号入力スイッチです。 FFスイッチの状態によりテープ走行方向 (◀▶) を点灯します。点灯内容はFFスイッチの項を参照してください。													

記号	説明
DTH	<p>着脱式パネルの着脱状態の入力スイッチです。</p> <p>このスイッチがオフしているとき、着脱式パネルが脱状態となります。</p>
ST	<p>ラジオ・モード時のステレオ信号入力スイッチです。</p> <p>ラジオ・モードでFMまたはVFバンド時、このスイッチがオンすると、“ST”表示を点灯します。</p> <p>またMWバンドがステレオ受信機能あり（初期設定ダイオードMWS=1）のとき、MWバンドでこのスイッチがオンしたときも“ST”表示を点灯します。</p> <p>ただしモノラル・オン状態では“ST”表示は消灯します。</p>
DK	<p>VF放送局のDK信号入力スイッチです。</p> <p>テープDKスタンバイおよびCD・DKスタンバイ・モード中にこのスイッチに2秒以上のハイ・レベルを入力すると交通情報受信中となり、テープDKオンおよびCD・DKオン・モードになります。</p>
SK	<p>VF放送局のSK信号入力スイッチです。</p> <p>FMバンドおよびVFバンド時、放送局あり（放送局ありの判定方法は初期設定ダイオードENFMIFにより決定します）の状態がこのスイッチにハイ・レベルを入力すると交通情報ありと判断します。</p> <p>VFバンド時はオートチューニングのストップ情報として使用します。VFバンドのオートチューニング時には、放送局ありと判断したあと、このスイッチを400 ms後にチェックし、ハイ・レベルを入力すると交通情報局ありと判断し、オートチューニングをストップします。</p>

2.6 モメンタリ・キー

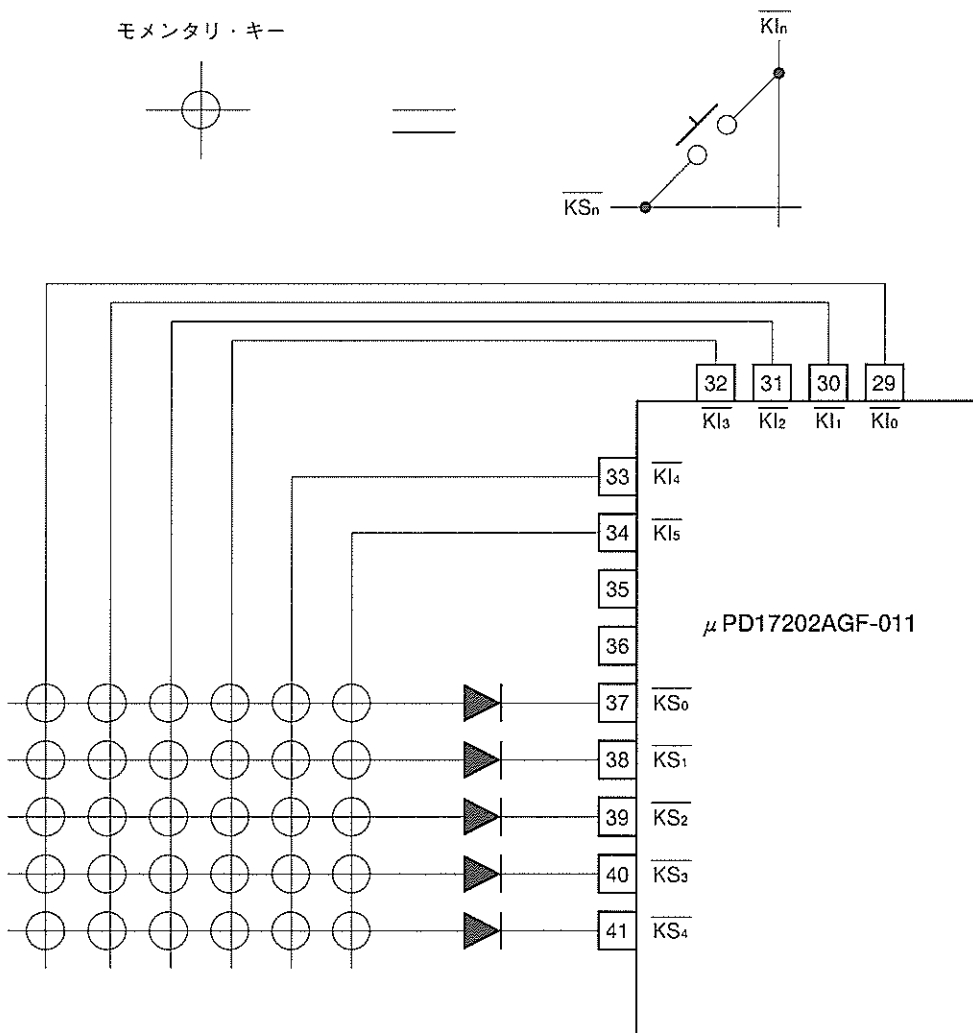
2.6.1 モメンタリ・キー・マトリクス配置 (KLCD = 1 (μPD17202AGF-011使用時))

キー・リターン (端子番号)						
キー・ソース (端子番号)	$\overline{KI_5}$ (34)	$\overline{KI_4}$ (33)	$\overline{KI_3}$ (32)	$\overline{KI_2}$ (31)	$\overline{KI_1}$ (30)	$\overline{KI_0}$ (29)
$\overline{KS_0}$ (37)	M1 (TP1)	M2 (TP2)	M3 (TP3)	M4	M5	M6
$\overline{KS_1}$ (38)	ME	DISP	P. SCAN	LOUD	LOC	MTL
$\overline{KS_2}$ (39)	MAN UP	MAN DWN	SEEK UP	SCAN UP	BAND	VF
$\overline{KS_3}$ (40)	SEEK DWN	SCAN DWN	MONO	AMS	NR	RDMONI
$\overline{KS_4}$ (41)	POWER	VOL SEL	VOL UP	VOL DWN	MUTE	CD

備考1. $\overline{KI_0}$ - $\overline{KI_5}$, $\overline{KS_0}$ - $\overline{KS_4}$ は, μPD17202AGF-011の端子です。

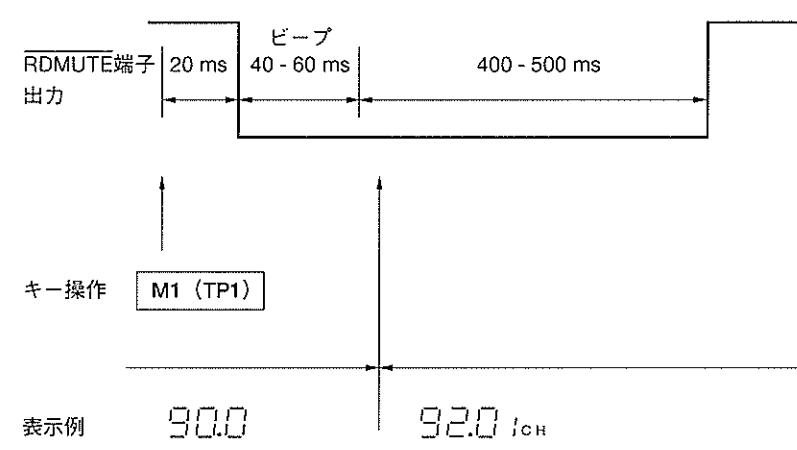
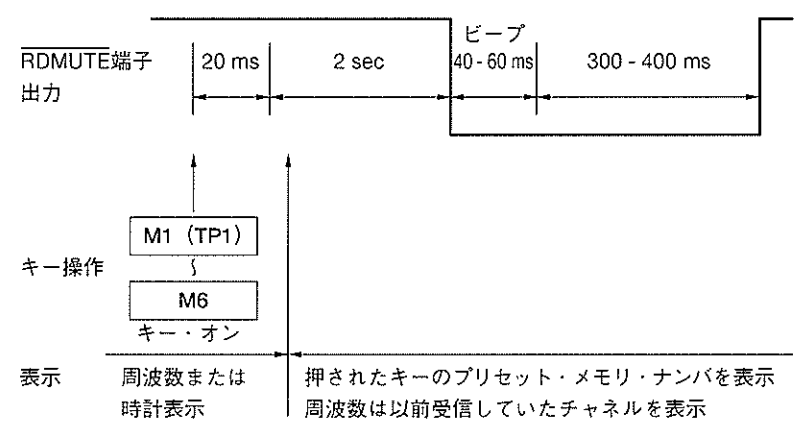
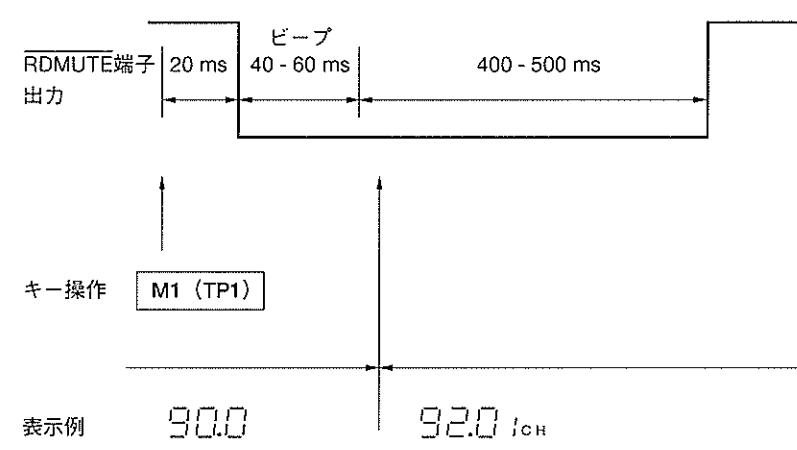
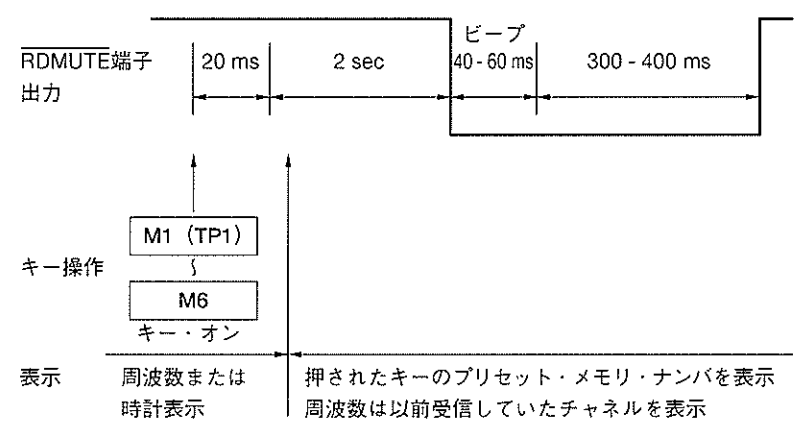
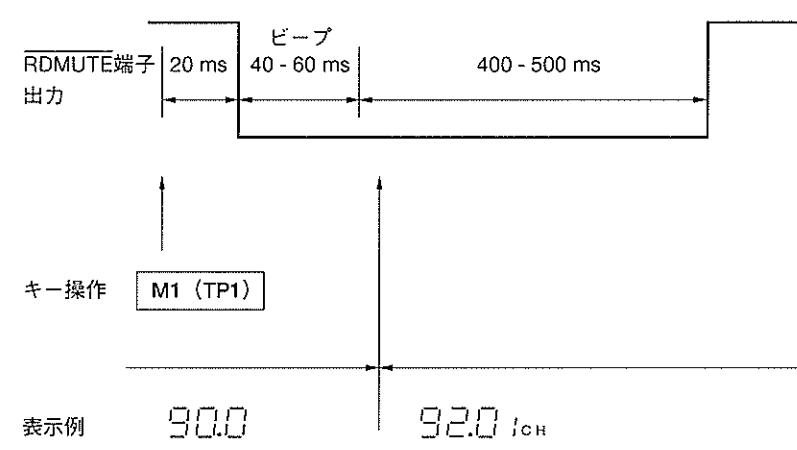
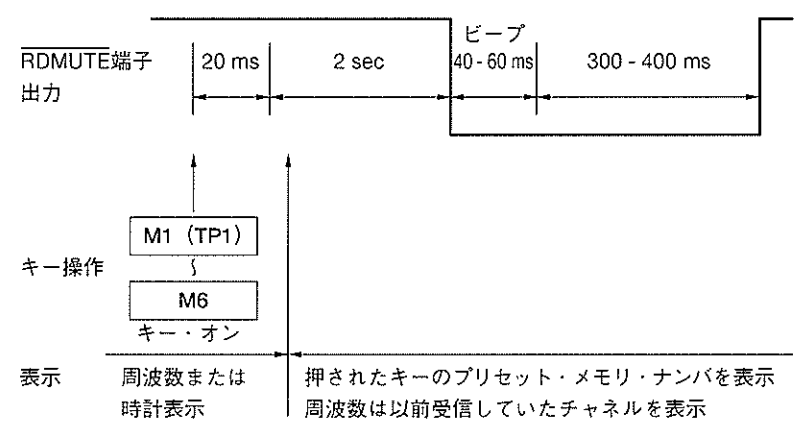
2. KLCDについては2.4 初期設定ダイオード・マトリクスを参照してください。

2.6.2 モメンタリ・キー・マトリクス接続 (KLCD = 1 (μPD17202AGF-011使用時))



2.6.3 モメンタリ・キーの説明 (KLCD=0 (内蔵LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ使用時) および KLCD=1 (μPD17202AGF-011使用時))

記号	説明				
M1 (TP1)	ラジオ・モード時は、プリセット・メモリ呼び出しおよび書き込み用キーとして使用します。				
M2 (TP2)	テープ・モード時は初期設定ダイオード (KAMS, KNR, KMTL) によりテープ機能キーとして使用することができます。				
M3 (TP3)					
M4					
M5	(1) ラジオ・モード, テープDKスタンバイ・モード, CD・DKスタンバイ・モード, テープDKオン・モード, CD・DKオン・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード時				
M6	プリセット・メモリ呼び出しおよび書き込み用のキーです。				
	1つのキーに対して、FM1, FM2, FM3, VF, MW1, MW2, LWバンドが独立に (MAX.6バンド) メモリできます。				
	初期設定ダイオードM2Sの状態により次のように動作します。				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="415 741 529 786">M2S</th> <th data-bbox="529 741 1397 786">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="415 786 529 1877">0</td> <td data-bbox="529 786 1397 1877"> <p>周波数表示中に ME キーを押すことにより、5秒間プリセット書き込み可能状態となります。この5秒間に M1 (TP1) ~ M6 キーのいずれか1つを押すことにより現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p> <p>ME キーを押し続けていると書き込みは行えません。書き込み時はラジオ・ミュートは出力しません。</p> <p>“CH” 表示およびプリセット・ナンバ (プリセット・ナンバ表示状態のとき) を 1 Hz、デューティ1/2で点滅します。</p> <p>例</p> <p>書き込み</p> <p>表示例 90.1 90.1_{CH} 90.1_{CH}</p> <p>現在のプリセット・メモリの内容を受信中で、同一のプリセット・メモリ・キーを押したときは、ビープを出力しません。ただし時計表示中であれば、ビープを出力し、周波数表示に切り替えます。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	M2S	説明	0	<p>周波数表示中に ME キーを押すことにより、5秒間プリセット書き込み可能状態となります。この5秒間に M1 (TP1) ~ M6 キーのいずれか1つを押すことにより現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p> <p>ME キーを押し続けていると書き込みは行えません。書き込み時はラジオ・ミュートは出力しません。</p> <p>“CH” 表示およびプリセット・ナンバ (プリセット・ナンバ表示状態のとき) を 1 Hz、デューティ1/2で点滅します。</p> <p>例</p> <p>書き込み</p> <p>表示例 90.1 90.1_{CH} 90.1_{CH}</p> <p>現在のプリセット・メモリの内容を受信中で、同一のプリセット・メモリ・キーを押したときは、ビープを出力しません。ただし時計表示中であれば、ビープを出力し、周波数表示に切り替えます。</p>
M2S	説明				
0	<p>周波数表示中に ME キーを押すことにより、5秒間プリセット書き込み可能状態となります。この5秒間に M1 (TP1) ~ M6 キーのいずれか1つを押すことにより現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p> <p>ME キーを押し続けていると書き込みは行えません。書き込み時はラジオ・ミュートは出力しません。</p> <p>“CH” 表示およびプリセット・ナンバ (プリセット・ナンバ表示状態のとき) を 1 Hz、デューティ1/2で点滅します。</p> <p>例</p> <p>書き込み</p> <p>表示例 90.1 90.1_{CH} 90.1_{CH}</p> <p>現在のプリセット・メモリの内容を受信中で、同一のプリセット・メモリ・キーを押したときは、ビープを出力しません。ただし時計表示中であれば、ビープを出力し、周波数表示に切り替えます。</p>				
	(0:オープン)				

記号	説明						
<p>M1 (TP1)</p> <p>M2 (TP2)</p> <p>M3 (TP3)</p> <p>M4</p> <p>M5</p> <p>M6</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="370 248 487 293">M2S</th> <th data-bbox="487 248 1350 293">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="370 293 487 1066">0</td> <td data-bbox="487 293 1350 1066"> <p>呼び出し</p> <p>プリセット書き込み可能状態でないとき、M1 (TP1) ~ M6 キーを押すことにより、押したキーに対応するプリセット・メモリの内容を読み出します。</p> <p>例</p>  <p>現在プリセット・メモリの内容を受信中であり、同一のプリセット・メモリ・キーが押されると、何の動作も行いません。ただし時計表示中であれば、ビープを出力し、周波数表示に切り替えます。ラジオ・ミュートは出力しません。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="370 1066 487 2056">1</td> <td data-bbox="487 1066 1350 2056"> <p>書き込み</p> <p>M1 (TP1) ~ M6 キーを2秒以上押し続けると、押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p> <p>プリセット・メモリへの書き込みを終了すると、アクノリッジとしてラジオ・ミュートを出力します。</p> <p>例</p>  <p>現在プリセット・メモリの内容を受信中であるとき、同一のプリセット・メモリ・キーが押されると、何の動作も行いません。ただし、時計表示中であれば、キーが押された時点でビープを出力し、表示を周波数に切り替えます。このときラジオ・ミュートを出力しません。</p> <p>シーク動作中は、キーが押されると、ただちに（2秒のカウンタは無視されます）呼び出し動作を行います。</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p>(1 : ダイオードでショート 0 : オープン)</p>	M2S	説明	0	<p>呼び出し</p> <p>プリセット書き込み可能状態でないとき、M1 (TP1) ~ M6 キーを押すことにより、押したキーに対応するプリセット・メモリの内容を読み出します。</p> <p>例</p>  <p>現在プリセット・メモリの内容を受信中であり、同一のプリセット・メモリ・キーが押されると、何の動作も行いません。ただし時計表示中であれば、ビープを出力し、周波数表示に切り替えます。ラジオ・ミュートは出力しません。</p>	1	<p>書き込み</p> <p>M1 (TP1) ~ M6 キーを2秒以上押し続けると、押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p> <p>プリセット・メモリへの書き込みを終了すると、アクノリッジとしてラジオ・ミュートを出力します。</p> <p>例</p>  <p>現在プリセット・メモリの内容を受信中であるとき、同一のプリセット・メモリ・キーが押されると、何の動作も行いません。ただし、時計表示中であれば、キーが押された時点でビープを出力し、表示を周波数に切り替えます。このときラジオ・ミュートを出力しません。</p> <p>シーク動作中は、キーが押されると、ただちに（2秒のカウンタは無視されます）呼び出し動作を行います。</p>
M2S	説明						
0	<p>呼び出し</p> <p>プリセット書き込み可能状態でないとき、M1 (TP1) ~ M6 キーを押すことにより、押したキーに対応するプリセット・メモリの内容を読み出します。</p> <p>例</p>  <p>現在プリセット・メモリの内容を受信中であり、同一のプリセット・メモリ・キーが押されると、何の動作も行いません。ただし時計表示中であれば、ビープを出力し、周波数表示に切り替えます。ラジオ・ミュートは出力しません。</p>						
1	<p>書き込み</p> <p>M1 (TP1) ~ M6 キーを2秒以上押し続けると、押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p> <p>プリセット・メモリへの書き込みを終了すると、アクノリッジとしてラジオ・ミュートを出力します。</p> <p>例</p>  <p>現在プリセット・メモリの内容を受信中であるとき、同一のプリセット・メモリ・キーが押されると、何の動作も行いません。ただし、時計表示中であれば、キーが押された時点でビープを出力し、表示を周波数に切り替えます。このときラジオ・ミュートを出力しません。</p> <p>シーク動作中は、キーが押されると、ただちに（2秒のカウンタは無視されます）呼び出し動作を行います。</p>						

記号	説明																																																																																																												
M1 (TP1)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">M2S</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td> <p>M1 (TP1) ~ M6 キーを押し、2秒以内に離すと、キーを離れた時点でプリセット・メモリを呼び出します。</p> <p>例</p> <p>現在プリセット・メモリの内容を受信中であるとき、同一のプリセット・メモリ・キーを押したときは何の動作も行いません。ただし、時計表示中であればブープを出力し、周波数表示に切り替えます。ラジオ・ミュートを出力しません。シーク動作中は、キーが押されるとただちに呼び出し動作を行います。</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p>(1:ダイオードでショート)</p> <p>電源投入時は、セツの調整に便利なようにM1-M6に次の周波数が書き込まれています。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">地域</th> <th>メモリ</th> <th>M1</th> <th>M2</th> <th>M3</th> <th>M4</th> <th>M5</th> <th>M6</th> </tr> <tr> <th>バンド</th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">東欧 西欧</td> <td>FM1 (MHz)</td> <td>87.5</td> <td>87.7</td> <td>92.3</td> <td>96.3</td> <td>105.9</td> <td>87.5</td> </tr> <tr> <td>MW1 (kHz)</td> <td>522</td> <td>603</td> <td>954</td> <td>1386</td> <td>522</td> <td>522</td> </tr> <tr> <td>MW2 (kHz)</td> <td>522</td> <td>621</td> <td>1098</td> <td>1530</td> <td>522</td> <td>522</td> </tr> <tr> <td>LW (kHz)</td> <td>144</td> <td>155</td> <td>208</td> <td>256</td> <td>144</td> <td>144</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">米国1, 米国2, 米国3</td> <td>FM1 (MHz)</td> <td>87.5</td> <td>87.9</td> <td>97.1</td> <td>105.1</td> <td>87.5</td> <td>87.5</td> </tr> <tr> <td>MW1 (kHz)</td> <td>530</td> <td>620</td> <td>1010</td> <td>1490</td> <td>530</td> <td>530</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">豪州 中近東</td> <td>FM1 (MHz)</td> <td>87.5</td> <td>87.9</td> <td>97.1</td> <td>105.1</td> <td>87.5</td> <td>87.5</td> </tr> <tr> <td>MW1 (kHz)</td> <td>531</td> <td>612</td> <td>963</td> <td>1395</td> <td>531</td> <td>531</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">日本</td> <td>FM1 (MHz)</td> <td>76.0</td> <td>76.4</td> <td>85.6</td> <td>76.0</td> <td>76.0</td> <td>76.0</td> </tr> <tr> <td>MW1 (kHz)</td> <td>522</td> <td>603</td> <td>954</td> <td>1386</td> <td>522</td> <td>522</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中国</td> <td>FM1 (MHz)</td> <td>87.0</td> <td>87.7</td> <td>92.3</td> <td>87.0</td> <td>87.0</td> <td>87.0</td> </tr> <tr> <td>MW1 (kHz)</td> <td>531</td> <td>540</td> <td>585</td> <td>531</td> <td>531</td> <td>531</td> </tr> </tbody> </table> <p>FM2, FM3, VFおよび欧州1, 2以外のMW2バンドのM1-M6には、各地域の最低周波数が書き込まれています。</p> <p>○テープ・モード時の動作</p> <p>初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLにより、テープ機能キーとして共用できます。共用できるキーについては2.4 初期設定ダイオード・マトリクスを参照してください。また各キーの動作については</p> <p>AMS , NR , MTL キーの項を参照してください。</p> </div>	M2S	説明	1	<p>M1 (TP1) ~ M6 キーを押し、2秒以内に離すと、キーを離れた時点でプリセット・メモリを呼び出します。</p> <p>例</p> <p>現在プリセット・メモリの内容を受信中であるとき、同一のプリセット・メモリ・キーを押したときは何の動作も行いません。ただし、時計表示中であればブープを出力し、周波数表示に切り替えます。ラジオ・ミュートを出力しません。シーク動作中は、キーが押されるとただちに呼び出し動作を行います。</p>	地域	メモリ	M1	M2	M3	M4	M5	M6	バンド							東欧 西欧	FM1 (MHz)	87.5	87.7	92.3	96.3	105.9	87.5	MW1 (kHz)	522	603	954	1386	522	522	MW2 (kHz)	522	621	1098	1530	522	522	LW (kHz)	144	155	208	256	144	144	米国1, 米国2, 米国3	FM1 (MHz)	87.5	87.9	97.1	105.1	87.5	87.5	MW1 (kHz)	530	620	1010	1490	530	530	豪州 中近東	FM1 (MHz)	87.5	87.9	97.1	105.1	87.5	87.5	MW1 (kHz)	531	612	963	1395	531	531	日本	FM1 (MHz)	76.0	76.4	85.6	76.0	76.0	76.0	MW1 (kHz)	522	603	954	1386	522	522	中国	FM1 (MHz)	87.0	87.7	92.3	87.0	87.0	87.0	MW1 (kHz)	531	540	585	531	531	531
M2S		説明																																																																																																											
1		<p>M1 (TP1) ~ M6 キーを押し、2秒以内に離すと、キーを離れた時点でプリセット・メモリを呼び出します。</p> <p>例</p> <p>現在プリセット・メモリの内容を受信中であるとき、同一のプリセット・メモリ・キーを押したときは何の動作も行いません。ただし、時計表示中であればブープを出力し、周波数表示に切り替えます。ラジオ・ミュートを出力しません。シーク動作中は、キーが押されるとただちに呼び出し動作を行います。</p>																																																																																																											
地域		メモリ	M1	M2	M3	M4	M5	M6																																																																																																					
		バンド																																																																																																											
東欧 西欧		FM1 (MHz)	87.5	87.7	92.3	96.3	105.9	87.5																																																																																																					
	MW1 (kHz)	522	603	954	1386	522	522																																																																																																						
	MW2 (kHz)	522	621	1098	1530	522	522																																																																																																						
	LW (kHz)	144	155	208	256	144	144																																																																																																						
米国1, 米国2, 米国3	FM1 (MHz)	87.5	87.9	97.1	105.1	87.5	87.5																																																																																																						
	MW1 (kHz)	530	620	1010	1490	530	530																																																																																																						
豪州 中近東	FM1 (MHz)	87.5	87.9	97.1	105.1	87.5	87.5																																																																																																						
	MW1 (kHz)	531	612	963	1395	531	531																																																																																																						
日本	FM1 (MHz)	76.0	76.4	85.6	76.0	76.0	76.0																																																																																																						
	MW1 (kHz)	522	603	954	1386	522	522																																																																																																						
中国	FM1 (MHz)	87.0	87.7	92.3	87.0	87.0	87.0																																																																																																						
	MW1 (kHz)	531	540	585	531	531	531																																																																																																						

記号	説明
VF	<p>VF (交通情報) バンドを選択するためのキーです。 初期設定ダイオードVF1の状態により動作が異なります。</p> <p>(1) VF1=0 (オートリチューン機能なし) のとき</p> <p><input type="checkbox"/> VF キーを押すごとに受信バンドを次のように切り替えます。 VFバンド↔FM, MW, LWのいずれかのバンド (VFバンドに切り替える前に受信していたバンドを受信します)</p> <p>VFバンドを選択すると、“VF”表示を点灯します。</p> <p>VFバンドを選択すると、VF放送局を受信しているか判断します。放送局を受信し (SDあり)、SK信号を受信しているときにはVF放送局の受信状態となります。</p> <p>VFバンド選択時、VF放送局を受信していない場合、自動的にシーク・アップ動作を行い、VF放送局の検出を行います。シーク・アップ動作については <input type="checkbox"/> SEEK UP , <input type="checkbox"/> SEEK DWN キーの項を参照してください。</p> <p>VFバンド受信中はSDおよびSK信号の検出を40 msごとに行い、512回の検出で256回以上SDまたはSK信号がオフしている状態になると、100 msオン、100 msオフのピーブを5回出力します。</p> <p>VF放送局受信中はDK信号の状態により次のように動作が異なります。</p> <p>(a) DK信号入力=ハイ・レベルの状態が2秒以上続いたとき (100 msごとに検出を行います) 交通情報放送受信中とします。</p> <p>(b) DK信号入力=ロウ・レベルの状態が3秒以上続いたとき (100 msごとに検出を行います) 交通情報放送がオフしたとします。</p> <p>(2) VF1=1 (オートリチューン機能あり) のとき</p> <p><input type="checkbox"/> VF キーを押すごとに受信バンドを次のように切り替えます。 VFバンド↔FM, MW, LWのいずれかのバンド (VFバンドに切り替える前に受信していたバンドを受信します)</p> <p>VFバンドを選択すると、“VF”表示を点灯します。</p> <p>VFバンドを選択すると、VF放送局を受信しているか判断します。</p> <p>VFバンド選択時、VF放送局を受信していない場合、自動的にシーク・アップ動作を行い、VF放送局の検出を行います。シーク・アップ動作については <input type="checkbox"/> SEEK UP , <input type="checkbox"/> SEEK DWN キーの項を参照してください。</p> <p>VF放送局受信中はSDおよびSK信号の検出を40 msごとに行い、512回の検出で256回以上SDまたはSK信号がオフしている状態になると、VF放送局を受信していないとして、シーク・アップ動作を行います。</p> <p>VF放送局受信中はDK信号の状態により次のように動作が異なります。</p> <p>(a) DK信号入力=ハイ・レベルの状態が2秒以上続いたとき (100 msごとに検出を行います) 交通情報受信中とします。</p> <p>(b) DK信号入力=ロウ・レベルの状態が3秒以上続いたとき (100 msごとに検出を行います) 交通情報がオフしたとします。</p>

記号	説明				
<p>P.SCAN</p>	<p>プリセット・スキャンおよびオートストア・メモリ・キーです。 このキーの動作は初期設定ダイオードDISAMEMOの状態により異なります。</p> <p>(1) DISAMEMO=0 (オートストア・メモリ機能あり) のとき キーの操作タイミングにより動作が異なります。</p> <p>(a) 2秒以内にキーをオフしたとき キーを離れた時点で、プリセット・スキャン動作を行います。</p> <p>(b) 2秒以上キーをオンしたとき 2秒経過した時点でオートストア・メモリ動作を行います。</p> <p>(2) DISAMEMO=1 (オートストア・メモリ機能なし) のとき キーを押した時点で、プリセット・スキャン動作を行います。</p> <p>プリセット・スキャンとオートストア・メモリ動作について次に示します。</p> <p>○プリセット・スキャン動作 プリセット・メモリの内容を5秒間ずつ自動的に呼び出します。 現在プリセット・メモリ以外を受信中であればM1から、プリセット・メモリを受信中ならその次（たとえばM3受信中ならM4）のプリセット・メモリから順次5秒間ずつ呼び出します。この動作を次に示します。</p> <p>例 FM1バンドを受信中であるとき</p> <p style="text-align: center;">FM1</p> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>← M1 → M2 → M3 → M4 → M5 → M6 →</p> </div> <p>MWバンド (MW1, MW2) , LWバンド時も同様な動作になります。</p> <p>5秒間のホールドを終えて次のプリセット・メモリに移るときにピーブを出力します。 5秒間のホールド中は、プリセット・メモリ・ナンバ表示を1Hz (デューティ50%) で点滅します。“CH”表示は点滅しません。</p> <p>5秒間のホールド中にそのプリセット・メモリでとめるには、再度このキーを押すか、受信中のプリセット・メモリと同一のプリセット・メモリ・キーを押してください。またプリセット・メモリ書き込み（たとえばM1のホールド中にM5に書き込むようなとき）も可能ですが、書き込んだ時点でプリセット・スキャン動作は終了します。</p> <p>プリセット・スキャン中のプリセット・メモリの書き込み動作は次のようになります。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">M2S</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">0</td> <td> <p>ME キーを押すと、5秒間のメモリ書き込み可能状態となります。</p> <p>メモリ書き込み可能状態における M1(TP1) ~ M6 キーの動作は、モードにより次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード、CD・DKスタンバイ・モード時</p> <p>押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みを行い、プリセット・スキャンを終了します。</p> <p>(0:オープン)</p> </td> </tr> </tbody> </table>	M2S	説明	0	<p>ME キーを押すと、5秒間のメモリ書き込み可能状態となります。</p> <p>メモリ書き込み可能状態における M1(TP1) ~ M6 キーの動作は、モードにより次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード、CD・DKスタンバイ・モード時</p> <p>押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みを行い、プリセット・スキャンを終了します。</p> <p>(0:オープン)</p>
M2S	説明				
0	<p>ME キーを押すと、5秒間のメモリ書き込み可能状態となります。</p> <p>メモリ書き込み可能状態における M1(TP1) ~ M6 キーの動作は、モードにより次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード、CD・DKスタンバイ・モード時</p> <p>押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みを行い、プリセット・スキャンを終了します。</p> <p>(0:オープン)</p>				

記号	説明																		
P.SCAN	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">M2S</th> <th style="text-align: center;">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">0</td> <td> <p>(2) テープDKスタンバイ・モード時</p> <p>初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLにより次のように動作が異なります。</p> <p>(a) KAMS, KNR, KMTLのいずれかがオンであるとき (テープ機能を兼用しているとき)</p> <p style="text-align: center;">M1(TP1) ~ M6 キーを押してもメモリ書き込みを行えません。</p> <p>プリセット・スキャンを継続します。</p> <p>(b) KAMS, KNR, KMTLのすべてがオフであるとき (テープ機能を兼用していないとき)</p> <p>押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みを行い、プリセット・スキャンを終了します。</p> <p>5秒間のメモリ書き込み可能状態において、M1(TP1) ~ M6 キーを押さなければ、プリセット・スキャンを再開し、次のプリセット・メモリを呼び出します。</p> <p>また、5秒間のメモリ書き込み可能状態において、ME キーを押すと、メモリ書き込み可能状態を解除し、キーを押して5秒後に次のプリセット・メモリを呼び出します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td> <p>M1(TP1) ~ M6 キーを2秒以上押し続けると、押されたキーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込みます。</p> <p>プリセット・スキャンは、キーを押した時点で終了します。</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p>(1 : ダイオードでショート 0 : オープン)</p> <p>プリセット・スキャン中の各キーの動作は次のようになります。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">キー</th> <th style="text-align: center;">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">P.SCAN</td> <td>スキャン動作を中止し、その周波数を受信します。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">SCAN UP</td> <td rowspan="7" style="vertical-align: middle;">スキャン動作を中止し、現在受信中の周波数からキーの動作を行います。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">SCAN DWN</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">SEEK UP</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">SEEK DWN</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">MAN UP</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">MAN DWN</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">VF</td> </tr> </tbody> </table>	M2S	説明	0	<p>(2) テープDKスタンバイ・モード時</p> <p>初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLにより次のように動作が異なります。</p> <p>(a) KAMS, KNR, KMTLのいずれかがオンであるとき (テープ機能を兼用しているとき)</p> <p style="text-align: center;">M1(TP1) ~ M6 キーを押してもメモリ書き込みを行えません。</p> <p>プリセット・スキャンを継続します。</p> <p>(b) KAMS, KNR, KMTLのすべてがオフであるとき (テープ機能を兼用していないとき)</p> <p>押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みを行い、プリセット・スキャンを終了します。</p> <p>5秒間のメモリ書き込み可能状態において、M1(TP1) ~ M6 キーを押さなければ、プリセット・スキャンを再開し、次のプリセット・メモリを呼び出します。</p> <p>また、5秒間のメモリ書き込み可能状態において、ME キーを押すと、メモリ書き込み可能状態を解除し、キーを押して5秒後に次のプリセット・メモリを呼び出します。</p>	1	<p>M1(TP1) ~ M6 キーを2秒以上押し続けると、押されたキーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込みます。</p> <p>プリセット・スキャンは、キーを押した時点で終了します。</p>	キー	説明	P.SCAN	スキャン動作を中止し、その周波数を受信します。	SCAN UP	スキャン動作を中止し、現在受信中の周波数からキーの動作を行います。	SCAN DWN	SEEK UP	SEEK DWN	MAN UP	MAN DWN	VF
M2S	説明																		
0	<p>(2) テープDKスタンバイ・モード時</p> <p>初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLにより次のように動作が異なります。</p> <p>(a) KAMS, KNR, KMTLのいずれかがオンであるとき (テープ機能を兼用しているとき)</p> <p style="text-align: center;">M1(TP1) ~ M6 キーを押してもメモリ書き込みを行えません。</p> <p>プリセット・スキャンを継続します。</p> <p>(b) KAMS, KNR, KMTLのすべてがオフであるとき (テープ機能を兼用していないとき)</p> <p>押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みを行い、プリセット・スキャンを終了します。</p> <p>5秒間のメモリ書き込み可能状態において、M1(TP1) ~ M6 キーを押さなければ、プリセット・スキャンを再開し、次のプリセット・メモリを呼び出します。</p> <p>また、5秒間のメモリ書き込み可能状態において、ME キーを押すと、メモリ書き込み可能状態を解除し、キーを押して5秒後に次のプリセット・メモリを呼び出します。</p>																		
1	<p>M1(TP1) ~ M6 キーを2秒以上押し続けると、押されたキーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込みます。</p> <p>プリセット・スキャンは、キーを押した時点で終了します。</p>																		
キー	説明																		
P.SCAN	スキャン動作を中止し、その周波数を受信します。																		
SCAN UP	スキャン動作を中止し、現在受信中の周波数からキーの動作を行います。																		
SCAN DWN																			
SEEK UP																			
SEEK DWN																			
MAN UP																			
MAN DWN																			
VF																			

記号	説明														
<p>P.SCAN</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="417 248 566 293">キー</th> <th data-bbox="566 248 1397 293">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="417 293 566 562"> <p>BAND</p> </td> <td data-bbox="566 293 1397 562"> <p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード時 スキャン動作を中止し, 現在受信中の周波数からキーの動作を行います。</p> <p>(2) テープDKスタンバイ・モード, CD・DKスタンバイ・モード時 スキャン動作は継続します。無効キーとなります。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="417 562 566 831"> <p>RDMONI</p> </td> <td data-bbox="566 562 1397 831"> <p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード時 スキャン動作は継続します。無効キーとなります。</p> <p>(2) テープDKスタンバイ・モード, CD・DKスタンバイ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード時 スキャン動作を中止し, 現在受信中の周波数からキーの動作を行います。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="417 831 566 920"> <p>LOUD POWER</p> </td> <td data-bbox="566 831 1397 920"> <p>スキャン動作は継続します。押したキーの動作を行います。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="417 920 566 1144"> <p>LOC</p> </td> <td data-bbox="566 920 1397 1144"> <p>初期設定ダイオードAUTOLOCの状態により, 次のように動作が異なります。</p> <p>(1) AUTOLOC=0のとき スキャン動作は継続します。キーの動作を行います。</p> <p>(2) AUTOLOC=1のとき スキャン動作は継続します。無効キーとなります。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="417 1144 566 1189"> <p>MONO</p> </td> <td data-bbox="566 1144 1397 1189"> <p>スキャン動作は継続します。キーの動作を行います。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="417 1189 566 1783"> <p>M1 (TP1) M2 (TP2) M3 (TP3) M4 M5 M6</p> </td> <td data-bbox="566 1189 1397 1783"> <p>初期設定ダイオードM2Sの状態により次のように動作が異なります。</p> <p>(1) M2S=0のとき</p> <p>(a) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード, CD・DKスタンバイ・モード時 スキャン動作を中止し, 押したキーに対応するプリセット・メモリの内容を受信します。</p> <p>(b) テープDKスタンバイ・モード時</p> <p>○KAMS,KNR,KMTLのいずれかがオンされているとき スキャン動作を継続します。テープ機能を兼用しているキーは, テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは無効となります。</p> <p>○KAMS,KNR,KMTLのすべてがオフされているとき スキャン動作を中止し, 押したキーに対応するプリセット・メモリの内容を受信します。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	キー	説明	<p>BAND</p>	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード時 スキャン動作を中止し, 現在受信中の周波数からキーの動作を行います。</p> <p>(2) テープDKスタンバイ・モード, CD・DKスタンバイ・モード時 スキャン動作は継続します。無効キーとなります。</p>	<p>RDMONI</p>	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード時 スキャン動作は継続します。無効キーとなります。</p> <p>(2) テープDKスタンバイ・モード, CD・DKスタンバイ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード時 スキャン動作を中止し, 現在受信中の周波数からキーの動作を行います。</p>	<p>LOUD POWER</p>	<p>スキャン動作は継続します。押したキーの動作を行います。</p>	<p>LOC</p>	<p>初期設定ダイオードAUTOLOCの状態により, 次のように動作が異なります。</p> <p>(1) AUTOLOC=0のとき スキャン動作は継続します。キーの動作を行います。</p> <p>(2) AUTOLOC=1のとき スキャン動作は継続します。無効キーとなります。</p>	<p>MONO</p>	<p>スキャン動作は継続します。キーの動作を行います。</p>	<p>M1 (TP1) M2 (TP2) M3 (TP3) M4 M5 M6</p>	<p>初期設定ダイオードM2Sの状態により次のように動作が異なります。</p> <p>(1) M2S=0のとき</p> <p>(a) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード, CD・DKスタンバイ・モード時 スキャン動作を中止し, 押したキーに対応するプリセット・メモリの内容を受信します。</p> <p>(b) テープDKスタンバイ・モード時</p> <p>○KAMS,KNR,KMTLのいずれかがオンされているとき スキャン動作を継続します。テープ機能を兼用しているキーは, テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは無効となります。</p> <p>○KAMS,KNR,KMTLのすべてがオフされているとき スキャン動作を中止し, 押したキーに対応するプリセット・メモリの内容を受信します。</p>
キー	説明														
<p>BAND</p>	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード時 スキャン動作を中止し, 現在受信中の周波数からキーの動作を行います。</p> <p>(2) テープDKスタンバイ・モード, CD・DKスタンバイ・モード時 スキャン動作は継続します。無効キーとなります。</p>														
<p>RDMONI</p>	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード時 スキャン動作は継続します。無効キーとなります。</p> <p>(2) テープDKスタンバイ・モード, CD・DKスタンバイ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード時 スキャン動作を中止し, 現在受信中の周波数からキーの動作を行います。</p>														
<p>LOUD POWER</p>	<p>スキャン動作は継続します。押したキーの動作を行います。</p>														
<p>LOC</p>	<p>初期設定ダイオードAUTOLOCの状態により, 次のように動作が異なります。</p> <p>(1) AUTOLOC=0のとき スキャン動作は継続します。キーの動作を行います。</p> <p>(2) AUTOLOC=1のとき スキャン動作は継続します。無効キーとなります。</p>														
<p>MONO</p>	<p>スキャン動作は継続します。キーの動作を行います。</p>														
<p>M1 (TP1) M2 (TP2) M3 (TP3) M4 M5 M6</p>	<p>初期設定ダイオードM2Sの状態により次のように動作が異なります。</p> <p>(1) M2S=0のとき</p> <p>(a) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード, CD・DKスタンバイ・モード時 スキャン動作を中止し, 押したキーに対応するプリセット・メモリの内容を受信します。</p> <p>(b) テープDKスタンバイ・モード時</p> <p>○KAMS,KNR,KMTLのいずれかがオンされているとき スキャン動作を継続します。テープ機能を兼用しているキーは, テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは無効となります。</p> <p>○KAMS,KNR,KMTLのすべてがオフされているとき スキャン動作を中止し, 押したキーに対応するプリセット・メモリの内容を受信します。</p>														

記号	説明																
<p>P.SCAN</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="370 244 522 288">キー</th> <th data-bbox="522 244 1350 288">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="370 288 522 656"></td> <td data-bbox="522 288 1350 656"> <p>(2) M2S=1のとき</p> <p>(a) ラジオ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード、CD・DKスタンバイ・モード時</p> <p>スキャン動作を中止します。</p> <p>キーを離すタイミングにより、次のように動作が異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2秒以内にキーを離したとき <p>キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2秒以上キーを押し続けたとき <p>現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="370 656 522 701">M1 (TP1)</td> <td data-bbox="522 656 1350 701"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="370 701 522 745">M2 (TP2)</td> <td data-bbox="522 701 1350 745"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="370 745 522 790">M3 (TP3)</td> <td data-bbox="522 745 1350 790"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="370 790 522 835">M4</td> <td data-bbox="522 745 1350 835"> <p>(b) テープDKスタンバイ・モード時</p> <ul style="list-style-type: none"> ○KAMS,KNR,KMTLのいずれかがオンされているとき <p>スキャン動作を継続します。テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは無効となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○KAMS,KNR,KMTLのすべてがオフされているとき <p>スキャン動作を中止します。</p> <p>キーを離すタイミングにより、次のように動作が異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2秒以内にキーを離したとき <p>キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2秒以上キーを押し続けたとき <p>現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="370 835 522 880">M5</td> <td data-bbox="522 835 1350 880"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="370 880 522 925">M6</td> <td data-bbox="522 880 1350 925"></td> </tr> </tbody> </table>	キー	説明		<p>(2) M2S=1のとき</p> <p>(a) ラジオ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード、CD・DKスタンバイ・モード時</p> <p>スキャン動作を中止します。</p> <p>キーを離すタイミングにより、次のように動作が異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2秒以内にキーを離したとき <p>キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2秒以上キーを押し続けたとき <p>現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p>	M1 (TP1)		M2 (TP2)		M3 (TP3)		M4	<p>(b) テープDKスタンバイ・モード時</p> <ul style="list-style-type: none"> ○KAMS,KNR,KMTLのいずれかがオンされているとき <p>スキャン動作を継続します。テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは無効となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○KAMS,KNR,KMTLのすべてがオフされているとき <p>スキャン動作を中止します。</p> <p>キーを離すタイミングにより、次のように動作が異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2秒以内にキーを離したとき <p>キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2秒以上キーを押し続けたとき <p>現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p>	M5		M6	
キー	説明																
	<p>(2) M2S=1のとき</p> <p>(a) ラジオ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード、CD・DKスタンバイ・モード時</p> <p>スキャン動作を中止します。</p> <p>キーを離すタイミングにより、次のように動作が異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2秒以内にキーを離したとき <p>キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2秒以上キーを押し続けたとき <p>現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p>																
M1 (TP1)																	
M2 (TP2)																	
M3 (TP3)																	
M4	<p>(b) テープDKスタンバイ・モード時</p> <ul style="list-style-type: none"> ○KAMS,KNR,KMTLのいずれかがオンされているとき <p>スキャン動作を継続します。テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは無効となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○KAMS,KNR,KMTLのすべてがオフされているとき <p>スキャン動作を中止します。</p> <p>キーを離すタイミングにより、次のように動作が異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2秒以内にキーを離したとき <p>キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2秒以上キーを押し続けたとき <p>現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p>																
M5																	
M6																	
	<p>○オートストア・メモリ</p> <p>放送局を自動的にサーチし、プリセット・メモリに書き込みます。</p> <p>放送局の有無の判定方法は初期設定ダイオードENFMIF,ENAMIFにより決定します。</p> <p>放送局のサーチは現在受信中の周波数からアップ方向に行います。</p> <p>放送局を検出すると、その周波数をプリセット・メモリに書き込みます。</p> <p>VFバンドにおいては、VF放送局を受信したときのみ、その周波数をプリセット・メモリに書き込みます (VF放送局とは放送局ありで、かつSK信号オンの放送局のことです)。</p> <p>SDあり電圧については、1. 端子機能 SDの項を参照してください。</p> <p>オートストア・メモリ動作は初期設定ダイオードAUTOLOCの状態により次のように異なります。</p> <p>(1) AUTOLOC=0 (オートローカル機能なし) のとき</p> <p>オートストア・メモリ動作を開始するときのLOCAL/DX状態により動作が次のように異なります。</p>																

記号	説明
P.SCAN	<p>(a) オートストア・メモリ開始時、DX状態のとき</p> <p>現在受信中の周波数からアップ方向にサーチしていきサーチ周波数が1周すると、動作を終了します。サーチ中にこのキーを押すと、オートストア・メモリ動作を終了し、オートストア・メモリを開始したときの周波数を受信します。</p> <p>サーチ周波数を1周して動作を終了し、1局でも放送局を検出するとプリセット・メモリの更新を行い、M1からプリセット・スキャンを開始します。</p> <p>プリセット・メモリの更新は検出した放送局数により次のように動作が異なります。</p> <p>○6局以上の放送局を検出したとき</p> <p>6局以上の放送局を検出した場合は、SDの入力レベルの高い順に6局を選択し、周波数の低いほうからプリセット・メモリ・ナンバの小さいメモリに書き込みを行います。</p> <p>○6局未満の放送局を検出したとき</p> <p>6局未満の放送局を検出した場合は、周波数の小さいほうからプリセット・メモリ・ナンバの小さいメモリに書き込みを行います。このとき、余ったプリセット・メモリの内容は変化しません。</p> <p>(b) オートストア・メモリ開始時、ローカル状態のとき</p> <p>現在受信中の周波数からローカル状態でアップ方向にサーチしていき、サーチ周波数が1周した時点で6局以上放送局を検出しなかったときは、DX状態に切り替えてサーチ動作を行います。ローカル状態で6局以上放送局を検出するか、またはDX状態でサーチ周波数を1周すると、オートストア・メモリ動作を終了します。</p> <p>なおサーチ中にこのキーを押すと、オートストア・メモリ動作を終了し、オートストア・メモリを開始したときの周波数を受信します。</p> <p>ローカル状態で6局以上放送局を検出するか、またはDX状態でサーチ周波数を1周してオートストア・メモリ動作を終了し、1局でも放送局を検出した場合のみ、プリセット・メモリを更新し、M1からプリセット・スキャンを開始します。</p> <p>プリセット・メモリの更新は検出した放送局数により次のように動作が異なります。</p> <p>○ローカル状態で6局以上の放送局を検出したとき</p> <p>ローカル状態で6局以上の放送局を検出した場合は、SDの入力レベルの高い順に6局を選択し、周波数の低いほうからプリセット・メモリ・ナンバの小さいメモリに書き込みを行います。</p> <p>○ローカル状態で6局未満の放送局を検出したあと、DX状態で放送局を検出し、あわせて6局以上検出したとき</p> <p>ローカル状態で検出した放送局数にDX状態で検出した放送局数を加えて6局になるように、DX状態で検出したSDの入力レベルの高い放送局を選択します。ただしローカル状態で検出した放送局をDX状態で選択する放送局には含まないようにします。</p> <p>6局の放送局を周波数の小さいほうからプリセット・メモリ・ナンバの小さいメモリに書き込みます。</p>

記号	説明
<p>P.SCAN</p>	<p>○ローカル状態で6局未満の放送局を検出したあと、DX状態で放送局を検出し、あわせて6局未満の放送局を検出したとき</p> <p>DX状態およびローカル状態で検出した放送局が同一周波数の場合は、同一の周波数を2つのメモリに書き込まないように、DX状態で検出した放送局を削除します。</p> <p>6局以下の放送局を周波数の小さいほうからプリセット・メモリ・ナンバの小さいメモリに書き込みます。このとき、余ったプリセット・メモリの内容は変化しません。</p> <p>(2) AUTOLOC=1 (オートローカル機能あり) のとき</p> <p>現在受信中の周波数からローカル状態でアップ方向にサーチしていき、サーチ周波数が1周した時点で6局以上放送局を検出できなかったときは、DX状態に切り替えてサーチ動作を行います。ローカル状態で6局以上放送局を検出するか、またはDX状態でサーチ周波数を1周すると、オートストア・メモリ動作を終了します。</p> <p>ローカル状態でサーチ中にこのキーを押すと、DX状態に切り替え、サーチを開始した周波数からサーチを行います。なおローカル状態で検出した放送局は無効とします (プリセット・メモリ更新時にはローカル状態で検出した放送局を含まないようにします)。</p> <p>なおDX状態でサーチ中にこのキーを押すと、オートストア・メモリ動作を終了し、オートストア・メモリを開始したときの周波数を受信します。</p> <p>ローカル状態で6局以上放送局を検出するか、またはDX状態でサーチ周波数を1周してオートストア・メモリ動作を終了し、1局でも放送局を検出した場合のみ、プリセット・メモリを更新し、M1からプリセット・スキャンを開始します。</p> <p>プリセット・メモリの更新は検出した放送局数により次のように動作が異なります。</p> <p>○ローカル状態で6局以上の放送局を検出したとき</p> <p>ローカル状態で6局以上の放送局を検出した場合は、SDの入力レベルの高い順に6局を選択し、周波数の低いほうからプリセット・メモリ・ナンバの小さいメモリに書き込みを行います。</p> <p>○ローカル状態で6局未満の放送局を検出したあと、DX状態で放送局を検出し、あわせて6局以上の放送局を検出したとき</p> <p>ローカル状態で検出した放送局数にDX状態で検出した放送局数を加えて6局になるように、DX状態で検出したSDの入力レベルの高い放送局を選択します。ただしローカル状態で検出した放送局をDX状態で選択する放送局には含まないようにします。</p> <p>6局の放送局を周波数の小さいほうからプリセット・メモリ・ナンバの小さいメモリに書き込みます。</p>

記号	説 明										
<p>P.SCAN</p>	<p>○ローカル状態で6局未満の放送局を検出したあと、DX状態で放送局を検出し、あわせて6局未満の放送局を検出したとき</p> <p>DX状態およびローカル状態で検出した放送局が同一周波数の場合は、同一の周波数を2つのメモリに書き込まないように、DX状態で検出した放送局を削除します。</p> <p>6局以下の放送局を周波数の小さいほうからプリセット・メモリ・ナンバの小さいメモリに書き込みます。このとき、余ったプリセット・メモリの内容は変化しません。</p> <p>オートストア・メモリ中の各キーの動作は次のようになります。</p>										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="413 524 561 566">キー</th> <th data-bbox="561 524 1392 566">説 明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="413 566 561 701"> <p>P.SCAN</p> </td> <td data-bbox="561 566 1392 701"> <p>オートストア・メモリ動作を中止し、オートストア・メモリ動作を開始した周波数を受信します。</p> <p>ただし、オートローカル機能使用時はローカル・モードを切り替えます。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="413 701 561 974"> <p>BAND</p> </td> <td data-bbox="561 701 1392 974"> <p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード時 オートストア・メモリ動作を中止し、オートストア・メモリ動作を開始した周波数からのキーの動作を行います。</p> <p>(2) テープDKスタンバイ・モード、CD・DKスタンバイ・モード時 オートストア・メモリ動作は継続します。無効キーとなります。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="413 974 561 1290"> <p>SCAN UP</p> <p>SCAN DWN</p> <p>SEEK UP</p> <p>SEEK DWN</p> <p>MAN UP</p> <p>MAN DWN</p> <p>VF</p> </td> <td data-bbox="561 974 1392 1290"> <p>オートストア・メモリ動作を中止し、オートストア・メモリ動作を開始した周波数からキーの動作を行います。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="413 1290 561 1606"> <p>RDMONI</p> </td> <td data-bbox="561 1290 1392 1606"> <p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) テープDKスタンバイ・モード、CD・DKスタンバイ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード時 オートストア・メモリ動作を中止し、オートストア・メモリ動作を開始した周波数からキーの動作を行います。</p> <p>(2) ラジオ・モード時 オートストア・メモリ動作は継続します。無効キーとなります。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	キー	説 明	<p>P.SCAN</p>	<p>オートストア・メモリ動作を中止し、オートストア・メモリ動作を開始した周波数を受信します。</p> <p>ただし、オートローカル機能使用時はローカル・モードを切り替えます。</p>	<p>BAND</p>	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード時 オートストア・メモリ動作を中止し、オートストア・メモリ動作を開始した周波数からのキーの動作を行います。</p> <p>(2) テープDKスタンバイ・モード、CD・DKスタンバイ・モード時 オートストア・メモリ動作は継続します。無効キーとなります。</p>	<p>SCAN UP</p> <p>SCAN DWN</p> <p>SEEK UP</p> <p>SEEK DWN</p> <p>MAN UP</p> <p>MAN DWN</p> <p>VF</p>	<p>オートストア・メモリ動作を中止し、オートストア・メモリ動作を開始した周波数からキーの動作を行います。</p>	<p>RDMONI</p>	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) テープDKスタンバイ・モード、CD・DKスタンバイ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード時 オートストア・メモリ動作を中止し、オートストア・メモリ動作を開始した周波数からキーの動作を行います。</p> <p>(2) ラジオ・モード時 オートストア・メモリ動作は継続します。無効キーとなります。</p>
キー	説 明										
<p>P.SCAN</p>	<p>オートストア・メモリ動作を中止し、オートストア・メモリ動作を開始した周波数を受信します。</p> <p>ただし、オートローカル機能使用時はローカル・モードを切り替えます。</p>										
<p>BAND</p>	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード時 オートストア・メモリ動作を中止し、オートストア・メモリ動作を開始した周波数からのキーの動作を行います。</p> <p>(2) テープDKスタンバイ・モード、CD・DKスタンバイ・モード時 オートストア・メモリ動作は継続します。無効キーとなります。</p>										
<p>SCAN UP</p> <p>SCAN DWN</p> <p>SEEK UP</p> <p>SEEK DWN</p> <p>MAN UP</p> <p>MAN DWN</p> <p>VF</p>	<p>オートストア・メモリ動作を中止し、オートストア・メモリ動作を開始した周波数からキーの動作を行います。</p>										
<p>RDMONI</p>	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) テープDKスタンバイ・モード、CD・DKスタンバイ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード時 オートストア・メモリ動作を中止し、オートストア・メモリ動作を開始した周波数からキーの動作を行います。</p> <p>(2) ラジオ・モード時 オートストア・メモリ動作は継続します。無効キーとなります。</p>										

記号	説明																					
P.SCAN	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">キー</th> <th style="text-align: center;">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">LOUD POWER</td> <td>オートストア・メモリ動作は継続します。押したキーの動作を行います。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">LOC</td> <td>初期設定ダイオードAUTOLOCの状態により、次のように動作が異なります。 (1) AUTOLOC=0のとき LOCAL/DX状態を切り替えます。それまでに検出した放送局は無効となります。 (2) AUTOLOC=1のとき オートストア・メモリ動作は継続します。無効キーとなります。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">MONO</td> <td>オートストア・メモリ動作は継続します。キーの動作を行います。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">M1 (TP1) M6</td> <td> <p>初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLの状態およびモードにより、次のように動作が異なります。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">KAMS KNR KMTL</th> <th style="text-align: center;">モード</th> <th style="text-align: center;">動作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">注1</td> <td>●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード</td> <td>オートストア・メモリ動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> <tr> <td>テープDKスタンバイ・モード</td> <td>オートストア・メモリ動作は継続します。テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">注2</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td>オートストア・メモリ動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1. いずれかのスイッチがオンのとき 注2. すべてのスイッチがオフのとき</p> </td> </tr> </tbody> </table>	キー	説明	LOUD POWER	オートストア・メモリ動作は継続します。押したキーの動作を行います。	LOC	初期設定ダイオードAUTOLOCの状態により、次のように動作が異なります。 (1) AUTOLOC=0のとき LOCAL/DX状態を切り替えます。それまでに検出した放送局は無効となります。 (2) AUTOLOC=1のとき オートストア・メモリ動作は継続します。無効キーとなります。	MONO	オートストア・メモリ動作は継続します。キーの動作を行います。	M1 (TP1) M6	<p>初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLの状態およびモードにより、次のように動作が異なります。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">KAMS KNR KMTL</th> <th style="text-align: center;">モード</th> <th style="text-align: center;">動作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">注1</td> <td>●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード</td> <td>オートストア・メモリ動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> <tr> <td>テープDKスタンバイ・モード</td> <td>オートストア・メモリ動作は継続します。テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">注2</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td>オートストア・メモリ動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1. いずれかのスイッチがオンのとき 注2. すべてのスイッチがオフのとき</p>	KAMS KNR KMTL	モード	動作	注1	●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード	オートストア・メモリ動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。	テープDKスタンバイ・モード	オートストア・メモリ動作は継続します。テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。	注2	-	オートストア・メモリ動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。
キー	説明																					
LOUD POWER	オートストア・メモリ動作は継続します。押したキーの動作を行います。																					
LOC	初期設定ダイオードAUTOLOCの状態により、次のように動作が異なります。 (1) AUTOLOC=0のとき LOCAL/DX状態を切り替えます。それまでに検出した放送局は無効となります。 (2) AUTOLOC=1のとき オートストア・メモリ動作は継続します。無効キーとなります。																					
MONO	オートストア・メモリ動作は継続します。キーの動作を行います。																					
M1 (TP1) M6	<p>初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLの状態およびモードにより、次のように動作が異なります。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">KAMS KNR KMTL</th> <th style="text-align: center;">モード</th> <th style="text-align: center;">動作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">注1</td> <td>●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード</td> <td>オートストア・メモリ動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> <tr> <td>テープDKスタンバイ・モード</td> <td>オートストア・メモリ動作は継続します。テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">注2</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td>オートストア・メモリ動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1. いずれかのスイッチがオンのとき 注2. すべてのスイッチがオフのとき</p>	KAMS KNR KMTL	モード	動作	注1	●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード	オートストア・メモリ動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。	テープDKスタンバイ・モード	オートストア・メモリ動作は継続します。テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。	注2	-	オートストア・メモリ動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。										
KAMS KNR KMTL	モード	動作																				
注1	●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード	オートストア・メモリ動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。																				
	テープDKスタンバイ・モード	オートストア・メモリ動作は継続します。テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。																				
注2	-	オートストア・メモリ動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。																				

記号	説明						
<p>SEEK UP</p> <p>SEEK DWN</p>	<p>オートチューニング（シーク動作）用のキーです。</p> <p>周波数を1チャンネル・スペースずつアップ（SEEK UP キー）またはダウン（SEEK DWN キー）していき、各受信周波数ごとに放送局の有無（放送局の有無の判定方法は初期設定ダイオードENFMIF, ENAMIFにより決定します）を判定し、放送局あり（VFバンドではVF放送局あり）のときシーク動作を終了します。</p> <p>シーク動作は初期設定ダイオードAUTOLOCの状態により次のように異なります。</p> <p>(1) AUTOLOC=0（オートローカル機能なし）のとき</p> <p>現在受信中の周波数からサーチ動作を行います。</p> <p>サーチ動作を開始したときのLOCAL/DXの状態ですサーチ動作を行います。なお放送局を検出するまで（VFバンドではVF放送局を検出するまで）はサーチ動作を行います。</p> <p>(2) AUTOLOC=1（オートローカル機能あり）のとき</p> <p>現在受信中の周波数からローカル状態でサーチしていき、サーチ周波数が1周すると、DX状態に切り替え、サーチ動作を行います。以後放送局を検出するまでDX状態でサーチ動作を行います。</p> <p>なおローカル状態でサーチ中にこのキーを押すと、LOCAL/DXはDX状態に、周波数はサーチ動作を開始した周波数になりサーチ動作を開始します。またDX状態でサーチ中にこのキーを押すとサーチ動作を終了し、サーチ動作を開始したときの周波数を受信します。</p> <p>SEEK UP , SEEK DWN キーを使用する場合は初期設定ダイオードAUTO500を0にしてください。AUTO500を1にすると、SEEK UP , SEEK DWN キーは無効となります。</p> <p>シーク動作中の各キーの動作は次のようになります。</p> <table border="1" data-bbox="412 1064 1392 1467"> <thead> <tr> <th data-bbox="412 1064 561 1108">キー</th> <th data-bbox="561 1064 1392 1108">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="412 1108 561 1288">SEEK UP</td> <td data-bbox="561 1108 1392 1288"> <p>●シーク・アップ中に SEEK UP キー、シーク・ダウン中に SEEK DWN キーを押したとき</p> <p>シーク動作を中止し、シークを始めたときの周波数に戻ります。</p> <p>ただし、オートローカル機能使用時はローカル・モードを切り替えます。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="412 1288 561 1467">SEEK DWN</td> <td data-bbox="561 1288 1392 1467"> <p>●シーク・アップ中に SEEK DWN キー、シーク・ダウン中に SEEK UP キーを押したとき</p> <p>キーを押した時点の周波数から、押したキーの動作（シーク・アップ中ならシーク・ダウン）を開始します。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	キー	説明	SEEK UP	<p>●シーク・アップ中に SEEK UP キー、シーク・ダウン中に SEEK DWN キーを押したとき</p> <p>シーク動作を中止し、シークを始めたときの周波数に戻ります。</p> <p>ただし、オートローカル機能使用時はローカル・モードを切り替えます。</p>	SEEK DWN	<p>●シーク・アップ中に SEEK DWN キー、シーク・ダウン中に SEEK UP キーを押したとき</p> <p>キーを押した時点の周波数から、押したキーの動作（シーク・アップ中ならシーク・ダウン）を開始します。</p>
キー	説明						
SEEK UP	<p>●シーク・アップ中に SEEK UP キー、シーク・ダウン中に SEEK DWN キーを押したとき</p> <p>シーク動作を中止し、シークを始めたときの周波数に戻ります。</p> <p>ただし、オートローカル機能使用時はローカル・モードを切り替えます。</p>						
SEEK DWN	<p>●シーク・アップ中に SEEK DWN キー、シーク・ダウン中に SEEK UP キーを押したとき</p> <p>キーを押した時点の周波数から、押したキーの動作（シーク・アップ中ならシーク・ダウン）を開始します。</p>						

記号	説明														
SEEK UP	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="370 248 522 286">キー</th> <th data-bbox="522 248 1345 286">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="370 286 522 831"></td> <td data-bbox="522 286 1345 831"> <p>初期設定ダイオードAUTO500の状態により次のように動作が異なります。</p> <p>(1) AUTO500=0のとき キーを押した時点の周波数から、マニュアル・チューニング動作を開始します。</p> <p>(2) AUTO500=1のとき</p> <p>(a) シーク・アップ中に MAN UP キー, シーク・ダウン中に MAN DWN キーを押したとき シーク動作を中止し、シークを始めたときの周波数に戻ります。 ただし、オートローカル機能使用時はローカル・モードを切り替えます。</p> <p>(b) シーク・アップ中に MAN DWN キー, シーク・ダウン中に MAN UP キーを押したとき キーを押した時点の周波数から、押したキーの動作（シーク・アップ中ならシーク・ダウン）を開始します。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="370 831 522 875">SCAN UP</td> <td data-bbox="522 831 1345 875" rowspan="3">シーク動作を中止し、キーを押した時点の周波数からキーの動作を行います。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="370 875 522 920">SCAN DWN</td> </tr> <tr> <td data-bbox="370 920 522 965">P.SCAN</td> </tr> <tr> <td data-bbox="370 965 522 1055">VF</td> <td data-bbox="522 965 1345 1055">シーク動作を中止し、周波数をシーク動作を開始した周波数に戻し、キーの動作を行います。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="370 1055 522 1368">BAND</td> <td data-bbox="522 1055 1345 1368"> <p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード時 シーク動作を中止し、周波数をシーク動作を開始した周波数に戻し、キーの動作を行います。</p> <p>(2) テープDKスタンバイ・モード, CD・DKスタンバイ・モード時 シーク動作は継続します。無効キーとなります。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="370 1368 522 1682">RDMONI</td> <td data-bbox="522 1368 1345 1682"> <p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) テープDKスタンバイ・モード, CD・DKスタンバイ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード時 シーク動作を中止し、周波数をシーク動作を開始した周波数に戻し、キーの動作を行います。</p> <p>(2) ラジオ・モード時 シーク動作は継続します。無効キーとなります。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	キー	説明		<p>初期設定ダイオードAUTO500の状態により次のように動作が異なります。</p> <p>(1) AUTO500=0のとき キーを押した時点の周波数から、マニュアル・チューニング動作を開始します。</p> <p>(2) AUTO500=1のとき</p> <p>(a) シーク・アップ中に MAN UP キー, シーク・ダウン中に MAN DWN キーを押したとき シーク動作を中止し、シークを始めたときの周波数に戻ります。 ただし、オートローカル機能使用時はローカル・モードを切り替えます。</p> <p>(b) シーク・アップ中に MAN DWN キー, シーク・ダウン中に MAN UP キーを押したとき キーを押した時点の周波数から、押したキーの動作（シーク・アップ中ならシーク・ダウン）を開始します。</p>	SCAN UP	シーク動作を中止し、キーを押した時点の周波数からキーの動作を行います。	SCAN DWN	P.SCAN	VF	シーク動作を中止し、周波数をシーク動作を開始した周波数に戻し、キーの動作を行います。	BAND	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード時 シーク動作を中止し、周波数をシーク動作を開始した周波数に戻し、キーの動作を行います。</p> <p>(2) テープDKスタンバイ・モード, CD・DKスタンバイ・モード時 シーク動作は継続します。無効キーとなります。</p>	RDMONI	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) テープDKスタンバイ・モード, CD・DKスタンバイ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード時 シーク動作を中止し、周波数をシーク動作を開始した周波数に戻し、キーの動作を行います。</p> <p>(2) ラジオ・モード時 シーク動作は継続します。無効キーとなります。</p>
キー		説明													
	<p>初期設定ダイオードAUTO500の状態により次のように動作が異なります。</p> <p>(1) AUTO500=0のとき キーを押した時点の周波数から、マニュアル・チューニング動作を開始します。</p> <p>(2) AUTO500=1のとき</p> <p>(a) シーク・アップ中に MAN UP キー, シーク・ダウン中に MAN DWN キーを押したとき シーク動作を中止し、シークを始めたときの周波数に戻ります。 ただし、オートローカル機能使用時はローカル・モードを切り替えます。</p> <p>(b) シーク・アップ中に MAN DWN キー, シーク・ダウン中に MAN UP キーを押したとき キーを押した時点の周波数から、押したキーの動作（シーク・アップ中ならシーク・ダウン）を開始します。</p>														
SCAN UP	シーク動作を中止し、キーを押した時点の周波数からキーの動作を行います。														
SCAN DWN															
P.SCAN															
VF	シーク動作を中止し、周波数をシーク動作を開始した周波数に戻し、キーの動作を行います。														
BAND	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード時 シーク動作を中止し、周波数をシーク動作を開始した周波数に戻し、キーの動作を行います。</p> <p>(2) テープDKスタンバイ・モード, CD・DKスタンバイ・モード時 シーク動作は継続します。無効キーとなります。</p>														
RDMONI	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) テープDKスタンバイ・モード, CD・DKスタンバイ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード時 シーク動作を中止し、周波数をシーク動作を開始した周波数に戻し、キーの動作を行います。</p> <p>(2) ラジオ・モード時 シーク動作は継続します。無効キーとなります。</p>														
SEEK DWN															

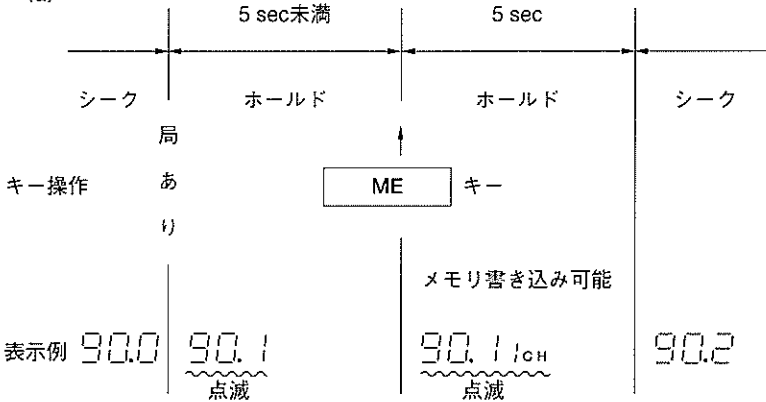
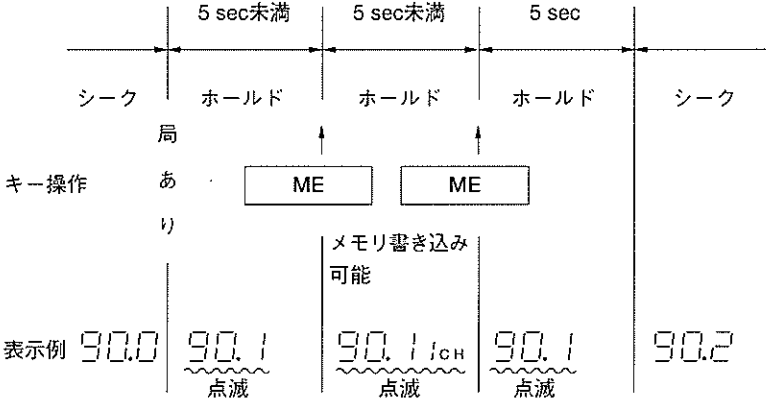
記 号	説 明											
SEEK UP												
SEEK DWN												
キー	説 明											
LOUD	シーク動作は継続します。押したキーの動作を行います。											
POWER												
LOC	<p>初期設定ダイオードAUTOLOCの状態により、次のように動作が異なります。</p> <p>(1) AUTOLOC=0のとき シーク動作は継続します。キーの動作を行います。</p> <p>(2) AUTOLOC=1のとき シーク動作は継続します。無効キーとなります。</p>											
MONO	シーク動作は継続します。キーの動作を行います。											
M1 (TP1)	<p>初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLの状態およびモードにより、次のように動作が異なります。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">KAMS KNR KMTL</th> <th style="text-align: center;">モード</th> <th style="text-align: center;">動 作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">注 1</td> <td>●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード</td> <td>シーク動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> <tr> <td>テープDKスタンバイ・モード</td> <td>シーク動作は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">注 2</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td>シーク動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> </tbody> </table> <p>注 1. いずれかのスイッチがオンのとき 2. すべてのスイッチがオフのとき</p>	KAMS KNR KMTL	モード	動 作	注 1	●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード	シーク動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。	テープDKスタンバイ・モード	シーク動作は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。	注 2	—	シーク動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。
KAMS KNR KMTL		モード	動 作									
注 1		●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード	シーク動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。									
	テープDKスタンバイ・モード	シーク動作は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。										
注 2	—	シーク動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。										
M6												

記号	説明						
<p>SCAN UP</p> <p>SCAN DWN</p>	<p>オートチューニング（スキャン動作）用のキーです。</p> <p>周波数を1チャンネル・スペースずつアップ（SCAN UP キー）またはダウン（SCAN DWN キー）していき、各受信周波数ごとに放送局の有無（周波数カウンタおよびSD信号）を検出し（シーク動作）、放送局ありと判断すると、その周波数を5秒間保持します。VFバンドではシーク動作と同様にSK信号の有無を検出します。この5秒の間に何の操作もされなければ再度シーク動作を行い、次の放送局を5秒間ずつ順次受信していきます（スキャン動作）。</p> <p>5秒間のホールド中は、周波数表示を1Hz（デューティ50%）で点滅します。</p> <p>5秒のホールドが終了するとビープを出力します。</p> <p>シーク動作については SEEK UP , SEEK DWN キーと同様の動作になります。</p> <p>シーク動作（5秒のホールド時以外）中の各キーの動作は次のようになります。</p>						
<p>SCAN UP</p> <p>SCAN DWN</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>キー</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●スキャン・アップ中に SCAN UP キー、スキャン・ダウン中に SCAN DWN キーを押したとき</td> <td>スキャン動作を中止し、スキャンを始めたときの周波数に戻ります。 ただし、オートローカル機能使用時はローカル・モードを切り替えます。</td> </tr> <tr> <td>●スキャン・アップ中に SCAN DWN キー、スキャン・ダウン中に SCAN UP キーを押したとき</td> <td>キーが押されたときの周波数から、押されたキーの動作に移ります。</td> </tr> </tbody> </table>	キー	説明	●スキャン・アップ中に SCAN UP キー、スキャン・ダウン中に SCAN DWN キーを押したとき	スキャン動作を中止し、スキャンを始めたときの周波数に戻ります。 ただし、オートローカル機能使用時はローカル・モードを切り替えます。	●スキャン・アップ中に SCAN DWN キー、スキャン・ダウン中に SCAN UP キーを押したとき	キーが押されたときの周波数から、押されたキーの動作に移ります。
キー	説明						
●スキャン・アップ中に SCAN UP キー、スキャン・ダウン中に SCAN DWN キーを押したとき	スキャン動作を中止し、スキャンを始めたときの周波数に戻ります。 ただし、オートローカル機能使用時はローカル・モードを切り替えます。						
●スキャン・アップ中に SCAN DWN キー、スキャン・ダウン中に SCAN UP キーを押したとき	キーが押されたときの周波数から、押されたキーの動作に移ります。						
<p>SEEK UP</p> <p>SEEK DWN</p> <p>MAN UP</p> <p>MAN DWN</p> <p>P.SCAN</p>	<p>スキャン動作を中止して、キーを押した時点の周波数からキーの動作を行います。</p>						
<p>VF</p>	<p>スキャン動作を中止し、周波数をシーク動作を開始した周波数に戻し、キーの動作を行います。</p>						
<p>BAND</p>	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード時</p> <p>スキャン動作を中止し、周波数をスキャン動作を開始した周波数（スキャン動作により放送局を検出し、ホールド動作を行った場合は、ホールドしたときの周波数）に戻し、キーの動作を行います。</p> <p>(2) テープDKスタンバイ・モード、CD・DKスタンバイ・モード時</p> <p>スキャン動作は継続します。無効キーとなります。</p>						
<p>RDMONI</p>	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) テープDKスタンバイ・モード、CD・DKスタンバイ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード時</p> <p>スキャン動作を中止し、周波数をスキャン動作を開始した周波数（スキャン動作により放送局を検出し、ホールド動作を行った場合は、ホールドしたときの周波数）に戻し、キーの動作を行います。</p> <p>(2) ラジオ・モード時</p> <p>スキャン動作は継続します。無効キーとなります。</p>						

記号	説明																									
SCAN UP	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">キー</th> <th style="text-align: center;">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">LOUD</td> <td rowspan="2">スキャン動作は継続します。押したキーの動作を行います。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">POWER</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">LOC</td> <td> 初期設定ダイオードAUTOLOCの状態により、次のように動作が異なります。 (1) AUTOLOC=0のとき スキャン動作は継続します。キーの動作を行います。 (2) AUTOLOC=1のとき スキャン動作は継続します。無効キーとなります。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">MONO</td> <td>スキャン動作は継続します。キーの動作を行います。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">M1 (TP1)</td> <td rowspan="4"> 初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLの状態およびモードにより、次のように動作が異なります。 <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">KAMS KNR KMTL</th> <th style="text-align: center;">モード</th> <th style="text-align: center;">動作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">注1</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード </td> <td>スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">テープDKスタンバイ・モード</td> <td>スキャン動作は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは、無効キーとなります。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">注2</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td>スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">}</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">M6</td> </tr> <tr> <td></td> </tr> </tbody> </table>	キー	説明	LOUD	スキャン動作は継続します。押したキーの動作を行います。	POWER	LOC	初期設定ダイオードAUTOLOCの状態により、次のように動作が異なります。 (1) AUTOLOC=0のとき スキャン動作は継続します。キーの動作を行います。 (2) AUTOLOC=1のとき スキャン動作は継続します。無効キーとなります。	MONO	スキャン動作は継続します。キーの動作を行います。	M1 (TP1)	初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLの状態およびモードにより、次のように動作が異なります。 <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">KAMS KNR KMTL</th> <th style="text-align: center;">モード</th> <th style="text-align: center;">動作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">注1</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード </td> <td>スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">テープDKスタンバイ・モード</td> <td>スキャン動作は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは、無効キーとなります。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">注2</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td>スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> </tbody> </table>	KAMS KNR KMTL	モード	動作	注1	<ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード 	スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。	テープDKスタンバイ・モード	スキャン動作は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは、無効キーとなります。	注2	—	スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。	}	M6	
キー		説明																								
LOUD		スキャン動作は継続します。押したキーの動作を行います。																								
POWER																										
LOC		初期設定ダイオードAUTOLOCの状態により、次のように動作が異なります。 (1) AUTOLOC=0のとき スキャン動作は継続します。キーの動作を行います。 (2) AUTOLOC=1のとき スキャン動作は継続します。無効キーとなります。																								
MONO		スキャン動作は継続します。キーの動作を行います。																								
M1 (TP1)		初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLの状態およびモードにより、次のように動作が異なります。 <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">KAMS KNR KMTL</th> <th style="text-align: center;">モード</th> <th style="text-align: center;">動作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">注1</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード </td> <td>スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">テープDKスタンバイ・モード</td> <td>スキャン動作は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは、無効キーとなります。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">注2</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td>スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> </tbody> </table>	KAMS KNR KMTL	モード	動作	注1	<ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード 	スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。	テープDKスタンバイ・モード	スキャン動作は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは、無効キーとなります。	注2	—	スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。													
KAMS KNR KMTL			モード	動作																						
注1			<ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード 	スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。																						
			テープDKスタンバイ・モード	スキャン動作は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは、無効キーとなります。																						
注2	—	スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。																								
}																										
M6																										

注1. いずれかのスイッチがオンのとき
 2. すべてのスイッチがオフのとき

記号	説明
SCAN UP	5秒間のホールド中の各キーの動作は次のようになります。
SCAN DWN	
キー	説明
SCAN UP	<ul style="list-style-type: none"> ●スキャン・アップ中に SCAN UP キー、スキャン・ダウン中に SCAN DWN キーを押したとき スキャン動作を中止し、ホールド中の周波数を保持します。
SCAN DWN	<ul style="list-style-type: none"> ●スキャン・アップ中に SCAN DWN キー、スキャン・ダウン中に SCAN UP キーを押したとき 押したキーの動作に移ります。
SEEK UP	スキャン動作を中止して、ホールド中の周波数からキーの動作を行います。
SEEK DWN	
MAN UP	
MAN DWN	
P.SCAN	
VF	
BAND	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード時 スキャン動作を中止し、ホールド中の周波数からキーの動作を行います。</p> <p>(2) テープDKスタンバイ・モード、CD・DKスタンバイ・モード時 スキャン動作は継続します。無効キーとなります。</p>
RDMONI	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) テープDKスタンバイ・モード、CD・DKスタンバイ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード時 スキャン動作を中止し、ホールド中の周波数からキーの動作を行います。</p> <p>(2) ラジオ・モード時 スキャン動作は継続します。無効キーとなります。</p>
LOUD	スキャン動作は継続します。押したキーの動作を行います。
POWER	
LOC	<p>初期設定ダイオードAUTOLOCの状態により、次のように動作が異なります。</p> <p>(1) AUTOLOC=0のとき スキャン動作は継続します。キーの動作を行います。</p> <p>(2) AUTOLOC=1のとき スキャン動作は継続します。無効キーとなります。</p>

記号	説明
SCAN UP	
SCAN DWN	
MONO	<p>スキップ動作は継続します。キーの動作を行います。</p>
ME	<p>初期設定ダイオードM2Sの状態により、次のように動作が異なります。</p> <p>(1) M2S=1のとき スキップ動作は継続します。無効キーとなります。</p> <p>(2) M2S=0のとき 次のようにキーを押すごとにメモリ書き込み可能状態を反転します。</p> <p>(a)</p>  <p>(b)</p> 
M1 (TP1)	<p>初期設定ダイオードM2Sの状態により、次のように動作が異なります。</p>
}	<p>(1) M2S=0のとき</p>
M6	<p>メモリ書き込み可能状態、ホールド状態、初期設定ダイオードKAMS、KNR、</p>
	<p>KMTLの状態およびモードにより次のように動作が異なります。</p>

記号	説明												
SCAN UP													
SCAN DWN													
キー	説明												
	(a) ホールド中の動作												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="570 349 644 376">KAMS KNR KMTL</th> <th data-bbox="754 394 827 421">モード</th> <th data-bbox="1078 394 1152 421">動作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="570 663 617 689">注1</td> <td data-bbox="664 483 911 645"> <ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード </td> <td data-bbox="926 528 1303 600">スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="664 752 874 779">テープDKスタンバイ・モード</td> <td data-bbox="926 663 1303 869">スキャン動作は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="570 909 617 936">注2</td> <td data-bbox="777 909 793 936">—</td> <td data-bbox="926 887 1303 958">スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。</td> </tr> </tbody> </table>	KAMS KNR KMTL	モード	動作	注1	<ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード 	スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。		テープDKスタンバイ・モード	スキャン動作は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。	注2	—	スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。
KAMS KNR KMTL	モード	動作											
注1	<ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード 	スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。											
	テープDKスタンバイ・モード	スキャン動作は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。											
注2	—	スキャン動作を中止し、キーに対応するプリセット・メモリを受信します。											
	<p>注1. いずれかのスイッチがオンのとき</p> <p>2. すべてのスイッチがオフのとき</p>												
M1 (TP1)													
M6													
	(b) メモリ書き込み可能状態の動作												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="570 1160 644 1187">KAMS KNR KMTL</th> <th data-bbox="754 1205 827 1232">モード</th> <th data-bbox="1078 1205 1152 1232">動作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="570 1478 617 1505">注1</td> <td data-bbox="664 1299 911 1460"> <ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード </td> <td data-bbox="926 1321 1303 1438">キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、2秒後にスキャン動作を再開します。</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="664 1568 874 1594">テープDKスタンバイ・モード</td> <td data-bbox="926 1478 1303 1684">メモリ書き込み可能状態は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="570 1747 617 1774">注2</td> <td data-bbox="777 1747 793 1774">—</td> <td data-bbox="926 1702 1303 1818">キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、2秒後にスキャン動作を再開します。</td> </tr> </tbody> </table>	KAMS KNR KMTL	モード	動作	注1	<ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード 	キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、2秒後にスキャン動作を再開します。		テープDKスタンバイ・モード	メモリ書き込み可能状態は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。	注2	—	キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、2秒後にスキャン動作を再開します。
KAMS KNR KMTL	モード	動作											
注1	<ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニタ・モード ●CDラジオ・モニタ・モード ●CD・DKスタンバイ・モード 	キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、2秒後にスキャン動作を再開します。											
	テープDKスタンバイ・モード	メモリ書き込み可能状態は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。											
注2	—	キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、2秒後にスキャン動作を再開します。											
	<p>注1. いずれかのスイッチがオンのとき</p> <p>2. すべてのスイッチがオフのとき</p>												


記号	説明												
SCAN UP													
SCAN DWN													
キー	説明												
<p>例</p>	<p>(2) M2S=1のとき</p> <p>初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLの状態およびモードにより、次のように動作が異なります。</p> <table border="1" data-bbox="603 840 1356 2016"> <thead> <tr> <th data-bbox="603 840 705 974">KAMS KNR KMTL</th> <th data-bbox="705 840 917 974">モード</th> <th data-bbox="917 840 1356 974">動作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="603 974 705 1377">注1</td> <td data-bbox="705 974 917 1377"> <ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニター・モード ●CDラジオ・モニター・モード ●CD・DKスタンバイ・モード </td> <td data-bbox="917 974 1356 1377"> <p>スキャン動作を中止します。</p> <p>キーを離すタイミングにより動作が次のように異なります。</p> <p>○2秒以内にキーを離したとき キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。</p> <p>○2秒以上キーを押し続けたとき 現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="603 1377 705 1601"></td> <td data-bbox="705 1377 917 1601"> テープDK スタンバイ・モード </td> <td data-bbox="917 1377 1356 1601"> <p>スキャン動作を継続します。</p> <p>テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。</p> <p>テープ機能を兼用していないキーは、無効キーとなります。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="603 1601 705 2016">注2</td> <td data-bbox="705 1601 917 2016">—</td> <td data-bbox="917 1601 1356 2016"> <p>スキャン動作を中止します。</p> <p>キーを離すタイミングにより動作が次のように異なります。</p> <p>○2秒以内にキーを離したとき キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。</p> <p>○2秒以上キーを押し続けたとき 現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	KAMS KNR KMTL	モード	動作	注1	<ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニター・モード ●CDラジオ・モニター・モード ●CD・DKスタンバイ・モード 	<p>スキャン動作を中止します。</p> <p>キーを離すタイミングにより動作が次のように異なります。</p> <p>○2秒以内にキーを離したとき キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。</p> <p>○2秒以上キーを押し続けたとき 現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p>		テープDK スタンバイ・モード	<p>スキャン動作を継続します。</p> <p>テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。</p> <p>テープ機能を兼用していないキーは、無効キーとなります。</p>	注2	—	<p>スキャン動作を中止します。</p> <p>キーを離すタイミングにより動作が次のように異なります。</p> <p>○2秒以内にキーを離したとき キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。</p> <p>○2秒以上キーを押し続けたとき 現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p>
KAMS KNR KMTL	モード	動作											
注1	<ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニター・モード ●CDラジオ・モニター・モード ●CD・DKスタンバイ・モード 	<p>スキャン動作を中止します。</p> <p>キーを離すタイミングにより動作が次のように異なります。</p> <p>○2秒以内にキーを離したとき キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。</p> <p>○2秒以上キーを押し続けたとき 現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p>											
	テープDK スタンバイ・モード	<p>スキャン動作を継続します。</p> <p>テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。</p> <p>テープ機能を兼用していないキーは、無効キーとなります。</p>											
注2	—	<p>スキャン動作を中止します。</p> <p>キーを離すタイミングにより動作が次のように異なります。</p> <p>○2秒以内にキーを離したとき キーに対応するプリセット・メモリを呼び出します。</p> <p>○2秒以上キーを押し続けたとき 現在受信中の周波数を押したキーに対応するプリセット・メモリに書き込みます。</p>											
M1 (TP1)													
}													
M6													
	<p>注1. いずれかのスイッチがオンのとき 2. すべてのスイッチがオフのとき</p>												

記号	説明
SCAN UP	
SCAN DWN	
キー	説明
	<p>例1. キーを2秒以内に離したとき</p> <p>キーを離れた時点で押したキーに対応するプリセット・メモリの内容を受信し、スキャン動作を解除します。</p> <p>RDMUTE端子</p> <p>5 sec未満</p> <p>2 sec未満</p> <p>ホールド</p> <p>ホールド</p> <p>シーク</p> <p>局</p> <p>キー操作</p> <p>あ</p> <p>り</p> <p>M1 (TP1)</p> <p>M1 (TP1)</p> <p>キー・オン</p> <p>キー・オフ</p> <p>表示例</p> <p>90.0</p> <p>90.1</p> <p>点滅</p> <p>90.1</p> <p>点滅</p> <p>CH</p> <p>90.2</p> <p>↓</p> <p>M1の内容</p>
M1 (TP1)	
}	
M6	
	<p>2. キーを2秒以上押し続けたとき</p> <p>キーを押し続けて2秒後に、押したキーに対応するプリセット・メモリにホールド中の周波数を書き込みます。書き込み終了2秒後にホールド状態を解除し、次の放送局をサーチ（シーク動作）します。</p> <p>RDMUTE端子</p> <p>5 sec未満</p> <p>2 sec</p> <p>2 sec</p> <p>ホールド</p> <p>ホールド</p> <p>ホールド</p> <p>シーク</p> <p>局</p> <p>キー操作</p> <p>あ</p> <p>り</p> <p>M1 (TP1)</p> <p>キー押し続け</p> <p>表示例</p> <p>90.0</p> <p>90.1</p> <p>点滅</p> <p>90.1</p> <p>点滅</p> <p>CH</p> <p>90.1</p> <p>点滅</p> <p>CH</p> <p>90.2</p>

記号	説明											
<p>BAND</p>	<p>受信バンド切り替え用のキーです。</p> <p>ラジオ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード時、有効になります。</p> <p>このキーを押すごとに次のようにシーケンシャルにバンドを切り替えます。</p> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>FM1 → FM2 → FM3 → MW1 → MW2 → LW</p> </div> <p>ただし、受信地域を設定する初期設定ダイオードAREA1, AREA2, AREA3および受信バンドを設定する初期設定ダイオードENFM, DISFM3, ENMW2, DISLWにより禁止されたバンドは除いて切り替わります。</p> <p>同一バンド (FM, MW) 内のバンド切り替え (FM1 → FM2 → FM3, MW1 → MW2) 時はバンド表示とラスト・チャンネルが変化します。</p> <p>ラジオ・モードのVFバンド受信中に BAND キーを押すと、VFバンドを解除し、VFバンドを受信する前のバンドに復帰します。</p> <p>テープ・モード、CDモード、テープDKスタンバイ・モード、CD・DKスタンバイ・モード、テープDKオン・モード、CD・DKオン・モード時、BAND キーは無効となります。</p>											
<p>ME</p>	<p>ラジオ・モードで周波数表示中はプリセット・メモリ書き込み可能状態設定用キーとして、時計表示中 (CE端子 = ハイ・レベルであるとき) であれば、MAN UP、MAN DWN キーとともに用いて時計調整用キーとして使用します。</p> <p>初期設定ダイオードM2Sにより次のように動作が異なります。</p> <p>(1) M2S = 0のとき</p> <p style="padding-left: 20px;">プリセット・メモリ書き込み可能状態および時計調整用キーとして動作します。</p> <p>(a) 周波数表示のとき</p> <p style="padding-left: 20px;">プリセット・メモリ書き込み可能状態設定用キーとして使用します。</p> <p style="padding-left: 20px;">このキーを押すと、押した時点から5秒間プリセット・メモリ書き込み可能状態となります。</p> <p style="padding-left: 20px;">プリセット・メモリ書き込み可能状態中は“CH”表示が1Hz (デューティ50%) で点滅します。またプリセット・メモリを受信中であれば、プリセット・メモリ・ナンバ表示も同様に点滅します。</p> <p style="padding-left: 20px;">シーク動作中 (スキャン時のシーク動作中も含む) はこのキーは無効となります。ただしプリセット・スキャンおよびスキャン動作中の5秒間のホールド時は有効になります。</p> <p style="padding-left: 20px;">プリセット・メモリ書き込み可能状態中の他のキーの動作は次のようになります。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">キー</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">SCAN UP</td> <td rowspan="8" style="vertical-align: middle;">プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除し、各キーの動作を行います。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">SCAN DWN</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">SEEK UP</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">SEEK DWN</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">MAN UP</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">MAN DWN</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">VF</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">P.SCAN</td> </tr> </tbody> </table>	キー	説明	SCAN UP	プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除し、各キーの動作を行います。	SCAN DWN	SEEK UP	SEEK DWN	MAN UP	MAN DWN	VF	P.SCAN
キー	説明											
SCAN UP	プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除し、各キーの動作を行います。											
SCAN DWN												
SEEK UP												
SEEK DWN												
MAN UP												
MAN DWN												
VF												
P.SCAN												

記号		
ME	キー	説明
	BAND	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) ラジオ・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード時 プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除し, キーの動作を行います。</p> <p>(2) テープDKスタンバイ・モード, CD・DKスタンバイ・モード, テープDKオン・モード, CD・DKオン・モード時 プリセット・メモリ書き込み可能状態は継続します。無効キーとなります。</p>
	RDMONI	<p>モードにより動作が次のように異なります。</p> <p>(1) テープDKスタンバイ・モード, CD・DKスタンバイ・モード, テープDKオン・モード, CD・DKオン・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード, CDラジオ・モニタ・モード時 プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除し, キーの動作を行います。</p> <p>(2) ラジオ・モード時 プリセット・メモリ書き込み可能状態は継続します。無効キーとなります。</p>
	LOUD	プリセット・メモリ書き込み可能状態は継続します。キーの動作を行います。
	POWER	
	LOC	<p>初期設定ダイオードAUTOLOCの状態により, 次のように動作が異なります。</p> <p>(1) AUTOLOC = 0のとき プリセット・メモリ書き込み可能状態は継続します。キーの動作を行います。</p> <p>(2) AUTOLOC = 1のとき プリセット・メモリ書き込み可能状態は継続します。無効キーとなります。</p>
	MONO	プリセット・メモリ書き込み可能状態は継続します。キーの動作を行います。

記号	説明															
ME	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">キー</th> <th style="text-align: center;">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">M1 (TP1)</div> <div style="text-align: center;">}</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">M6</div> </td> <td> <p>初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLの状態およびモードにより、次のように動作が異なります。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">KAMS KNR KMTL</th> <th style="text-align: center;">モード</th> <th style="text-align: center;">動作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">注1</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニター・モード ●CDラジオ・モニター・モード ●テープDKモード ●CD・DKモード ●CD・DKスタンバイ・モード </td> <td>キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除します。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">テープDKスタンバイ・モード</td> <td>プリセット・メモリ書き込み可能状態は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">注2</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td>キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除します。</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1. いずれかのスイッチがオンのとき 2. すべてのスイッチがオフのとき</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p>プリセット・メモリ書き込み可能状態中にラジオをオフし、再びオンすると（テープ、CDモード切り替えも含む）書き込み可能状態を解除します。</p> <p>(b) テープ表示または “[d]” 表示のとき 無効となります。</p> <p>(c) 時計表示のとき 時計調整用のキーとして使用します。</p> <p>ME キーを押し続けている間に MAN UP , MAN DWN キーを押すことにより、それぞれ次のように分析、時桁の調整を行います。</p> <p>●時間調整</p> <p>MAN DWN キーを押すごとに1時間ずつ進みます。キーを0.5秒以上押し続けると、キーを離すまで4時間/秒（250msに1時間）の速さで連続送りをします。</p> <p>分析および秒カウント値、運針動作には影響を与えません。</p> <p>●分析調整</p> <p>MAN UP キーを押すごとに1分ずつ進みます。キーを0.5秒以上押し続けると、キーを離すまで8分/秒（125msに1分）の速さで連続送りをします。</p> <p>時桁への繰り上げはありません。また調整することに秒カウントはリセットされます。</p>	キー	説明	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">M1 (TP1)</div> <div style="text-align: center;">}</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">M6</div>	<p>初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLの状態およびモードにより、次のように動作が異なります。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">KAMS KNR KMTL</th> <th style="text-align: center;">モード</th> <th style="text-align: center;">動作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">注1</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニター・モード ●CDラジオ・モニター・モード ●テープDKモード ●CD・DKモード ●CD・DKスタンバイ・モード </td> <td>キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除します。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">テープDKスタンバイ・モード</td> <td>プリセット・メモリ書き込み可能状態は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">注2</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td>キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除します。</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1. いずれかのスイッチがオンのとき 2. すべてのスイッチがオフのとき</p>	KAMS KNR KMTL	モード	動作	注1	<ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニター・モード ●CDラジオ・モニター・モード ●テープDKモード ●CD・DKモード ●CD・DKスタンバイ・モード 	キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除します。	テープDKスタンバイ・モード	プリセット・メモリ書き込み可能状態は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。	注2	—	キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除します。
キー	説明															
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">M1 (TP1)</div> <div style="text-align: center;">}</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">M6</div>	<p>初期設定ダイオードKAMS, KNR, KMTLの状態およびモードにより、次のように動作が異なります。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">KAMS KNR KMTL</th> <th style="text-align: center;">モード</th> <th style="text-align: center;">動作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">注1</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニター・モード ●CDラジオ・モニター・モード ●テープDKモード ●CD・DKモード ●CD・DKスタンバイ・モード </td> <td>キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除します。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">テープDKスタンバイ・モード</td> <td>プリセット・メモリ書き込み可能状態は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">注2</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td>キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除します。</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1. いずれかのスイッチがオンのとき 2. すべてのスイッチがオフのとき</p>	KAMS KNR KMTL	モード	動作	注1	<ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニター・モード ●CDラジオ・モニター・モード ●テープDKモード ●CD・DKモード ●CD・DKスタンバイ・モード 	キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除します。	テープDKスタンバイ・モード	プリセット・メモリ書き込み可能状態は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。	注2	—	キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除します。				
KAMS KNR KMTL	モード	動作														
注1	<ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ・モード ●テープ・ラジオ・モニター・モード ●CDラジオ・モニター・モード ●テープDKモード ●CD・DKモード ●CD・DKスタンバイ・モード 	キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除します。														
	テープDKスタンバイ・モード	プリセット・メモリ書き込み可能状態は継続します。 テープ機能を兼用しているキーは、テープ機能のキーとなります。 テープ機能を兼用していないキーは無効キーとなります。														
注2	—	キーに対応するプリセット・メモリに現在受信中の周波数を書き込み、プリセット・メモリ書き込み可能状態を解除します。														

記号	説明
<p style="text-align: center;">ME</p>	<p>(2) M2S = 1のとき</p> <p>表示切り替えおよび時計調整用キーとして動作します。</p> <p>(a) 周波数表示, テープ表示, または “ ” 表示のとき</p> <p>初期設定ダイオードNOCLK = 1のとき, 無効となります。</p> <p>また, テープDKオン・モードまたはCD・DKオン・モードのときも無効となります。</p> <p>NOCLK = 0のとき <input type="text" value="ME"/> キーを押し離すと, 表示を切り替えます。表示切り替え動作については <input type="text" value="DISP"/> キーの項を参照してください。</p> <p>(b) モードにかかわらず時計表示のとき</p> <p>時計調整用のキーとして使用します。</p> <p><input type="text" value="ME"/> キーを押し続けている間に <input type="text" value="MAN UP"/> , <input type="text" value="MAN DWN"/> キーを押すことにより, それぞれ次のように分桁, 時桁の調整を行います。</p> <p>●時間調整</p> <p><input type="text" value="MAN DWN"/> キーを押すごとに1時間ずつ進みます。キーを0.5秒以上押し続けると, キーを離すまで4時間/秒 (250 msに1時間) の速さで連続送りをします。</p> <p>分桁および秒カウント値, 運針動作には影響を与えません。</p> <p>●分桁調整</p> <p><input type="text" value="MAN UP"/> キーを押すごとに1分ずつ進みます。キーを0.5秒以上押し続けると, キーを離すまで8分/秒 (125 msに1分) の速さで連続送りをします。</p> <p>時桁への繰り上げはありません。また調整すごとに秒カウントはリセットされます。</p> <p>時計調整を行わずに <input type="text" value="ME"/> キーを離すと表示を切り替えます。表示切り替え動作については <input type="text" value="DISP"/> キーの項を参照してください。</p>

記号	説明						
<p>MAN UP</p> <p>MAN DWN</p>	<p>ラジオ・モード時に受信周波数のアップ/ダウン用キーとして、時計表示中は、ME キーとともに用いて時計調整用キーとして使用します。またVKYSEL = 1の場合の電子ボリューム・モードでアップ/ダウンのキーとしても使用します。</p> <p>(1) ラジオ・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モード、テープDKスタンバイ・モード、CD・DKスタンバイ・モード、テープDKオン・モード、CD・DKオン・モード時初期設定ダイオードAUTO500により次のように動作します。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">AUTO500</th> <th style="text-align: center;">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">0</td> <td> <p>キーを1回押すごとに、周波数が1ステップ(1チャンネル・スペース)分アップ(MAN UP キー)またはダウン(MAN DWN キー)します。</p> <p>キーを0.5秒以上押し続けると、早送りモードとなり50 msステップの速さで連続送りします。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">1</td> <td> <p>キーを1回押すごとに、周波数が1ステップ(1チャンネル・スペース)分アップ(MAN UP キー)またはダウン(MAN DWN キー)します。</p> <p>キーを0.5秒以上押し続けると、0.5秒たった時点でシーク動作(MAN UP キーならシーク・アップ、MAN DWN キーならシーク・ダウン)を始めます。このときのシーク動作はSEEK UP , SEEK DWN キーと同様になります。</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p>(1 : ダイオードでショート 0 : オープン)</p> <p>(2) テープ・モードの“TRPE”表示またはCDモード“CD”表示中無効となります。</p> <p>(3) 時計表示中</p> <p>時計表示中でかつME キーが先に押され続けているときに、MAN UP , MAN DWN キーを押すことにより、それぞれ分析、時桁の調整が行えます。</p> <p>分析、時桁の調整方法についてはME キーの項を参照してください。</p>	AUTO500	説明	0	<p>キーを1回押すごとに、周波数が1ステップ(1チャンネル・スペース)分アップ(MAN UP キー)またはダウン(MAN DWN キー)します。</p> <p>キーを0.5秒以上押し続けると、早送りモードとなり50 msステップの速さで連続送りします。</p>	1	<p>キーを1回押すごとに、周波数が1ステップ(1チャンネル・スペース)分アップ(MAN UP キー)またはダウン(MAN DWN キー)します。</p> <p>キーを0.5秒以上押し続けると、0.5秒たった時点でシーク動作(MAN UP キーならシーク・アップ、MAN DWN キーならシーク・ダウン)を始めます。このときのシーク動作はSEEK UP , SEEK DWN キーと同様になります。</p>
AUTO500	説明						
0	<p>キーを1回押すごとに、周波数が1ステップ(1チャンネル・スペース)分アップ(MAN UP キー)またはダウン(MAN DWN キー)します。</p> <p>キーを0.5秒以上押し続けると、早送りモードとなり50 msステップの速さで連続送りします。</p>						
1	<p>キーを1回押すごとに、周波数が1ステップ(1チャンネル・スペース)分アップ(MAN UP キー)またはダウン(MAN DWN キー)します。</p> <p>キーを0.5秒以上押し続けると、0.5秒たった時点でシーク動作(MAN UP キーならシーク・アップ、MAN DWN キーならシーク・ダウン)を始めます。このときのシーク動作はSEEK UP , SEEK DWN キーと同様になります。</p>						




















記 号	説 明																								
<p>MAN UP</p> <p>MAN DWN</p>	<p>(4) 電子ボリューム機能が有効の場合 (ただしVKYSEL = 1のとき)</p> <p>VOL SEL キーで選択されたそれぞれの電子ボリューム・モードで、調整キー (アップ/ダウン) として動作します。</p> <p>VOL SEL キーで電子ボリューム・モードに設定したあと、VOL UP / VOL DWN キーと同じ調整を MAN UP / MAN DWN キーで行えます。</p> <p>電子ボリューム・モード以外の状態で MAN UP / MAN DWN キーを押しても、ボリューム・モードにはなりません。</p> <p>それぞれの電子ボリューム・モードで MAN UP キーを押すと次のように動作します。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">モード</th> <th style="text-align: center;">機 能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ボリューム</td> <td>メイン・ボリューム (音量) をアップします。</td> </tr> <tr> <td>バス</td> <td>バス (低音域) をアップします。</td> </tr> <tr> <td>トレブル</td> <td>トレブル (高音域) をアップします。</td> </tr> <tr> <td>バランス</td> <td>右側の音量を強調します。</td> </tr> <tr> <td>フェーダ</td> <td>前側の音量を強調します。</td> </tr> </tbody> </table> <p>それぞれの電子ボリューム・モードで MAN DWN キーを押すと次のように動作します。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">モード</th> <th style="text-align: center;">機 能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ボリューム</td> <td>メイン・ボリューム (音量) をダウンします。</td> </tr> <tr> <td>バス</td> <td>バス (低音域) をダウンします。</td> </tr> <tr> <td>トレブル</td> <td>トレブル (高音域) をダウンします。</td> </tr> <tr> <td>バランス</td> <td>左側の音量を強調します。</td> </tr> <tr> <td>フェーダ</td> <td>後側の音量を強調します。</td> </tr> </tbody> </table>	モード	機 能	ボリューム	メイン・ボリューム (音量) をアップします。	バス	バス (低音域) をアップします。	トレブル	トレブル (高音域) をアップします。	バランス	右側の音量を強調します。	フェーダ	前側の音量を強調します。	モード	機 能	ボリューム	メイン・ボリューム (音量) をダウンします。	バス	バス (低音域) をダウンします。	トレブル	トレブル (高音域) をダウンします。	バランス	左側の音量を強調します。	フェーダ	後側の音量を強調します。
モード	機 能																								
ボリューム	メイン・ボリューム (音量) をアップします。																								
バス	バス (低音域) をアップします。																								
トレブル	トレブル (高音域) をアップします。																								
バランス	右側の音量を強調します。																								
フェーダ	前側の音量を強調します。																								
モード	機 能																								
ボリューム	メイン・ボリューム (音量) をダウンします。																								
バス	バス (低音域) をダウンします。																								
トレブル	トレブル (高音域) をダウンします。																								
バランス	左側の音量を強調します。																								
フェーダ	後側の音量を強調します。																								
<p>LOUD</p>	<p>LOUD (ラウドネス) コントロール用のキーです。</p> <p>ラジオ、テープ、CDモードで有効となります。</p> <p>このキーを押すごとにラウドネスと電子ボリュームのラウドネス機能のオン/オフ状態を切り替えます。</p> <p>ラウドネス状態と“LOUD”表示状態、LOUD端子の出力状態および電子ボリュームICの状態を次に示します。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">ラウドネス状態</th> <th style="text-align: center;">“LOUD”表示</th> <th style="text-align: center;">LOUD端子</th> <th style="text-align: center;">電子ボリュームICの状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">ON</td> <td style="text-align: center;">点灯</td> <td style="text-align: center;">ハイ・レベル</td> <td style="text-align: center;">ラウドネスONモード</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">OFF</td> <td style="text-align: center;">消灯</td> <td style="text-align: center;">ロウ・レベル</td> <td style="text-align: center;">ラウドネスOFFモード</td> </tr> </tbody> </table> <p>ラジオ、テープ、CDのモード切り替えを行ってもラウドネス状態は保持されます。</p>	ラウドネス状態	“LOUD”表示	LOUD端子	電子ボリュームICの状態	ON	点灯	ハイ・レベル	ラウドネスONモード	OFF	消灯	ロウ・レベル	ラウドネスOFFモード												
ラウドネス状態	“LOUD”表示	LOUD端子	電子ボリュームICの状態																						
ON	点灯	ハイ・レベル	ラウドネスONモード																						
OFF	消灯	ロウ・レベル	ラウドネスOFFモード																						

記号	説明												
<p>LOC</p>	<p>ローカル (LOCAL/DX) コントロール用のキーです。</p> <p>ラジオ・モード、CDラジオ・モニタ・モード、CD・DKスタンバイ・モード、CD・DKオン・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、テープDKスタンバイ・モード、テープDKオン・モードで初期設定ダイオード AUTOLOC=0のとき有効になります。</p> <p>キーを押すごとにLOCAL/DX状態を切り替えます。</p> <p>LOCAL/DX状態と“LOC”表示状態およびLOC端子の出力状態を次に示します。</p> <table border="1" data-bbox="415 474 975 607"> <thead> <tr> <th>LOCAL/DX状態</th> <th>“LOC”表示</th> <th>LOC端子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>LOCAL</td> <td>点灯</td> <td>ハイ・レベル^注</td> </tr> <tr> <td>DX</td> <td>消灯</td> <td>ロウ・レベル</td> </tr> </tbody> </table> <p>注 ハイ・レベルを出力するのはオートチューニング時のみで、オートチューニング時以外はロウ・レベルを出力します。</p>	LOCAL/DX状態	“LOC”表示	LOC端子	LOCAL	点灯	ハイ・レベル ^注	DX	消灯	ロウ・レベル			
LOCAL/DX状態	“LOC”表示	LOC端子											
LOCAL	点灯	ハイ・レベル ^注											
DX	消灯	ロウ・レベル											
<p>MONO</p>	<p>MONO (モノラル) /STEREOコントロール用のキーです。</p> <p>ラジオ・モード、CDラジオ・モニタ・モード、CD・DKスタンバイ・モード、CD・DKオン・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、テープDKスタンバイ・モード、テープDKオン・モードで、FM, VFまたはMWバンド選択時有効になります (MWバンドは初期設定ダイオードMWWS=1でステレオ放送対応時のみ有効になります)。</p> <p>キーを押すごとにMONO/STEREO状態を切り替えます。</p> <p>MONO/STEREO状態と“ST”表示状態、“MONO”表示状態、およびMONO/NR端子の出力状態を次に示します。</p> <table border="1" data-bbox="415 1108 1202 1240"> <thead> <tr> <th>MONO/STEREO状態</th> <th>“ST”表示</th> <th>“MONO”表示</th> <th>MONO/NR端子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MONO</td> <td>消灯</td> <td>点灯</td> <td>ハイ・レベル</td> </tr> <tr> <td>STEREO</td> <td>点灯</td> <td>消灯</td> <td>ロウ・レベル</td> </tr> </tbody> </table>	MONO/STEREO状態	“ST”表示	“MONO”表示	MONO/NR端子	MONO	消灯	点灯	ハイ・レベル	STEREO	点灯	消灯	ロウ・レベル
MONO/STEREO状態	“ST”表示	“MONO”表示	MONO/NR端子										
MONO	消灯	点灯	ハイ・レベル										
STEREO	点灯	消灯	ロウ・レベル										
<p>MTL</p>	<p>MTL (METAL) コントロール用のキーです。</p> <p>ラジオ・モード、テープDKスタンバイ・モード、テープDKオン・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モードで有効となります。このキーを押すごとにMETALのオン/オフ状態を切り替えます。</p> <p>METALのオン/オフ状態と“METAL”表示状態およびMETAL端子の出力状態を次に示します。</p> <table border="1" data-bbox="415 1467 975 1599"> <thead> <tr> <th>METAL状態</th> <th>“METAL”表示</th> <th>METAL端子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ON</td> <td>点灯</td> <td>ハイ・レベル</td> </tr> <tr> <td>OFF</td> <td>消灯</td> <td>ロウ・レベル</td> </tr> </tbody> </table>	METAL状態	“METAL”表示	METAL端子	ON	点灯	ハイ・レベル	OFF	消灯	ロウ・レベル			
METAL状態	“METAL”表示	METAL端子											
ON	点灯	ハイ・レベル											
OFF	消灯	ロウ・レベル											

記号	説明									
<p style="text-align: center; border: 1px solid black; width: fit-content; margin: 0 auto;">NR</p>	<p>NR（ノイズ・リダクション）コントロール用のキーです。</p> <p>テープ・モード、テープDKスタンバイ・モード、テープDKオン・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モードで有効となります。このキーを押すごとにNRのオン/オフ状態を切り替えます。</p> <p>NRのオン/オフ状態と“NR”表示状態およびNR/MONO端子の出力状態を次に示します。</p> <table border="1" data-bbox="374 378 939 512"> <thead> <tr> <th>NR状態</th> <th>“NR”表示</th> <th>NR/MONO端子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ON</td> <td>点灯</td> <td>ハイ・レベル^注</td> </tr> <tr> <td>OFF</td> <td>消灯</td> <td>ロウ・レベル^注</td> </tr> </tbody> </table> <p>注 テープDKオン・モードおよびテープ・ラジオ・モニタ・モードについてはNR/MONO端子はMONO/STEREO状態出力端子として動作しますので、MONO/STEREO状態に対応した出力レベルとなります。</p>	NR状態	“NR”表示	NR/MONO端子	ON	点灯	ハイ・レベル ^注	OFF	消灯	ロウ・レベル ^注
NR状態	“NR”表示	NR/MONO端子								
ON	点灯	ハイ・レベル ^注								
OFF	消灯	ロウ・レベル ^注								
<p style="text-align: center; border: 1px solid black; width: fit-content; margin: 0 auto;">AMS</p>	<p>AMS（Auto Music Search）コントロール用のキーです。</p> <p>テープ・モード、テープDKスタンバイ・モード、テープDKオン・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モードで有効となります。このキーを押すごとにAMSのオン/オフ状態を切り替えます。</p> <p>AMSのオン/オフ状態と“AMS”表示状態およびAMS端子の出力状態を次に示します。</p> <table border="1" data-bbox="374 875 939 1010"> <thead> <tr> <th>AMS状態</th> <th>“AMS”表示</th> <th>AMS端子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ON</td> <td>点灯</td> <td>ハイ・レベル</td> </tr> <tr> <td>OFF</td> <td>消灯</td> <td>ロウ・レベル</td> </tr> </tbody> </table>	AMS状態	“AMS”表示	AMS端子	ON	点灯	ハイ・レベル	OFF	消灯	ロウ・レベル
AMS状態	“AMS”表示	AMS端子								
ON	点灯	ハイ・レベル								
OFF	消灯	ロウ・レベル								
<p style="text-align: center; border: 1px solid black; width: fit-content; margin: 0 auto;">RDMONI</p>	<p>ラジオ・モニタ用のキーです。</p> <p>テープ・モード、テープDKスタンバイ・モード、テープDKオン・モード、CDモード、CD・DKスタンバイ・モード、CD・DKオン・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード、CDラジオ・モニタ・モードで有効となります。</p> <p>このキーを押すごとにラジオ・モニタ・モードを反転し、ラジオ・モニタ・モード中にはLCDパネルの“RDMONI”表示を点灯します。</p> <p>ラジオ・モニタ・モード中は、すべてのバンドのチューニング動作が可能となり、ラジオ・ミュート（RDMUTE端子）をオフし、オーディオ・ミュート（AMUTE端子）をオンします。</p> <p>なお、ラジオ・モニタ・モードは次の要因で状態が変化したときに解除されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●TPSETスイッチ状態の変化 ●CDSETスイッチ状態の変化 ●CE端子のハイ・レベル→ロウ・レベルの変化 									

記号	説明																																
DISP	<p>表示の切り替えを行うためのキーです。</p> <p>初期設定ダイオードNOCLK=0（時計あり）のとき有効となります。</p> <p>ただし時計ありでもテープDKオン・モードおよびCD・DKオン・モードでは無効となります。</p> <p>表示の切り替えは次のように動作します。</p> <p>(1) ラジオ・モード時</p> <p>キーを押すごとに、周波数表示と時計表示を切り替えます。</p> <p>シーク・スキャン、オートプリセット・スキャン中は無効となります。</p> <p>初期設定ダイオードPRIO1, PRIO2により次のように動作します。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">PRIO1</th> <th style="text-align: center;">PRIO2</th> <th style="text-align: center;">優先表示</th> <th style="text-align: center;">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">なし</td> <td>DISP キーを押すごとに周波数表示と時計表示を切り替えます。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">周波数表示</td> <td>周波数表示中に DISP キーを押すと、5秒間時計表示となります。時計表示中の5秒間に再度 DISP キーを押すと、その時点で周波数表示に戻ります。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">時計表示</td> <td>時計表示中に DISP キーを押すと、5秒間周波数表示になります。周波数表示中の5秒間に再度 DISP キーを押すと、その時点で時計表示に戻ります。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1：ダイオードでショート 0：オープン)</p> <p>ラジオ・モードに切り替わったときは、周波数表示からスタートします。</p> <p>(2) テープ・モード時</p> <p>キーを押すごとに、“TAPE”表示と時計表示を切り替えます。</p> <p>初期設定ダイオードPRIO1, PRIO2により次のように動作します。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">PRIO1</th> <th style="text-align: center;">PRIO2</th> <th style="text-align: center;">優先表示</th> <th style="text-align: center;">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">なし</td> <td>DISP キーを押すごとに周波数表示と時計表示を切り替えます。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">“TAPE”表示</td> <td>“TAPE”表示中に DISP キーを押すと、5秒間時計表示となります。時計表示中の5秒間に再度 DISP キーを押すと、その時点で“TAPE”表示に戻ります。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">時計表示</td> <td>時計表示中に DISP キーを押すと、5秒間“TAPE”表示になります。“TAPE”表示中の5秒間に再度 DISP キーを押すと、その時点で時計表示に戻ります。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1：ダイオードでショート 0：オープン)</p> <p>テープ・モードに切り替わったときは、“TAPE”表示からスタートします。</p>	PRIO1	PRIO2	優先表示	説明	0	0	なし	DISP キーを押すごとに周波数表示と時計表示を切り替えます。	1	0	周波数表示	周波数表示中に DISP キーを押すと、5秒間時計表示となります。時計表示中の5秒間に再度 DISP キーを押すと、その時点で周波数表示に戻ります。	0	1	時計表示	時計表示中に DISP キーを押すと、5秒間周波数表示になります。周波数表示中の5秒間に再度 DISP キーを押すと、その時点で時計表示に戻ります。	PRIO1	PRIO2	優先表示	説明	0	0	なし	DISP キーを押すごとに周波数表示と時計表示を切り替えます。	1	0	“TAPE”表示	“TAPE”表示中に DISP キーを押すと、5秒間時計表示となります。時計表示中の5秒間に再度 DISP キーを押すと、その時点で“TAPE”表示に戻ります。	0	1	時計表示	時計表示中に DISP キーを押すと、5秒間“TAPE”表示になります。“TAPE”表示中の5秒間に再度 DISP キーを押すと、その時点で時計表示に戻ります。
PRIO1	PRIO2	優先表示	説明																														
0	0	なし	DISP キーを押すごとに周波数表示と時計表示を切り替えます。																														
1	0	周波数表示	周波数表示中に DISP キーを押すと、5秒間時計表示となります。時計表示中の5秒間に再度 DISP キーを押すと、その時点で周波数表示に戻ります。																														
0	1	時計表示	時計表示中に DISP キーを押すと、5秒間周波数表示になります。周波数表示中の5秒間に再度 DISP キーを押すと、その時点で時計表示に戻ります。																														
PRIO1	PRIO2	優先表示	説明																														
0	0	なし	DISP キーを押すごとに周波数表示と時計表示を切り替えます。																														
1	0	“TAPE”表示	“TAPE”表示中に DISP キーを押すと、5秒間時計表示となります。時計表示中の5秒間に再度 DISP キーを押すと、その時点で“TAPE”表示に戻ります。																														
0	1	時計表示	時計表示中に DISP キーを押すと、5秒間“TAPE”表示になります。“TAPE”表示中の5秒間に再度 DISP キーを押すと、その時点で時計表示に戻ります。																														

記号	説明																																
DISP	<p>(3) CDモード時</p> <p>キーを押すごとに、“CD”表示と時計表示を切り替えます。</p> <p>初期設定ダイオードPRIO1, PRIO2により次のように動作します。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">PRIO1</th> <th style="width: 10%;">PRIO2</th> <th style="width: 15%;">優先表示</th> <th style="width: 65%;">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">なし</td> <td>DISP キーを押すごとに“CD”表示と時計表示を切り替えます。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">“CD”表示</td> <td>“CD”表示中にDISP キーを押すと、5秒間時計表示となります。時計表示中の5秒間に再度DISP キーを押すと、その時点で“CD”表示に戻ります。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">時計表示</td> <td>時計表示中にDISP キーを押すと、5秒間“CD”表示になります。“CD”表示中の5秒間に再度DISP キーを押すと、その時点で時計表示に戻ります。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1:ダイオードでショート 0:オープン)</p> <p>CDモードに切り替わったときは、“CD”表示からスタートします。</p> <p>(4) テープ・ラジオ・モニタ・モード、テープDKスタンバイ・モード時</p> <p>キーを押すごとに、“TAPE”表示と周波数表示と時計表示を切り替えます。</p> <p>初期設定ダイオードPRIO1, PRIO2により次のように動作します。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">PRIO1</th> <th style="width: 10%;">PRIO2</th> <th style="width: 15%;">優先表示</th> <th style="width: 65%;">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">なし</td> <td>DISP キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ← “TAPE” → 周波数 → 時計 → </div> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">“TAPE”表示</td> <td>DISP キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ← “TAPE” → 周波数 → 時計 → </div> 周波数表示または時計表示中に何の操作もなければ5秒後に“TAPE”表示に復帰します。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">時計表示</td> <td>DISP キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ← “TAPE” → 周波数 → 時計 → </div> 周波数表示または“TAPE”表示中に何の操作もなければ5秒後に時計表示に復帰します。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>(1:ダイオードでショート 0:オープン)</p> <p>テープ・ラジオ・モニタ・モード、テープDKスタンバイ・モードに切り替わったときは周波数表示からスタートします。</p>	PRIO1	PRIO2	優先表示	説明	0	0	なし	DISP キーを押すごとに“CD”表示と時計表示を切り替えます。	1	0	“CD”表示	“CD”表示中にDISP キーを押すと、5秒間時計表示となります。時計表示中の5秒間に再度DISP キーを押すと、その時点で“CD”表示に戻ります。	0	1	時計表示	時計表示中にDISP キーを押すと、5秒間“CD”表示になります。“CD”表示中の5秒間に再度DISP キーを押すと、その時点で時計表示に戻ります。	PRIO1	PRIO2	優先表示	説明	0	0	なし	DISP キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ← “TAPE” → 周波数 → 時計 → </div>	1	0	“TAPE”表示	DISP キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ← “TAPE” → 周波数 → 時計 → </div> 周波数表示または時計表示中に何の操作もなければ5秒後に“TAPE”表示に復帰します。	0	1	時計表示	DISP キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ← “TAPE” → 周波数 → 時計 → </div> 周波数表示または“TAPE”表示中に何の操作もなければ5秒後に時計表示に復帰します。
PRIO1	PRIO2	優先表示	説明																														
0	0	なし	DISP キーを押すごとに“CD”表示と時計表示を切り替えます。																														
1	0	“CD”表示	“CD”表示中にDISP キーを押すと、5秒間時計表示となります。時計表示中の5秒間に再度DISP キーを押すと、その時点で“CD”表示に戻ります。																														
0	1	時計表示	時計表示中にDISP キーを押すと、5秒間“CD”表示になります。“CD”表示中の5秒間に再度DISP キーを押すと、その時点で時計表示に戻ります。																														
PRIO1	PRIO2	優先表示	説明																														
0	0	なし	DISP キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ← “TAPE” → 周波数 → 時計 → </div>																														
1	0	“TAPE”表示	DISP キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ← “TAPE” → 周波数 → 時計 → </div> 周波数表示または時計表示中に何の操作もなければ5秒後に“TAPE”表示に復帰します。																														
0	1	時計表示	DISP キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ← “TAPE” → 周波数 → 時計 → </div> 周波数表示または“TAPE”表示中に何の操作もなければ5秒後に時計表示に復帰します。																														

記号	説明																
<p>DISP</p>	<p>(5) CDラジオ・モニタ・モード、CD・DKスタンバイ・モード時</p> <p>キーを押すごとに、“”表示と周波数表示と時計表示を切り替えます。</p> <p>初期設定ダイオードPRIO1, PRIO2により次のように動作します。</p> <table border="1" data-bbox="420 338 1397 1106"> <thead> <tr> <th>PRI01</th> <th>PRI02</th> <th>優先表示</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>なし</td> <td> <p>DISP キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。</p> <p>→ “” → 周波数 → 時計</p> </td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>0</td> <td>“”表示</td> <td> <p>DISP キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。</p> <p>→ “” → 周波数 → 時計</p> <p>周波数表示または時計表示中に何の操作もなければ5秒後に“”表示に復帰します。</p> </td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>1</td> <td>時計表示</td> <td> <p>DISP キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。</p> <p>→ “” → 周波数 → 時計</p> <p>周波数表示または“”表示中に何の操作もなければ5秒後に時計表示に復帰します。</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p>(1：ダイオードでショート 0：オープン)</p> <p>CDラジオ・モニタ・モード、CD・DKスタンバイ・モードに切り替わったときは周波数表示からスタートします。</p>	PRI01	PRI02	優先表示	説明	0	0	なし	<p>DISP キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。</p> <p>→ “” → 周波数 → 時計</p>	1	0	“  ”表示	<p>DISP キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。</p> <p>→ “” → 周波数 → 時計</p> <p>周波数表示または時計表示中に何の操作もなければ5秒後に“”表示に復帰します。</p>	0	1	時計表示	<p>DISP キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。</p> <p>→ “” → 周波数 → 時計</p> <p>周波数表示または“”表示中に何の操作もなければ5秒後に時計表示に復帰します。</p>
PRI01	PRI02	優先表示	説明														
0	0	なし	<p>DISP キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。</p> <p>→ “” → 周波数 → 時計</p>														
1	0	“  ”表示	<p>DISP キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。</p> <p>→ “” → 周波数 → 時計</p> <p>周波数表示または時計表示中に何の操作もなければ5秒後に“”表示に復帰します。</p>														
0	1	時計表示	<p>DISP キーを押すごとに次のように表示をトグルで切り替えます。</p> <p>→ “” → 周波数 → 時計</p> <p>周波数表示または“”表示中に何の操作もなければ5秒後に時計表示に復帰します。</p>														
<p>POWER</p>	<p>モメンタリ・キーによるラジオのオン/オフを行う場合などに使用します。</p> <p>CE端子=ハイ・レベルで有効となります。</p> <p>このキーを押すことによりPOWER端子の出力を反転します。</p> <p>POWER端子の出力をロウ・レベルにする(パワーオフする)と、テープ、CD、ラジオはオンの状態からでも強制的にパワーオフされます。この時、時計ありモードでは時計表示あり、時計なしモードでは時計表示なしでパワーオフ・モードとなります。</p> <p>パワーオン時のモード状態は、RDSET、TPSET、CDSETスイッチの状態により以下のようになります。</p> <table border="1" data-bbox="420 1559 1318 1738"> <thead> <tr> <th>モード</th> <th>RDSET</th> <th>TPSET</th> <th>CDSET</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ラジオ・モード</td> <td>ON</td> <td>OFF</td> <td>OFF</td> </tr> <tr> <td>テープ・モード</td> <td>ON/OFF</td> <td>ON</td> <td>OFF</td> </tr> <tr> <td>CDモード</td> <td>ON/OFF</td> <td>ON/OFF</td> <td>ON</td> </tr> </tbody> </table> <p>注意1. 一番初めにセットに電源を与えたとき、POWER端子からはハイ・レベルが出力されます。</p> <p>以後メイン電源を切らないかぎり、CE端子：ロウ・レベル→ハイ・レベルに変化したときは、POWER端子からはCE端子 = ロウ・レベルになる以前のレベルが出力されます。</p> <p>2. ダイオード・スイッチRDON = 1の状態ではパワーのオン/オフは行わないでください。</p> <p>誤動作の原因となります。RDON = 1の場合のパワーのオン/オフは、CE端子：ロウ・レベル↔ハイ・レベルによって行ってください。</p>	モード	RDSET	TPSET	CDSET	ラジオ・モード	ON	OFF	OFF	テープ・モード	ON/OFF	ON	OFF	CDモード	ON/OFF	ON/OFF	ON
モード	RDSET	TPSET	CDSET														
ラジオ・モード	ON	OFF	OFF														
テープ・モード	ON/OFF	ON	OFF														
CDモード	ON/OFF	ON/OFF	ON														

記 号	説 明																		
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">VOL SEL</div>	電子ボリュームのモードを選択するキーです。 次のようなモードがあります。																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>モード</th> <th>機 能</th> <th>パネル表示 (初期値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ボリューム</td> <td>メイン・ボリュームの音量をコントロールします。</td> <td>VOL 88</td> </tr> <tr> <td>バス</td> <td>バス (低音域) をコントロールします。</td> <td>BAS 0</td> </tr> <tr> <td>トレブル</td> <td>トレブル (高音域) をコントロールします。</td> <td>TREB 0</td> </tr> <tr> <td>バランス</td> <td>左右の音量をコントロールします。</td> <td>BAL 0</td> </tr> <tr> <td>フェーダ</td> <td>前後の音量をコントロールします。</td> <td>FAD 0</td> </tr> </tbody> </table>	モード	機 能	パネル表示 (初期値)	ボリューム	メイン・ボリュームの音量をコントロールします。	VOL 88	バス	バス (低音域) をコントロールします。	BAS 0	トレブル	トレブル (高音域) をコントロールします。	TREB 0	バランス	左右の音量をコントロールします。	BAL 0	フェーダ	前後の音量をコントロールします。	FAD 0	
モード	機 能	パネル表示 (初期値)																	
ボリューム	メイン・ボリュームの音量をコントロールします。	VOL 88																	
バス	バス (低音域) をコントロールします。	BAS 0																	
トレブル	トレブル (高音域) をコントロールします。	TREB 0																	
バランス	左右の音量をコントロールします。	BAL 0																	
フェーダ	前後の音量をコントロールします。	FAD 0																	
	初期設定ダイオードVKYSELの状態により、次のようにモードが切り替わります。																		
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">VOL SEL</div>	キーを押すと次のようにモードが切り替わります。																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>VKYSEL</th> <th>説 明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">0</td> <td> バス・モードから始まります。 <div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">VOL SEL</div> 1 PUSH -----> バス -----> トレブル -----> バランス START ↑ ↓ ボリューム -----> フェーダ </div> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">1</td> <td> ボリューム・モードから始まります。 <div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">VOL SEL</div> 1 PUSH -----> ボリューム -----> バス -----> トレブル START ↑ ↓ フェーダ -----> バランス </div> </td> </tr> </tbody> </table>	VKYSEL	説 明	0	バス・モードから始まります。 <div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">VOL SEL</div> 1 PUSH -----> バス -----> トレブル -----> バランス START ↑ ↓ ボリューム -----> フェーダ </div>	1	ボリューム・モードから始まります。 <div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">VOL SEL</div> 1 PUSH -----> ボリューム -----> バス -----> トレブル START ↑ ↓ フェーダ -----> バランス </div>													
VKYSEL	説 明																		
0	バス・モードから始まります。 <div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">VOL SEL</div> 1 PUSH -----> バス -----> トレブル -----> バランス START ↑ ↓ ボリューム -----> フェーダ </div>																		
1	ボリューム・モードから始まります。 <div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">VOL SEL</div> 1 PUSH -----> ボリューム -----> バス -----> トレブル START ↑ ↓ フェーダ -----> バランス </div>																		
	(1: ダイオードでショート 0: オープン)																		

記号	説明																		
VOL UP	<p>電子ボリュームのそれぞれのモードを調整するキーです。</p> <p>初期設定ダイオードVKYSELの状態により、次のように異なります。</p> <table border="1" data-bbox="420 293 1403 1151"> <thead> <tr> <th data-bbox="420 293 529 338">VKYSEL</th> <th data-bbox="529 293 1403 338">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="420 338 529 875">0</td> <td data-bbox="529 338 1403 875"> <p>電子ボリューム・モード以外の状態で VOL UP キーを押すと、ボリューム・モードになり、音量をアップします。</p> <p>VOL SEL キーで選択されるそれぞれの電子ボリューム・モードで VOL UP キーを押すと次のように動作します。</p> <table border="1" data-bbox="550 521 1188 790"> <thead> <tr> <th data-bbox="550 521 664 566">モード</th> <th data-bbox="664 521 1188 566">機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="550 566 664 611">ボリューム</td> <td data-bbox="664 566 1188 611">メイン・ボリューム（音量）をアップします。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="550 611 664 656">バス</td> <td data-bbox="664 611 1188 656">バス（低音域）をアップします。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="550 656 664 701">トレブル</td> <td data-bbox="664 656 1188 701">トレブル（高音域）をアップします。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="550 701 664 745">バランス</td> <td data-bbox="664 701 1188 745">右側の音量を強調します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="550 745 664 790">フェーダ</td> <td data-bbox="664 745 1188 790">前側の音量を強調します。</td> </tr> </tbody> </table> <p>キーが0.5秒以上押されると連続的に動作します。</p> <p>3秒間なにもキーが押されないと電子ボリューム・モード設定前のモードに戻ります。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="420 875 529 1151">1</td> <td data-bbox="529 875 1403 1151"> <p>無効キーになります。</p> <p>VOL SEL キーで電子ボリューム・モードに設定したあと、VOL UP と同じ調整を MAN UP キーで行えます。</p> <p>電子ボリューム・モード以外の状態で MAN UP キーを押しても、ボリューム・モードにはなりません。</p> <p>MAN UP , MAN DWN キーの項を参照してください。</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p>(1：ダイオードでショート、0：オープン)</p>	VKYSEL	説明	0	<p>電子ボリューム・モード以外の状態で VOL UP キーを押すと、ボリューム・モードになり、音量をアップします。</p> <p>VOL SEL キーで選択されるそれぞれの電子ボリューム・モードで VOL UP キーを押すと次のように動作します。</p> <table border="1" data-bbox="550 521 1188 790"> <thead> <tr> <th data-bbox="550 521 664 566">モード</th> <th data-bbox="664 521 1188 566">機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="550 566 664 611">ボリューム</td> <td data-bbox="664 566 1188 611">メイン・ボリューム（音量）をアップします。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="550 611 664 656">バス</td> <td data-bbox="664 611 1188 656">バス（低音域）をアップします。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="550 656 664 701">トレブル</td> <td data-bbox="664 656 1188 701">トレブル（高音域）をアップします。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="550 701 664 745">バランス</td> <td data-bbox="664 701 1188 745">右側の音量を強調します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="550 745 664 790">フェーダ</td> <td data-bbox="664 745 1188 790">前側の音量を強調します。</td> </tr> </tbody> </table> <p>キーが0.5秒以上押されると連続的に動作します。</p> <p>3秒間なにもキーが押されないと電子ボリューム・モード設定前のモードに戻ります。</p>	モード	機能	ボリューム	メイン・ボリューム（音量）をアップします。	バス	バス（低音域）をアップします。	トレブル	トレブル（高音域）をアップします。	バランス	右側の音量を強調します。	フェーダ	前側の音量を強調します。	1	<p>無効キーになります。</p> <p>VOL SEL キーで電子ボリューム・モードに設定したあと、VOL UP と同じ調整を MAN UP キーで行えます。</p> <p>電子ボリューム・モード以外の状態で MAN UP キーを押しても、ボリューム・モードにはなりません。</p> <p>MAN UP , MAN DWN キーの項を参照してください。</p>
VKYSEL	説明																		
0	<p>電子ボリューム・モード以外の状態で VOL UP キーを押すと、ボリューム・モードになり、音量をアップします。</p> <p>VOL SEL キーで選択されるそれぞれの電子ボリューム・モードで VOL UP キーを押すと次のように動作します。</p> <table border="1" data-bbox="550 521 1188 790"> <thead> <tr> <th data-bbox="550 521 664 566">モード</th> <th data-bbox="664 521 1188 566">機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="550 566 664 611">ボリューム</td> <td data-bbox="664 566 1188 611">メイン・ボリューム（音量）をアップします。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="550 611 664 656">バス</td> <td data-bbox="664 611 1188 656">バス（低音域）をアップします。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="550 656 664 701">トレブル</td> <td data-bbox="664 656 1188 701">トレブル（高音域）をアップします。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="550 701 664 745">バランス</td> <td data-bbox="664 701 1188 745">右側の音量を強調します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="550 745 664 790">フェーダ</td> <td data-bbox="664 745 1188 790">前側の音量を強調します。</td> </tr> </tbody> </table> <p>キーが0.5秒以上押されると連続的に動作します。</p> <p>3秒間なにもキーが押されないと電子ボリューム・モード設定前のモードに戻ります。</p>	モード	機能	ボリューム	メイン・ボリューム（音量）をアップします。	バス	バス（低音域）をアップします。	トレブル	トレブル（高音域）をアップします。	バランス	右側の音量を強調します。	フェーダ	前側の音量を強調します。						
モード	機能																		
ボリューム	メイン・ボリューム（音量）をアップします。																		
バス	バス（低音域）をアップします。																		
トレブル	トレブル（高音域）をアップします。																		
バランス	右側の音量を強調します。																		
フェーダ	前側の音量を強調します。																		
1	<p>無効キーになります。</p> <p>VOL SEL キーで電子ボリューム・モードに設定したあと、VOL UP と同じ調整を MAN UP キーで行えます。</p> <p>電子ボリューム・モード以外の状態で MAN UP キーを押しても、ボリューム・モードにはなりません。</p> <p>MAN UP , MAN DWN キーの項を参照してください。</p>																		

記号	説明																		
VOL DWN	<p>電子ボリュームのそれぞれのモードを調整するキーです。</p> <p>初期設定ダイオードVKYSELの状態により、次のように異なります。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">VKYSEL</th> <th style="text-align: center;">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">0</td> <td> <p>電子ボリューム・モード以外の状態で VOL DWN キーを押すと、ボリューム・モードになり、音量をダウンします。</p> <p>VOL SEL キーで選択されるそれぞれの電子ボリューム・モードでキーを押すと以下のように動作します。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">モード</th> <th style="text-align: center;">機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">ボリューム</td> <td>メイン・ボリューム（音量）をダウンします。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">バス</td> <td>バス（低音域）をダウンします。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">トレブル</td> <td>トレブル（高音域）をダウンします。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">バランス</td> <td>左側の音量を強調します。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">フェーダ</td> <td>後側の音量を強調します。</td> </tr> </tbody> </table> <p>キーが0.5秒以上押されると連続的に動作します。</p> <p>3秒間なにもキーが押されないと電子ボリューム・モード設定前のモードに戻ります。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td> <p>無効キーになります。</p> <p>VOL SEL キーで電子ボリューム・モードに設定したあと、VOL DWN と同じ調整を MAN DWN キーで行えます。</p> <p>電子ボリューム・モード以外の状態で MAN DWN キーを押しても、ボリューム・モードにはなりません。</p> <p>MAN UP、MAN DWN キーの項を参照してください。</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p>(1：ダイオードでショート、0：オープン)</p>	VKYSEL	説明	0	<p>電子ボリューム・モード以外の状態で VOL DWN キーを押すと、ボリューム・モードになり、音量をダウンします。</p> <p>VOL SEL キーで選択されるそれぞれの電子ボリューム・モードでキーを押すと以下のように動作します。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">モード</th> <th style="text-align: center;">機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">ボリューム</td> <td>メイン・ボリューム（音量）をダウンします。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">バス</td> <td>バス（低音域）をダウンします。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">トレブル</td> <td>トレブル（高音域）をダウンします。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">バランス</td> <td>左側の音量を強調します。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">フェーダ</td> <td>後側の音量を強調します。</td> </tr> </tbody> </table> <p>キーが0.5秒以上押されると連続的に動作します。</p> <p>3秒間なにもキーが押されないと電子ボリューム・モード設定前のモードに戻ります。</p>	モード	機能	ボリューム	メイン・ボリューム（音量）をダウンします。	バス	バス（低音域）をダウンします。	トレブル	トレブル（高音域）をダウンします。	バランス	左側の音量を強調します。	フェーダ	後側の音量を強調します。	1	<p>無効キーになります。</p> <p>VOL SEL キーで電子ボリューム・モードに設定したあと、VOL DWN と同じ調整を MAN DWN キーで行えます。</p> <p>電子ボリューム・モード以外の状態で MAN DWN キーを押しても、ボリューム・モードにはなりません。</p> <p>MAN UP、MAN DWN キーの項を参照してください。</p>
VKYSEL	説明																		
0	<p>電子ボリューム・モード以外の状態で VOL DWN キーを押すと、ボリューム・モードになり、音量をダウンします。</p> <p>VOL SEL キーで選択されるそれぞれの電子ボリューム・モードでキーを押すと以下のように動作します。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">モード</th> <th style="text-align: center;">機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">ボリューム</td> <td>メイン・ボリューム（音量）をダウンします。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">バス</td> <td>バス（低音域）をダウンします。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">トレブル</td> <td>トレブル（高音域）をダウンします。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">バランス</td> <td>左側の音量を強調します。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">フェーダ</td> <td>後側の音量を強調します。</td> </tr> </tbody> </table> <p>キーが0.5秒以上押されると連続的に動作します。</p> <p>3秒間なにもキーが押されないと電子ボリューム・モード設定前のモードに戻ります。</p>	モード	機能	ボリューム	メイン・ボリューム（音量）をダウンします。	バス	バス（低音域）をダウンします。	トレブル	トレブル（高音域）をダウンします。	バランス	左側の音量を強調します。	フェーダ	後側の音量を強調します。						
モード	機能																		
ボリューム	メイン・ボリューム（音量）をダウンします。																		
バス	バス（低音域）をダウンします。																		
トレブル	トレブル（高音域）をダウンします。																		
バランス	左側の音量を強調します。																		
フェーダ	後側の音量を強調します。																		
1	<p>無効キーになります。</p> <p>VOL SEL キーで電子ボリューム・モードに設定したあと、VOL DWN と同じ調整を MAN DWN キーで行えます。</p> <p>電子ボリューム・モード以外の状態で MAN DWN キーを押しても、ボリューム・モードにはなりません。</p> <p>MAN UP、MAN DWN キーの項を参照してください。</p>																		
MUTE	<p>電子ボリュームのミュート機能をコントロールします。</p> <p>ミュート中以外にキーを押すことでミュート（消音）モードになります。</p> <p>ミュート中はボリューム値を表示しながら、表示全体が点滅します。</p> <p>次の場合にミュート機能が解除されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● DISP キー以外の有効キーが押された場合 ● モードが変わった場合 ● シーク、スキャン中に MUTE キーを押した状態で局があった場合 ● ミュート中に MUTE キーを押した場合 																		
CD	<p>CD キーを押すごとに、CDOOUT端子（11ピン）の出力を反転します。</p> <p>CDOOUT出力を使用することにより次のようなアプリケーションも可能です。</p> <p>CDOOUT出力によって、CDSETに接続したトランジスタ・スイッチをオン/オフさせることにより、CD キーによるCDモードのオン/オフが行えます。</p> <div style="text-align: center;"> </div>																		

3. モード遷移

μPD17012GF-054ではラジオのオン/オフを行う方法として、次の二通りの方法が使用できます。

- (1) 初期設定ダイオードRDONを1にして、CE端子状態の切り替えによるラジオのオン/オフを行う。
- (2) 初期設定ダイオードRDONを0にして、CE端子がハイ・レベルの状態ではトランジスタまたはオルタネート・スイッチRDSETをオン/オフしてラジオのオン/オフを行う。

各動作時の状態遷移図をそれぞれ3.1, 3.2に示します。

3.1 初期設定ダイオードRDONが1のときのモード遷移（CE端子状態の切り替えによるラジオのオン/オフ）

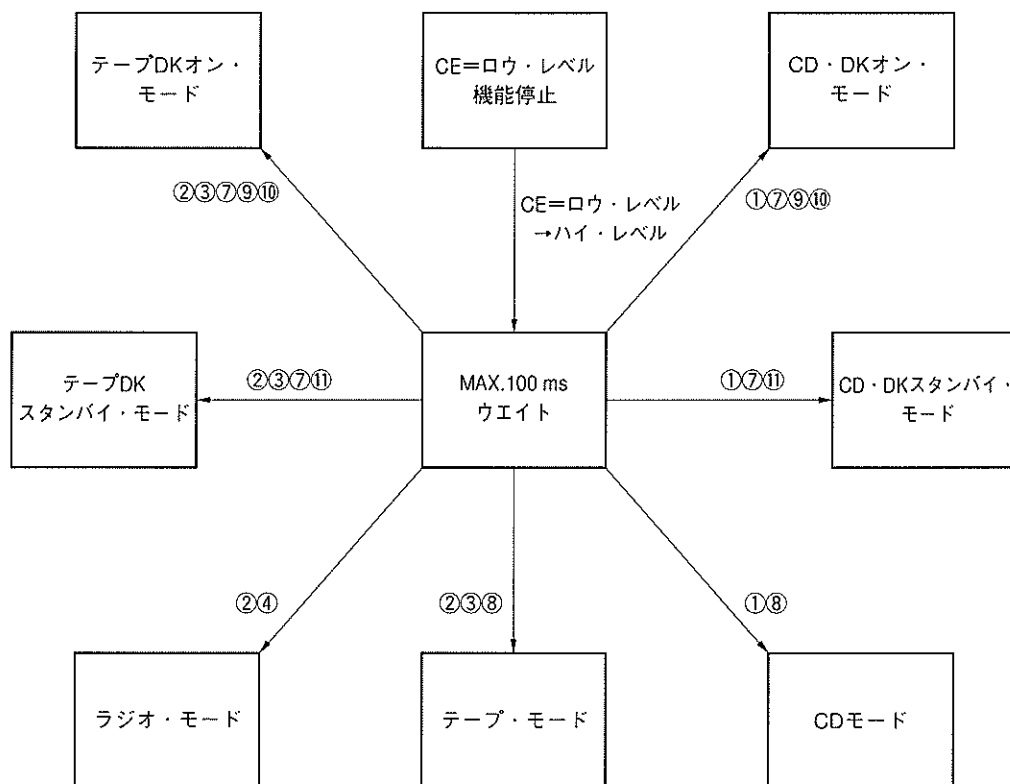
ラジオ・モードのオン/オフはCE端子状態を切り替えることにより行います。

TPSETおよびCDSETスイッチは、CE端子=ハイ・レベル時のみ有効となります。

RDSETスイッチは無効となります。

CE端子をロウ・レベルにすると、初期設定ダイオードNOCLKの状態にかかわらず時計表示は行いません。ただしNOCLK = 0（時計あり）の場合は時計の運針を行います。

(1) CE端子がロウ・レベル→ハイ・レベルに変化したときのモード遷移

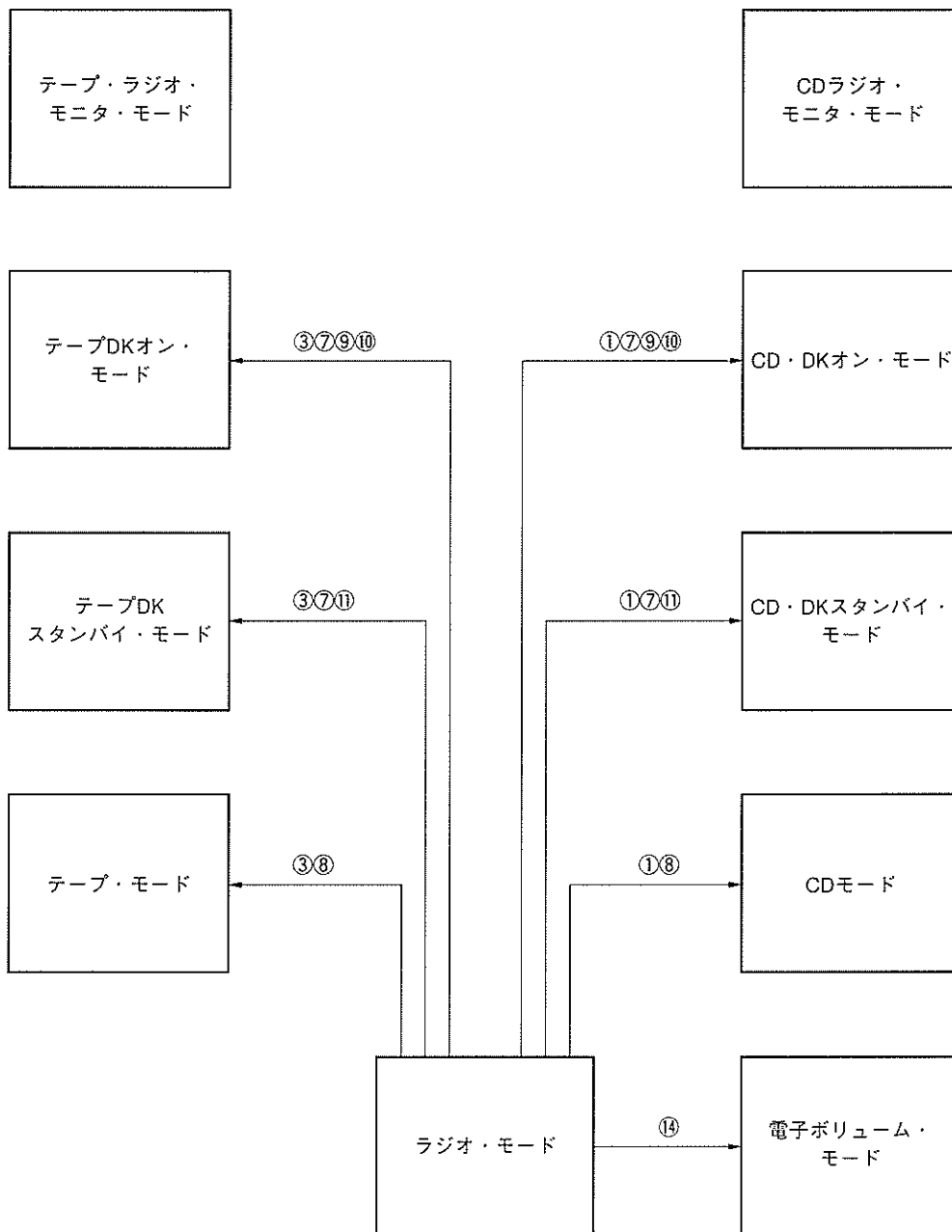


備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|--------------------------------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | |
| ⑤：RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

(2) CE端子がハイ・レベルのときのモード遷移

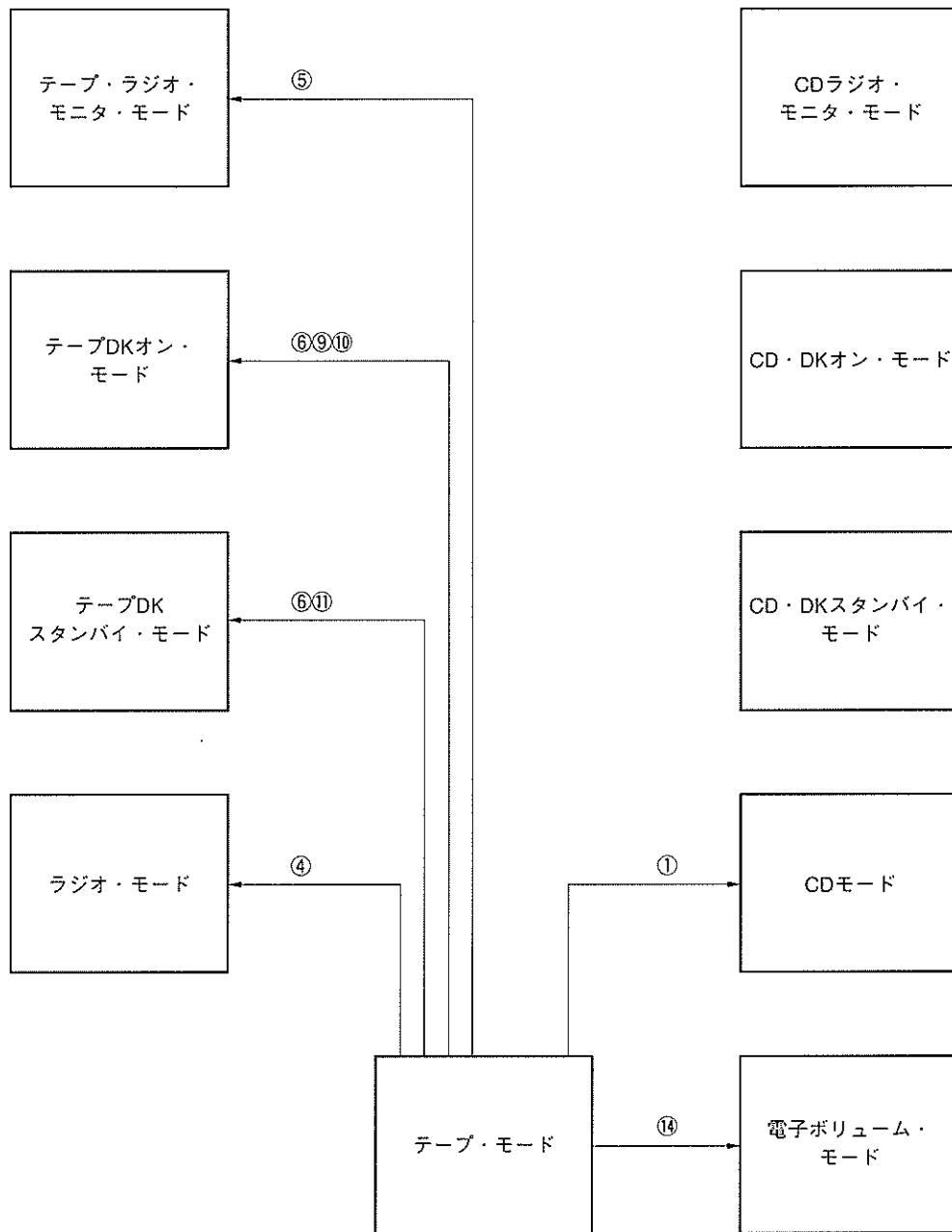
(a) ラジオ・モードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|--|--------------------------------------|--------------------------------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥： <input type="checkbox"/> VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | ⑭：電子ボリューム関連キー・オン |
| ⑤： <input type="checkbox"/> RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

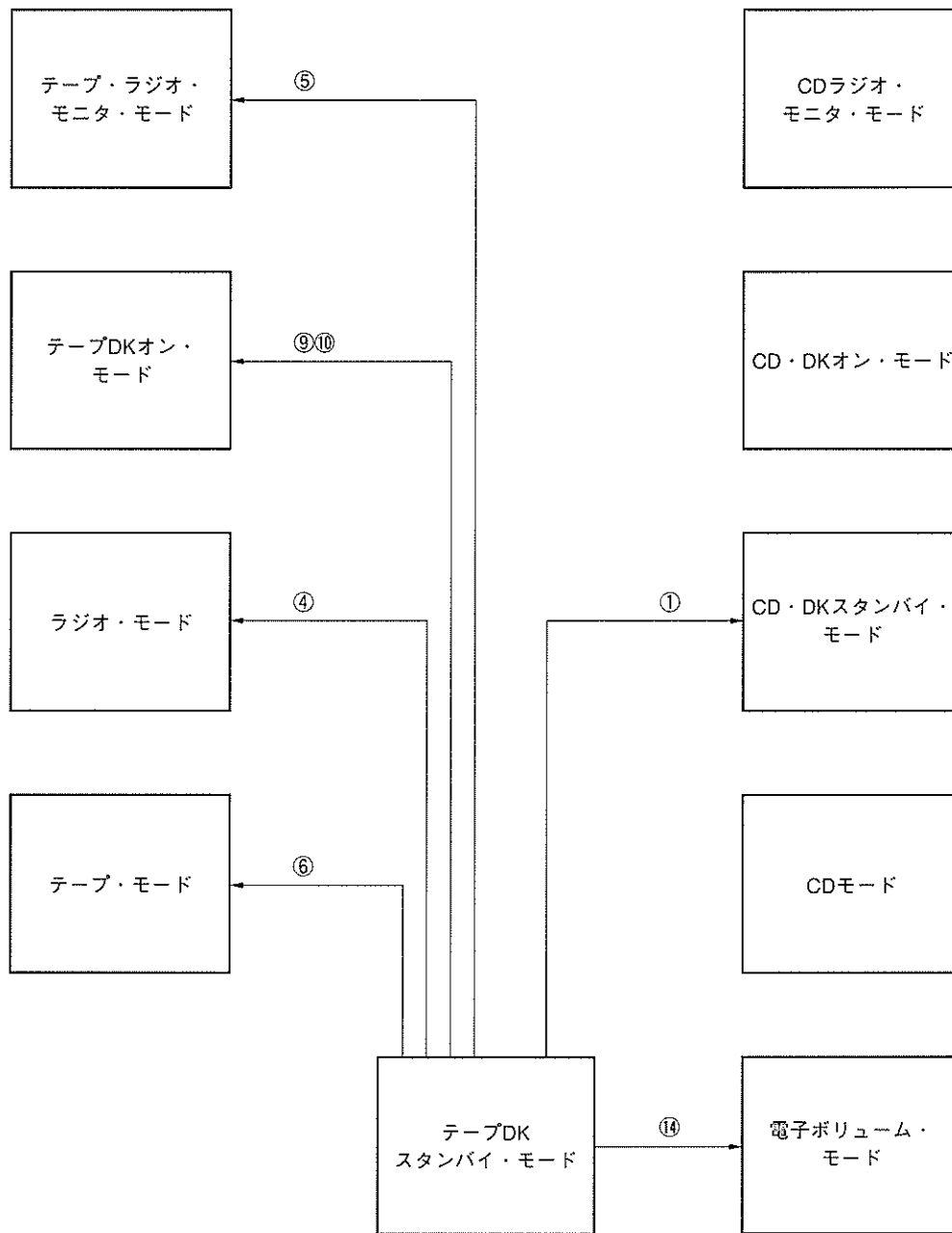
(b) テープ・モードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|--------------------------------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VFキー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | ⑭：電子ボリューム関連キー・オン |
| ⑤：RDMONIキー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

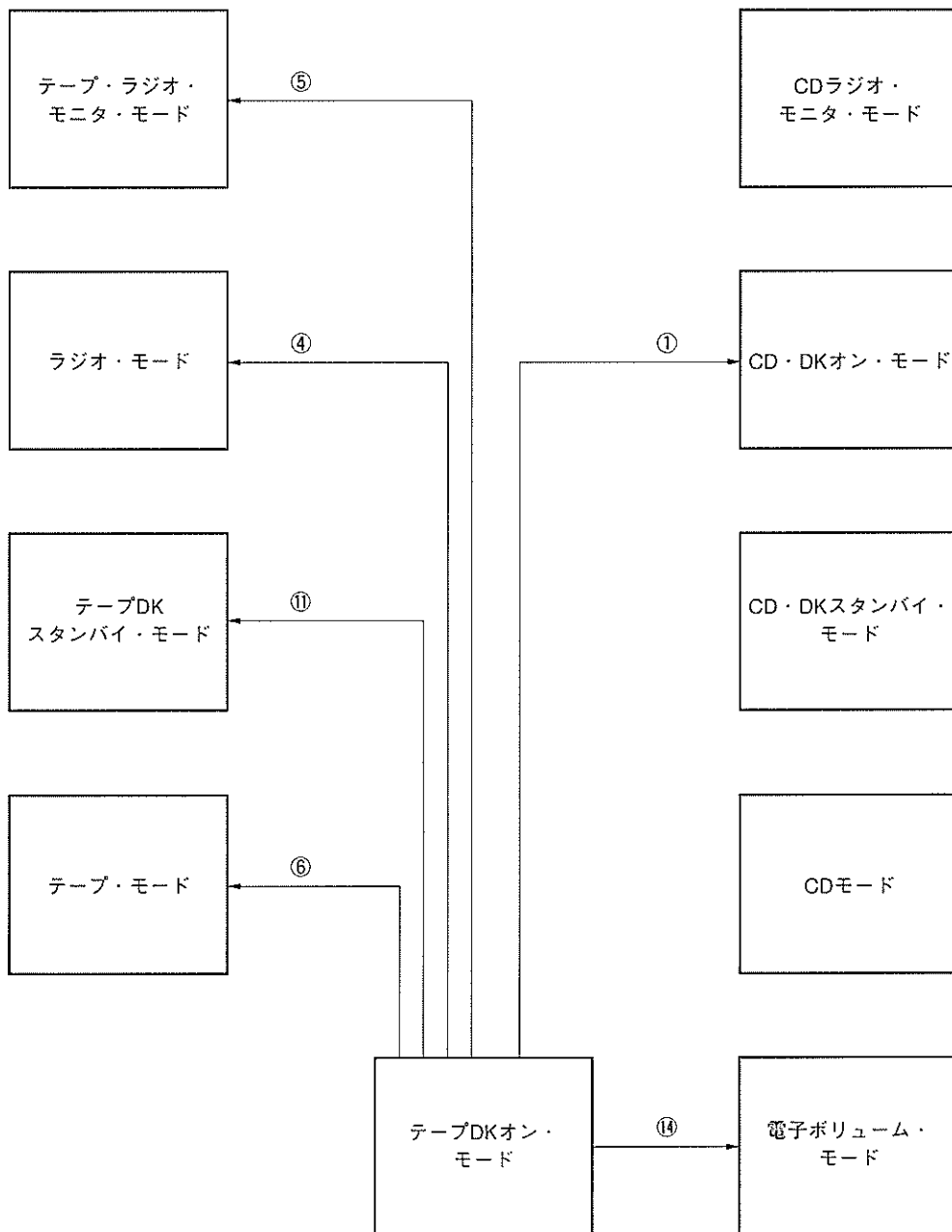
(c) テープDKスタンバイ・モードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|---|---|--------------------------------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥： VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | ⑭：電子ボリューム関連 キー・オン |
| ⑤： RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

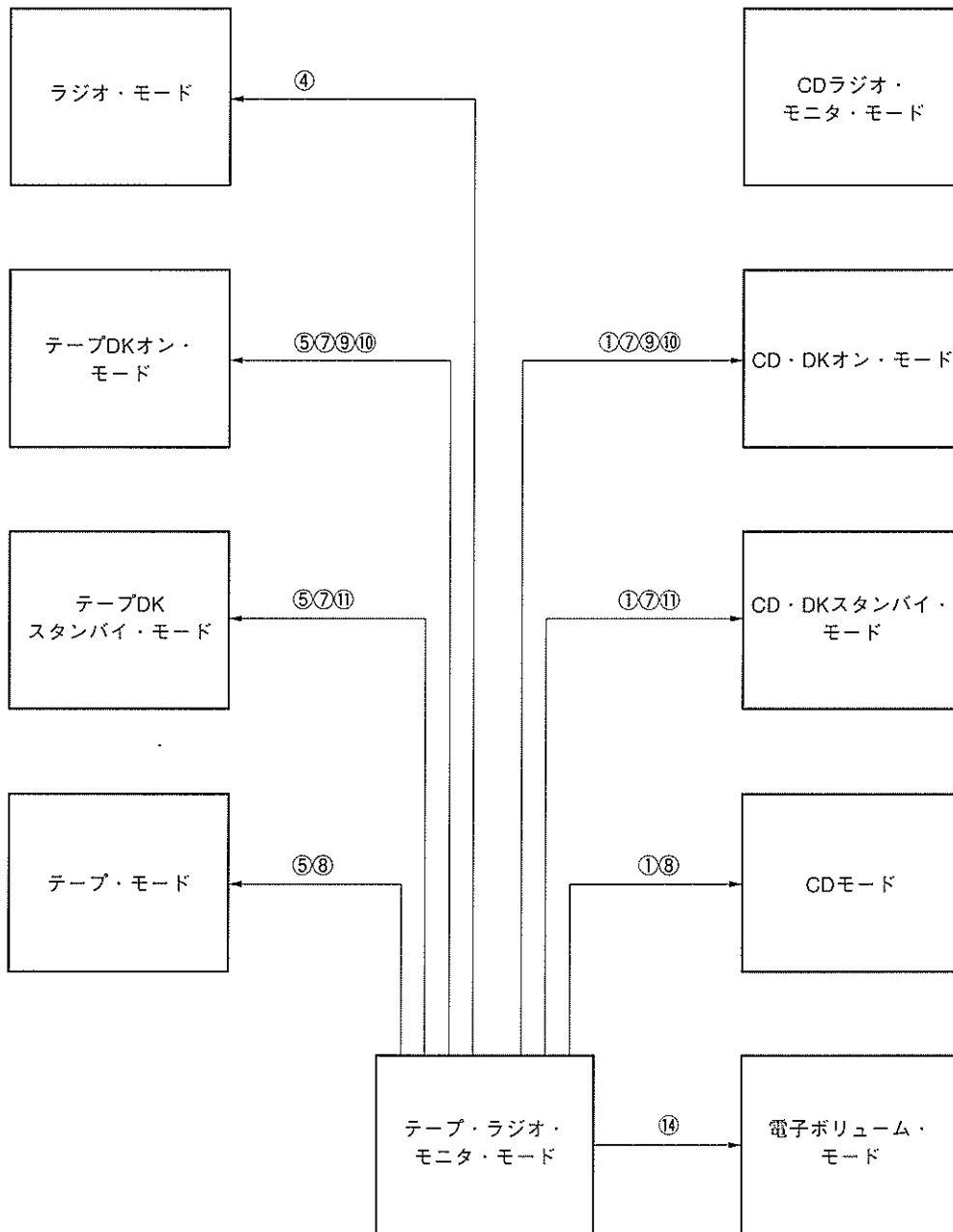
(d) テープDKオン・モードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|--|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or
SKスイッチ・オフ or
DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | ⑭：電子ボリューム関連
キー・オン |
| ⑤：RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

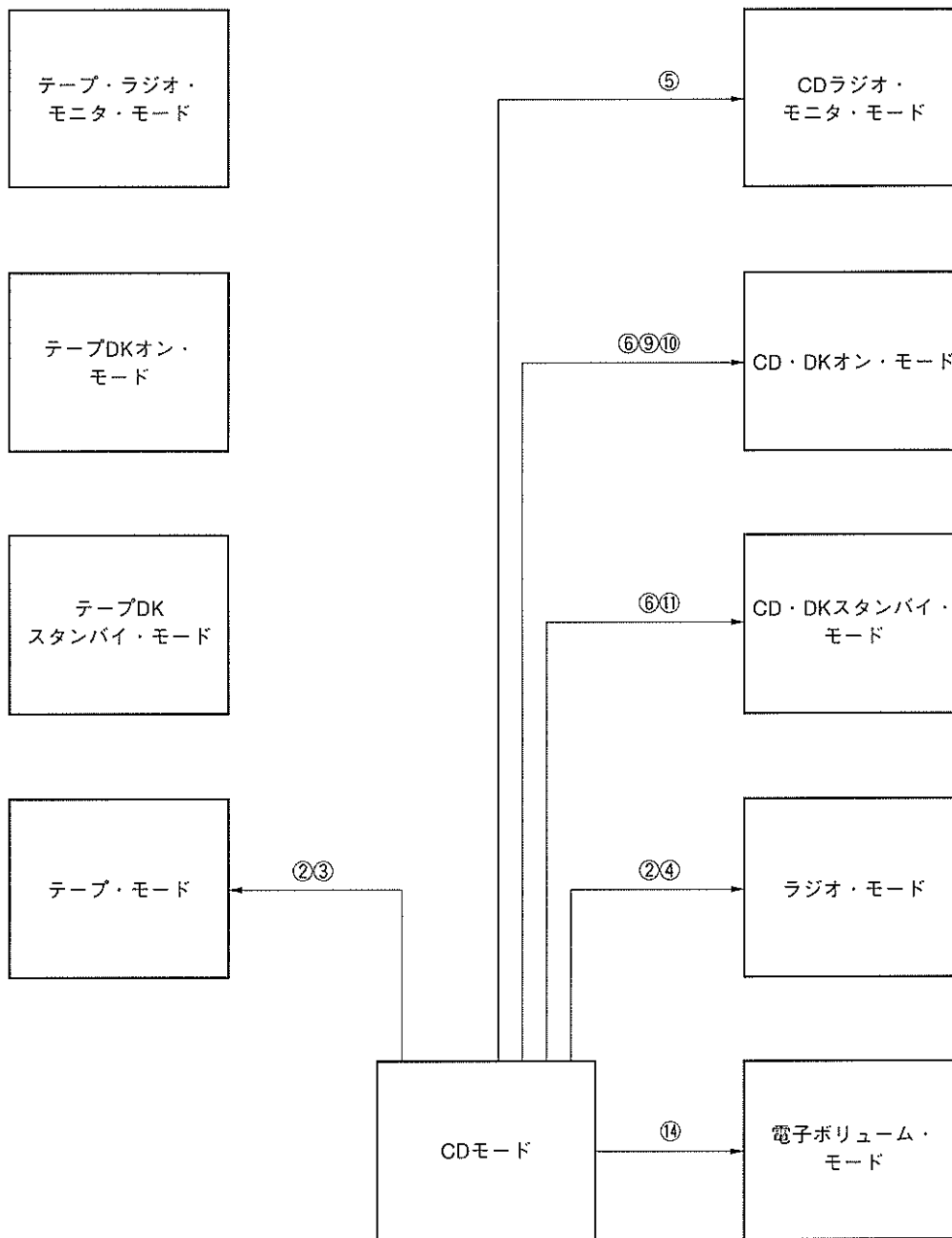
(e) テープ・ラジオ・モニタ・モードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|--------------------------------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | ⑭：電子ボリューム関連 キー・オン |
| ⑤：RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

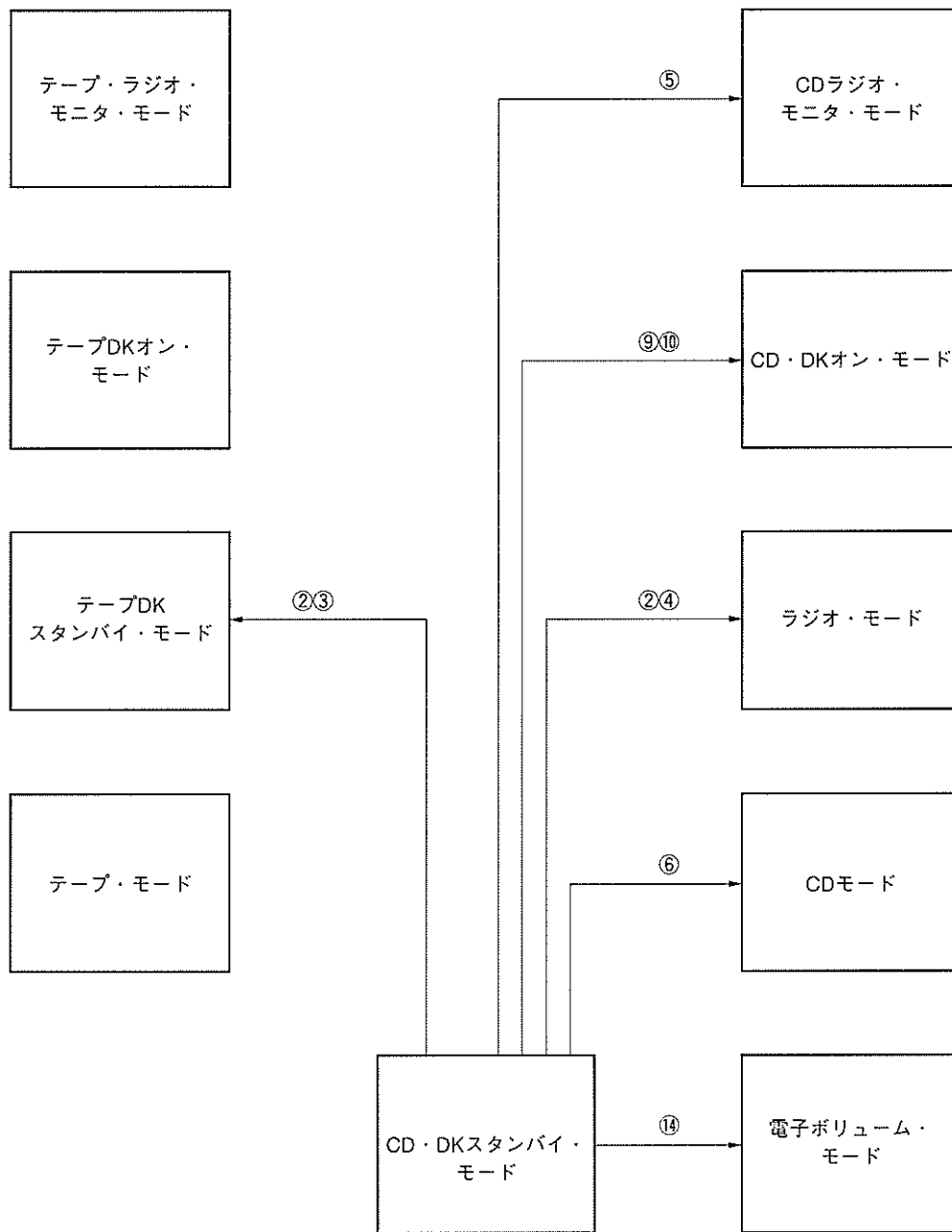
(f) CDモードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|--|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or
SKスイッチ・オフ or
DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | ⑭：電子ボリューム関連
キー・オン |
| ⑤：RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

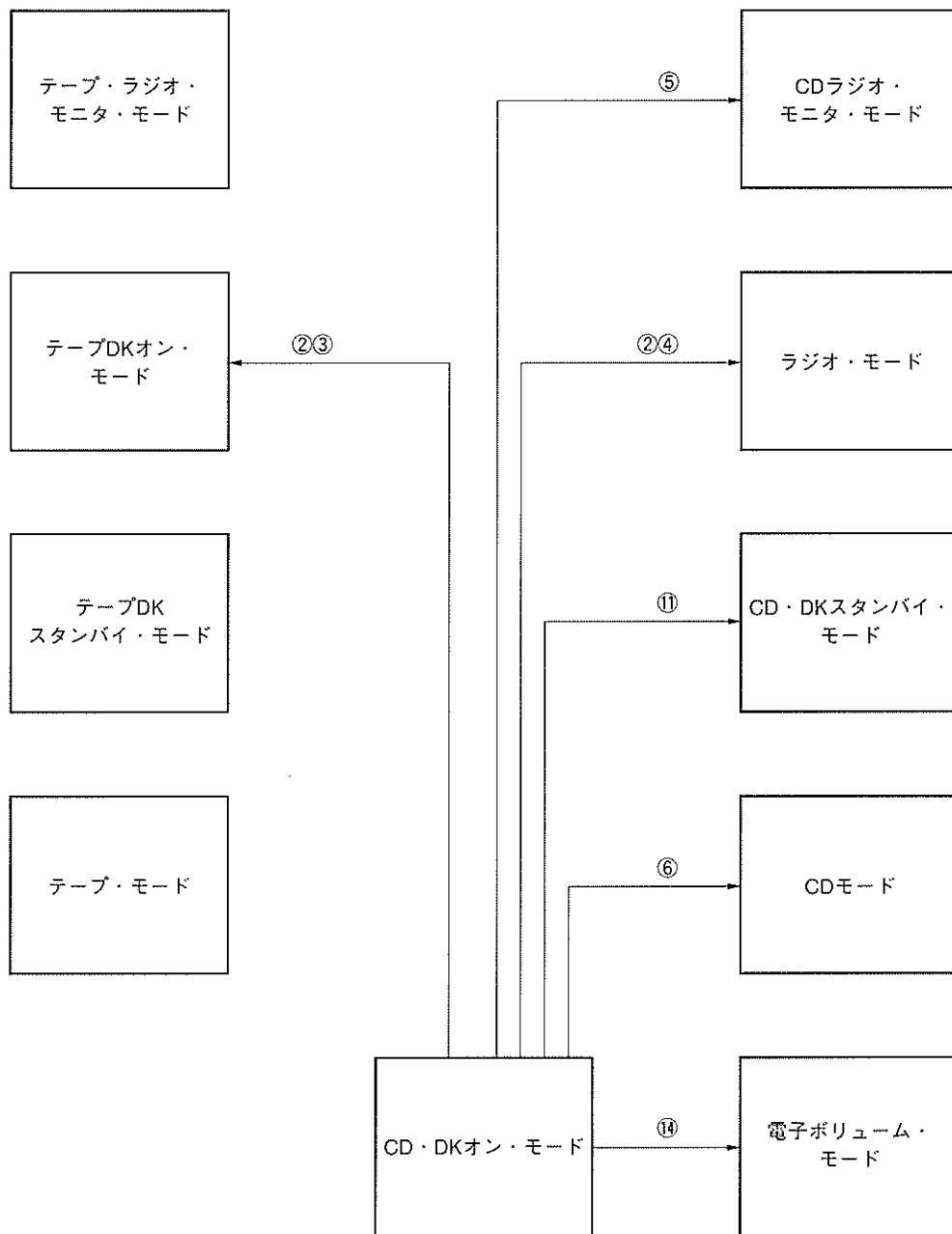
(g) CD・DKスタンバイ・モードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|--------------------------------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | ⑭：電子ボリューム関連 キー・オン |
| ⑤：RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

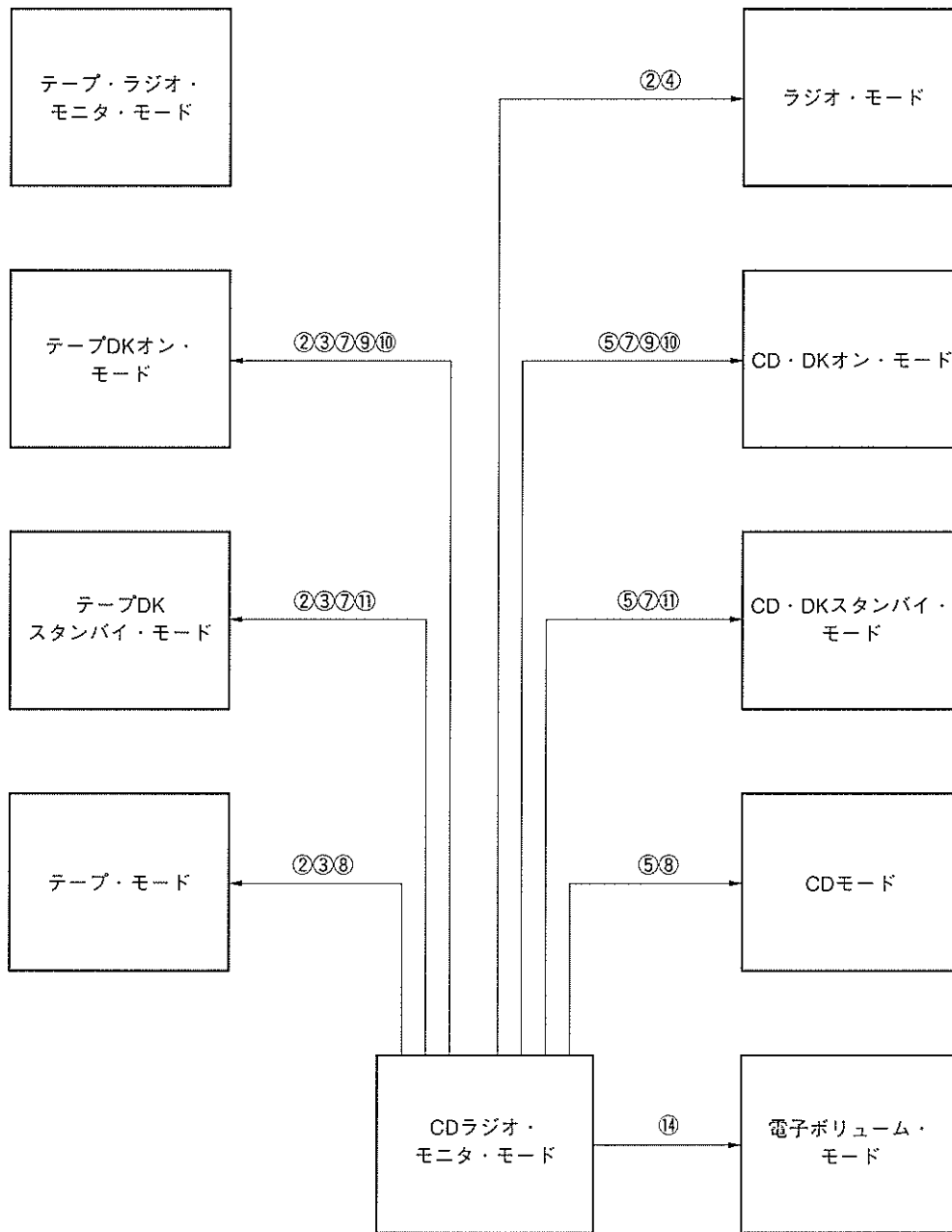
(h) CD・DKオン・モードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|--|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or
SKスイッチ・オフ or
DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | ⑭：電子ボリューム関連
キー・オン |
| ⑤：RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

(i) CDラジオ・モニタ・モードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|--|--------------------------------------|--------------------------------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥： <input type="checkbox"/> VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | ⑭：電子ボリューム関連 キー・オン |
| ⑤： <input type="checkbox"/> RDMON! キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

3.2 初期設定ダイオードRDONが0のときのモード遷移

(RDSETスイッチ状態の切り替えによるラジオのオン/オフ)

ラジオ・モードのオン/オフはRDSETスイッチ状態を切り替えることにより行います。

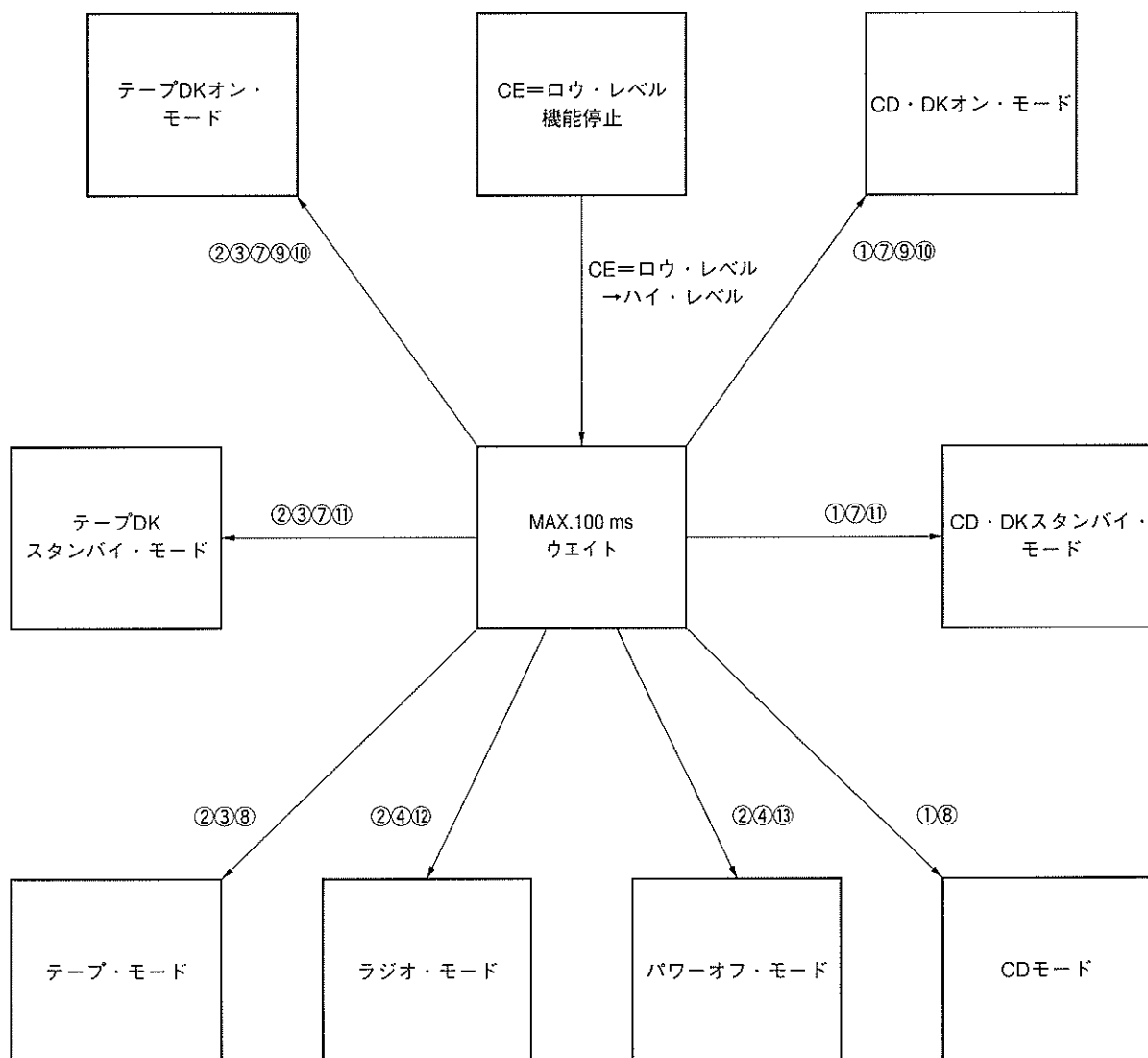
RDSET, TPSETおよびCDSETスイッチは、CE端子=ハイ・レベル時のみ有効となります。

CE端子をロウ・レベルにすると、初期設定ダイオードNOCLKの状態にかかわらず、時計表示は行いません。ただしNOCLK=0(時計あり)の場合は、時計の運針を行います。

(1) CE端子がロウ・レベル→ハイ・レベルに変化したときのモード遷移

ラジオ・モードのオン/オフはRDSETスイッチにより行います。

テープおよびCDモードへの切り替えはそれぞれTPSETおよびCDSETスイッチにより行います。

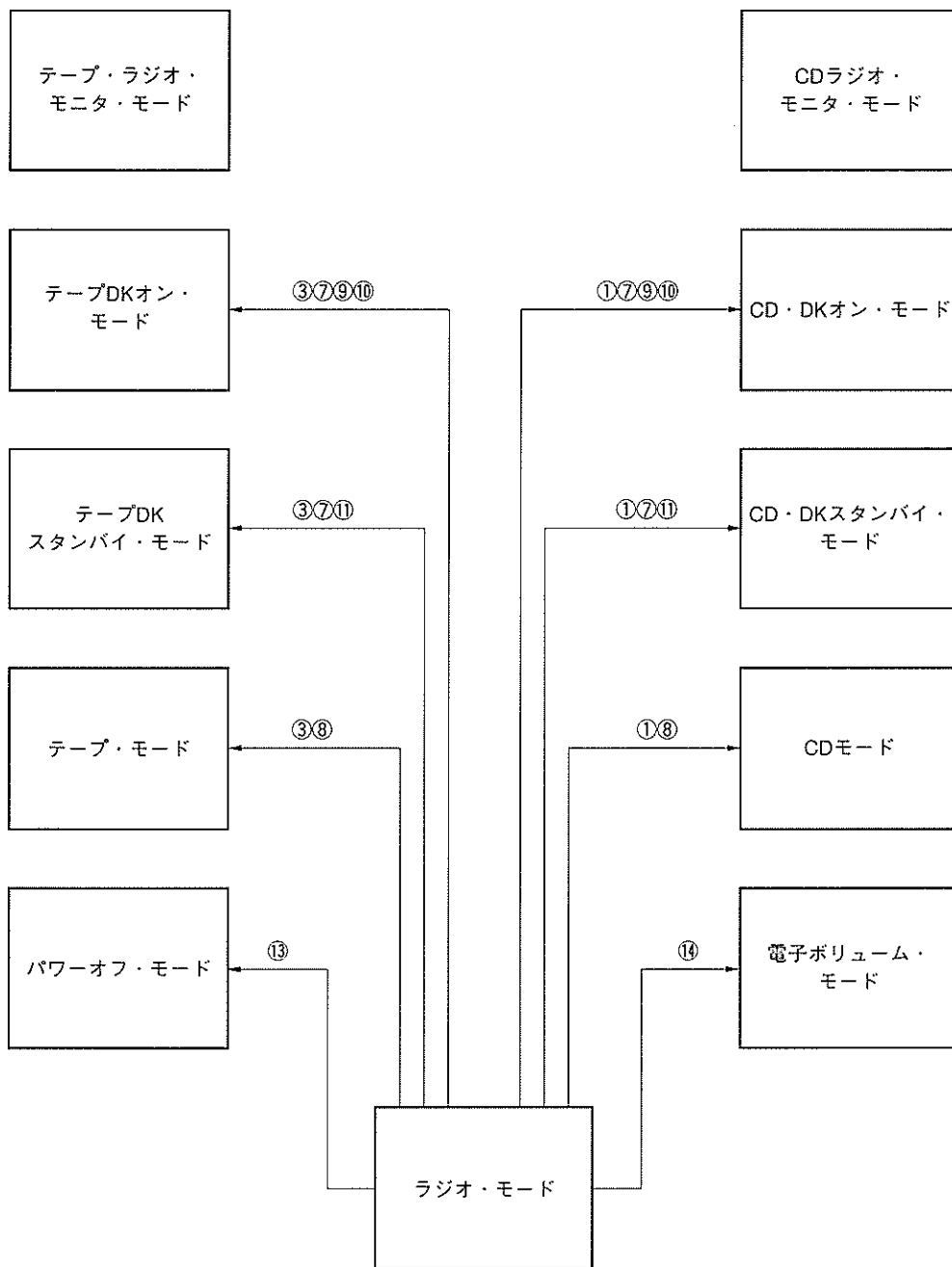


備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|--------------------------------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | |
| ⑤：RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

(2) CE端子がハイ・レベルのときのモード遷移

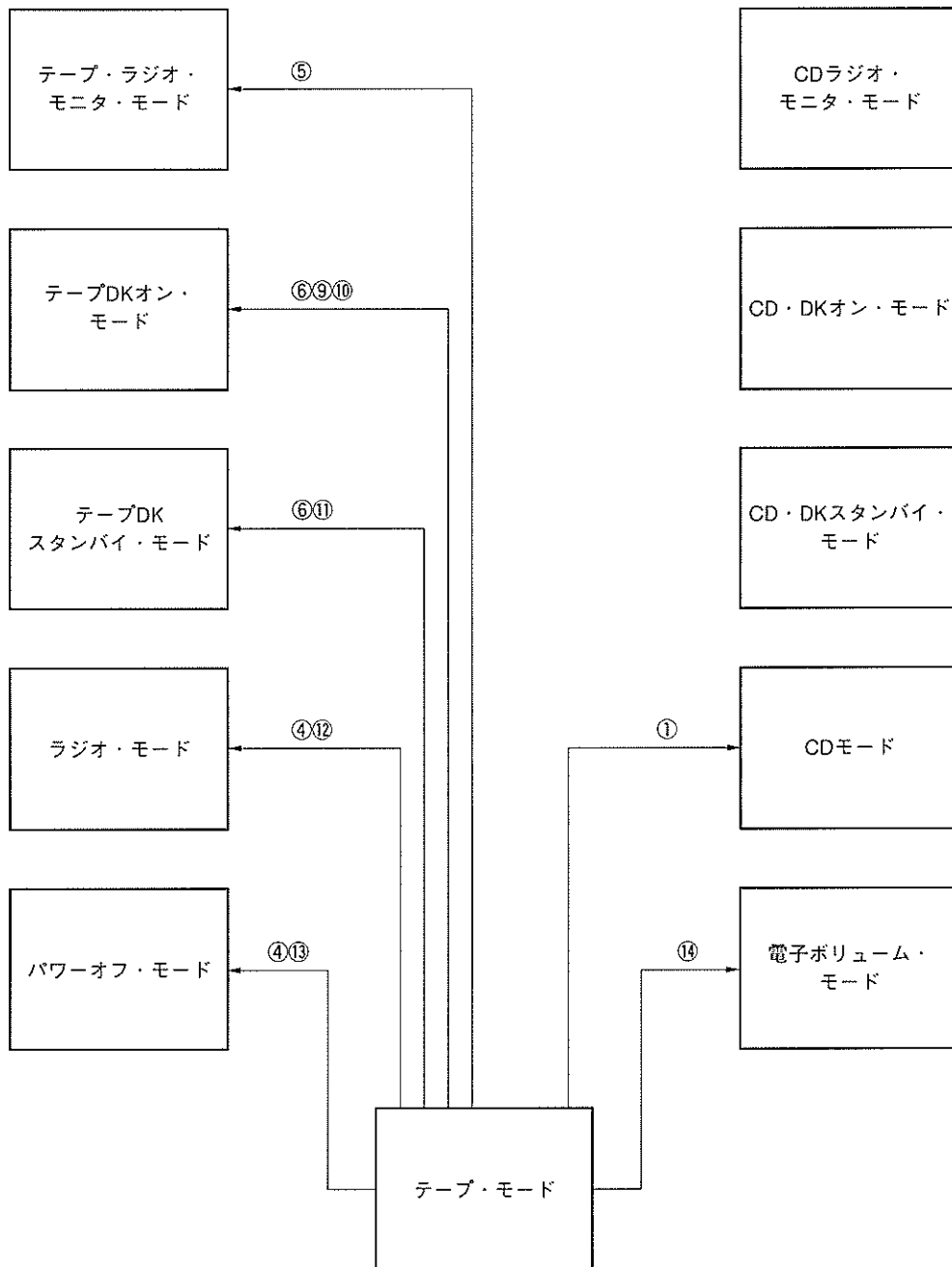
(a) ラジオ・モードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|--------------------------------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | ⑭：電子ボリューム関連 キー・オン |
| ⑤：RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

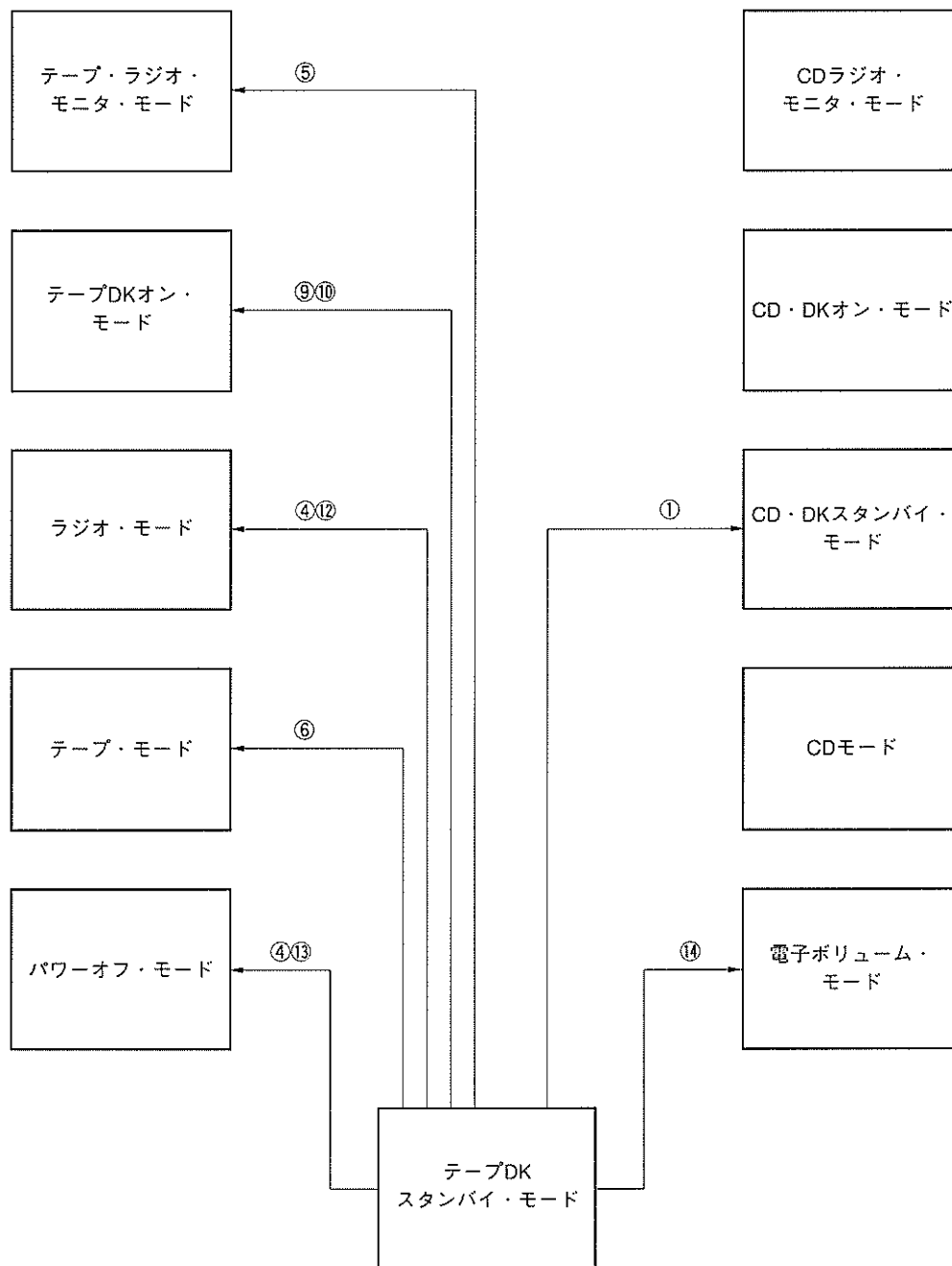
(b) テープ・モードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|--------------------------------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VFキー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | ⑭：電子ボリューム関連キー・オン |
| ⑤：RDMONIキー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

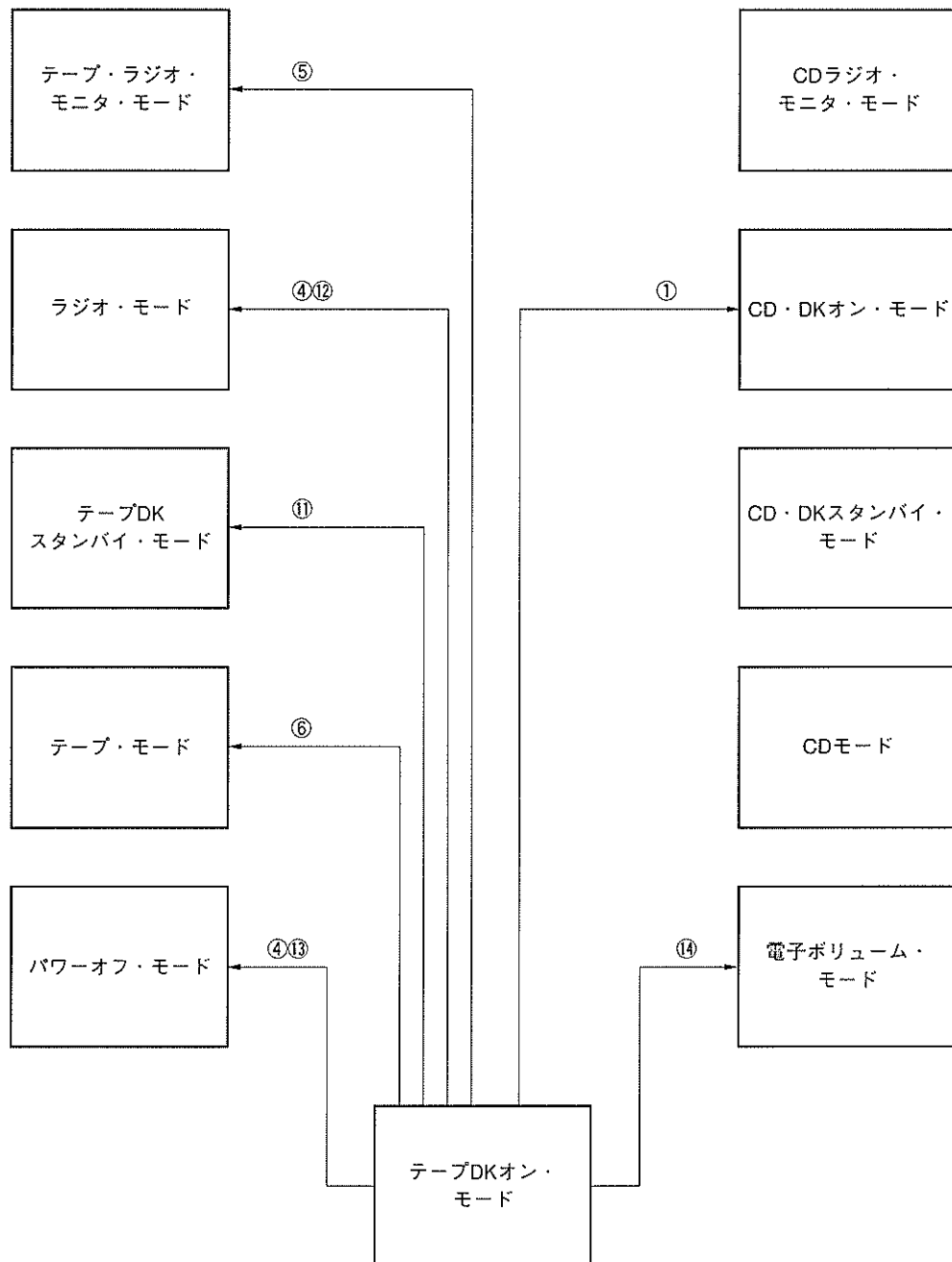
(c) テープDKスタンバイ・モードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|--------------------------------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | ⑭：電子ボリューム関連 キー・オン |
| ⑤：RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

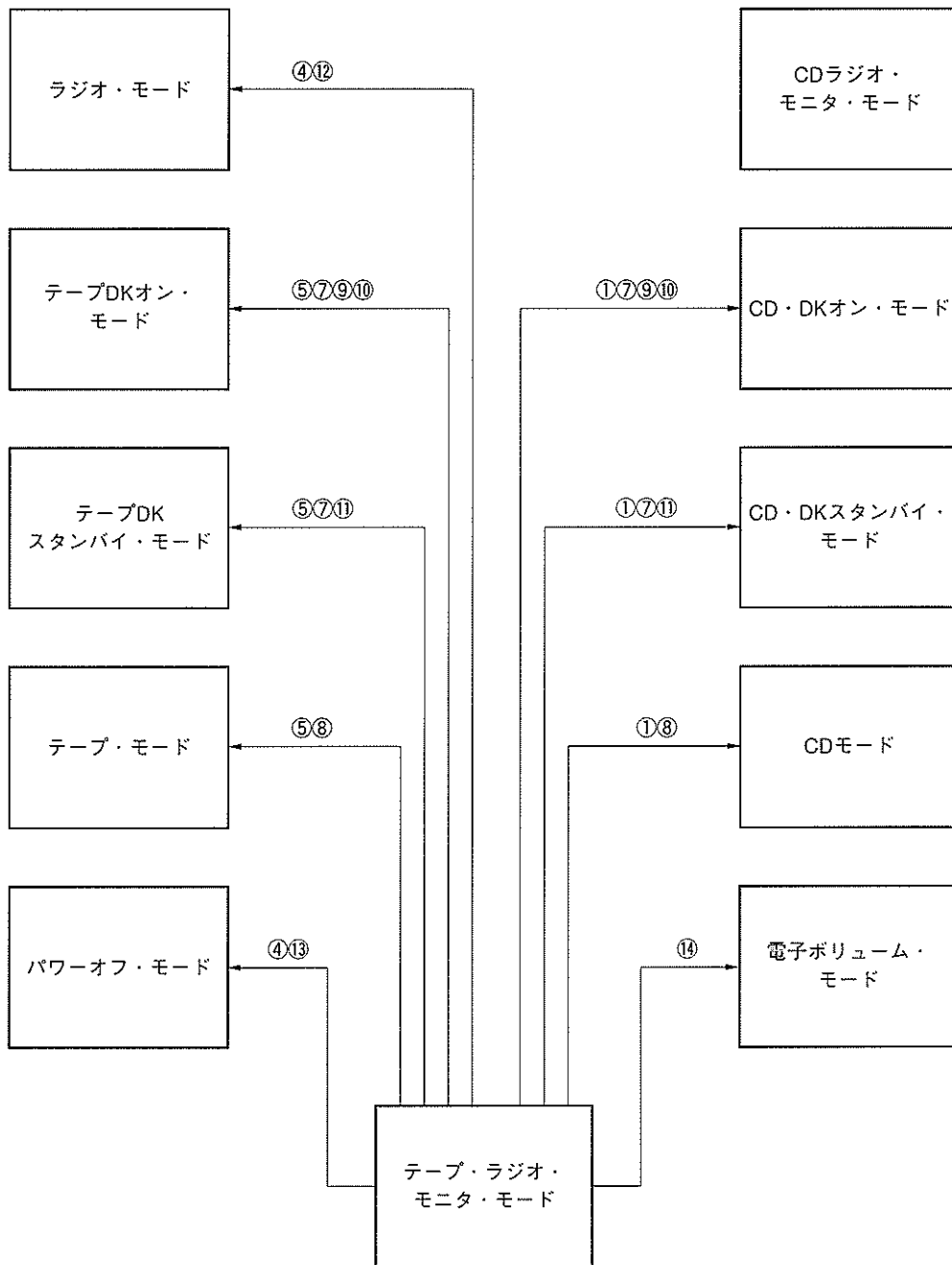
(d) テープDKオン・モードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|--------------------------------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VFキー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | ⑭：電子ボリューム関連キー・オン |
| ⑤：RDMONIキー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

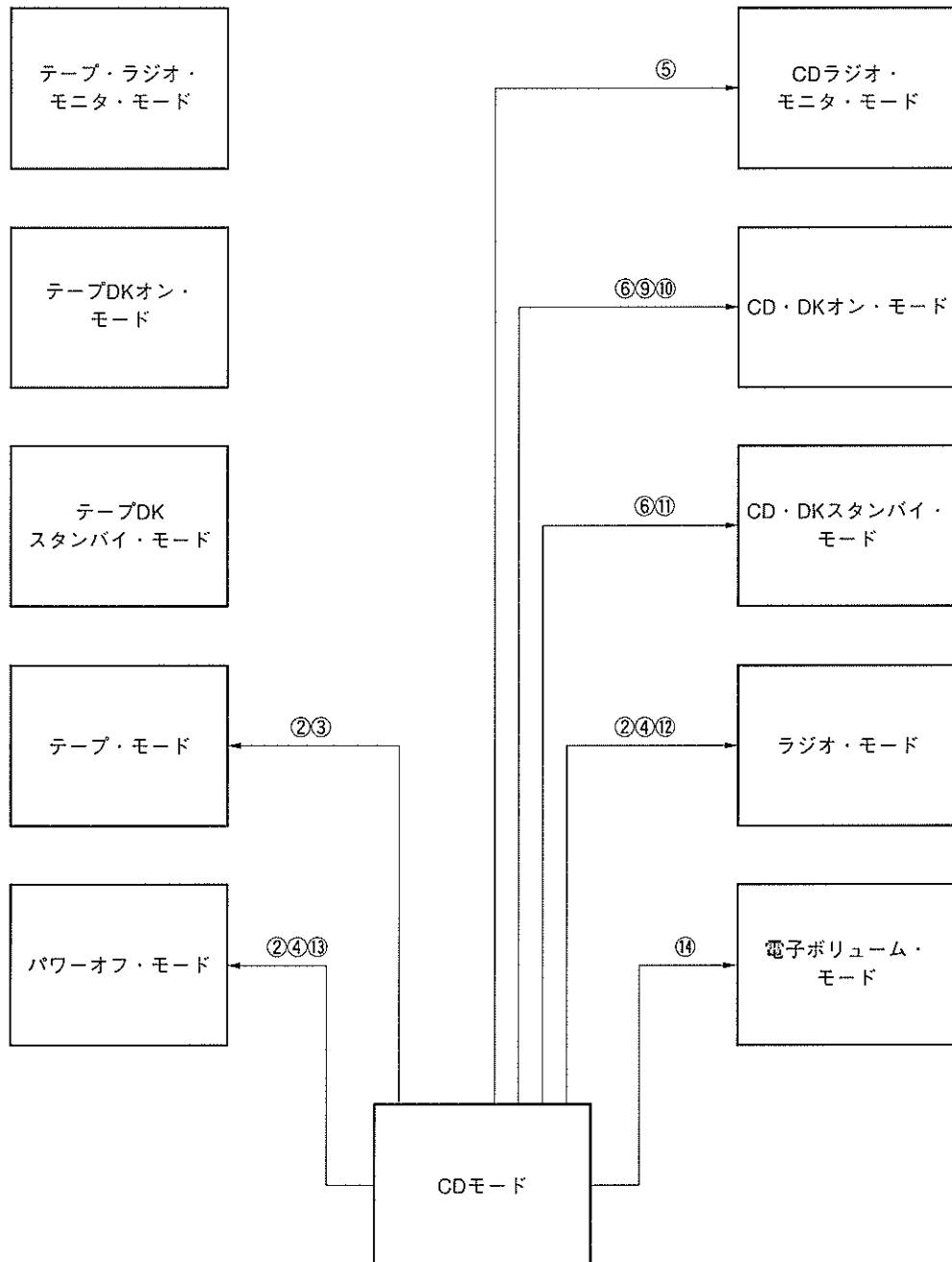
(e) テープ・ラジオ・モニタ・モードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|--------------------------------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | ⑭：電子ボリューム関連 キー・オン |
| ⑤：RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

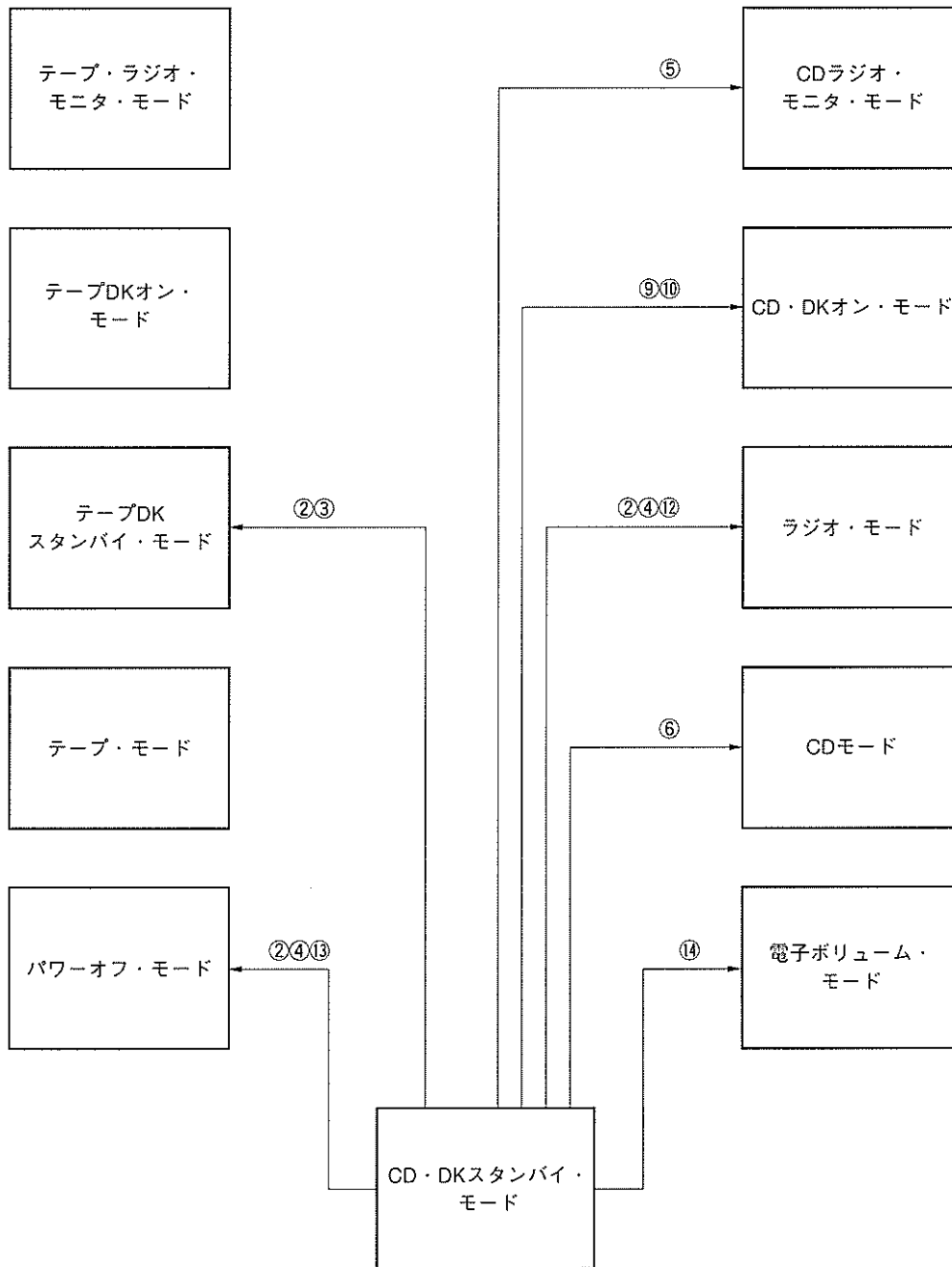
(f) CDモードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|--------------------------------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VFキー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | ⑭：電子ボリューム関連キー・オン |
| ⑤：RDMONIキー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

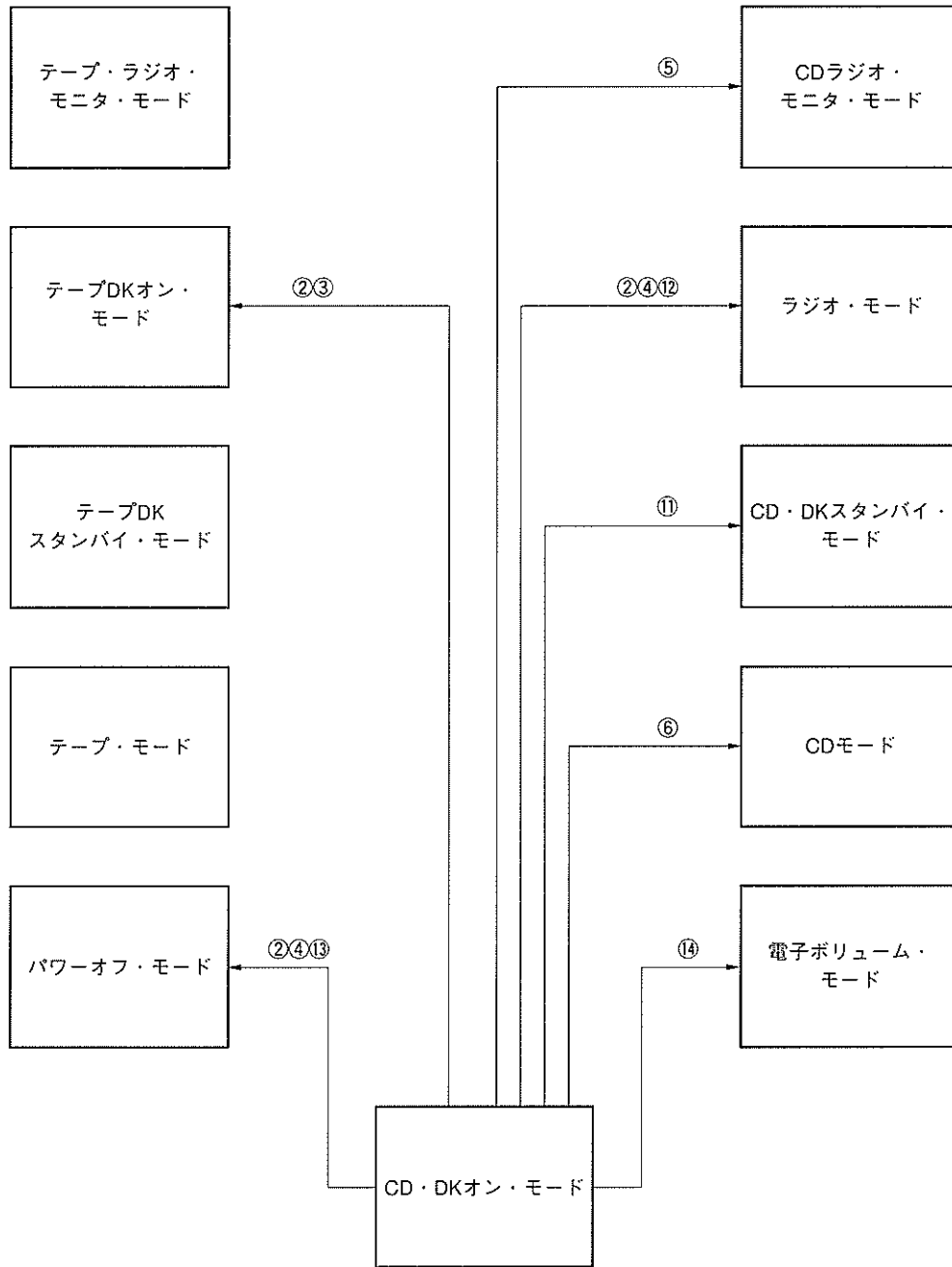
(g) CD・DKスタンバイ・モードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|--------------------------------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | ⑭：電子ボリューム関連 キー・オン |
| ⑤：RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

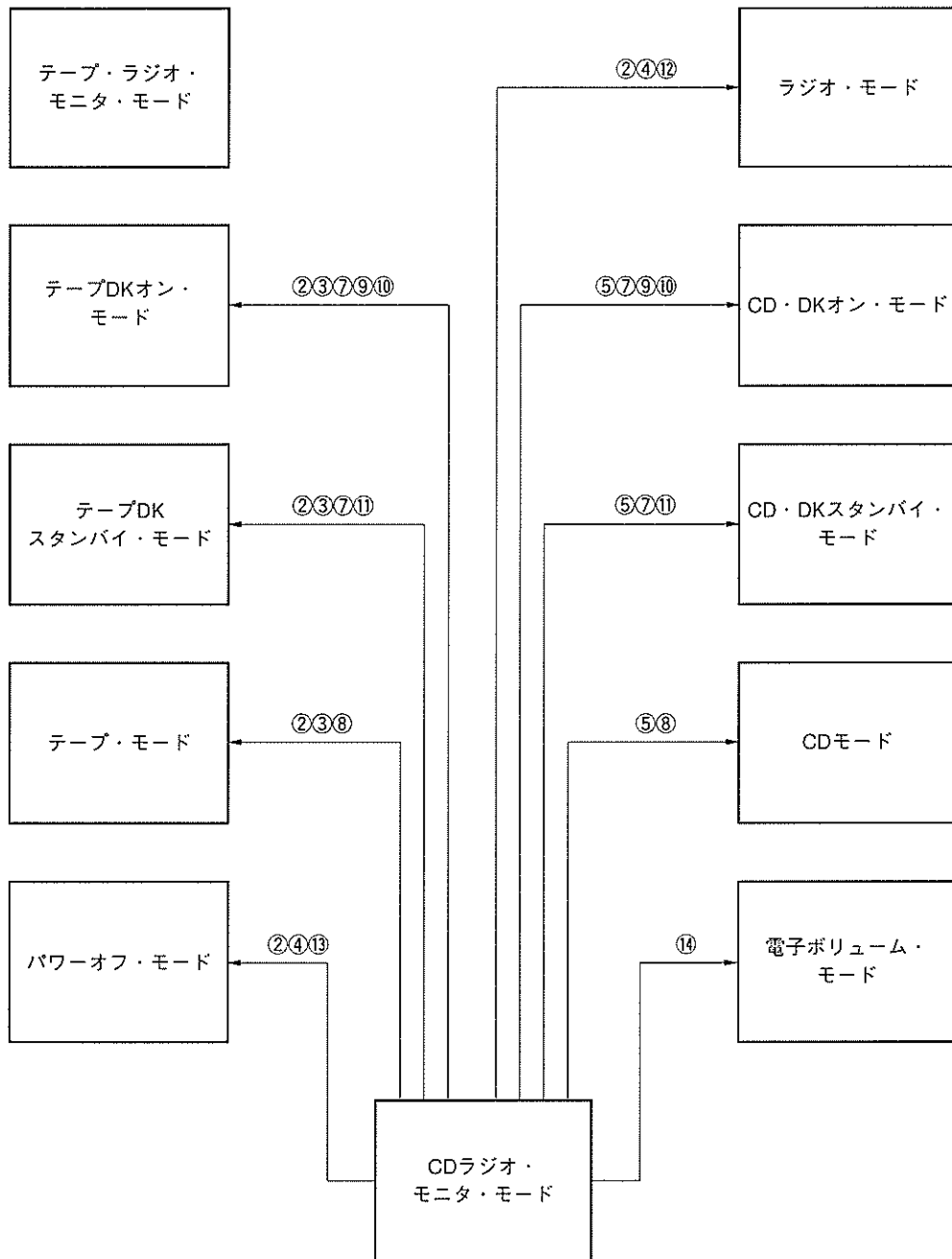
(h) CD・DKオン・モードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|--------------------------------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | ⑭：電子ボリューム関連 キー・オン |
| ⑤：RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

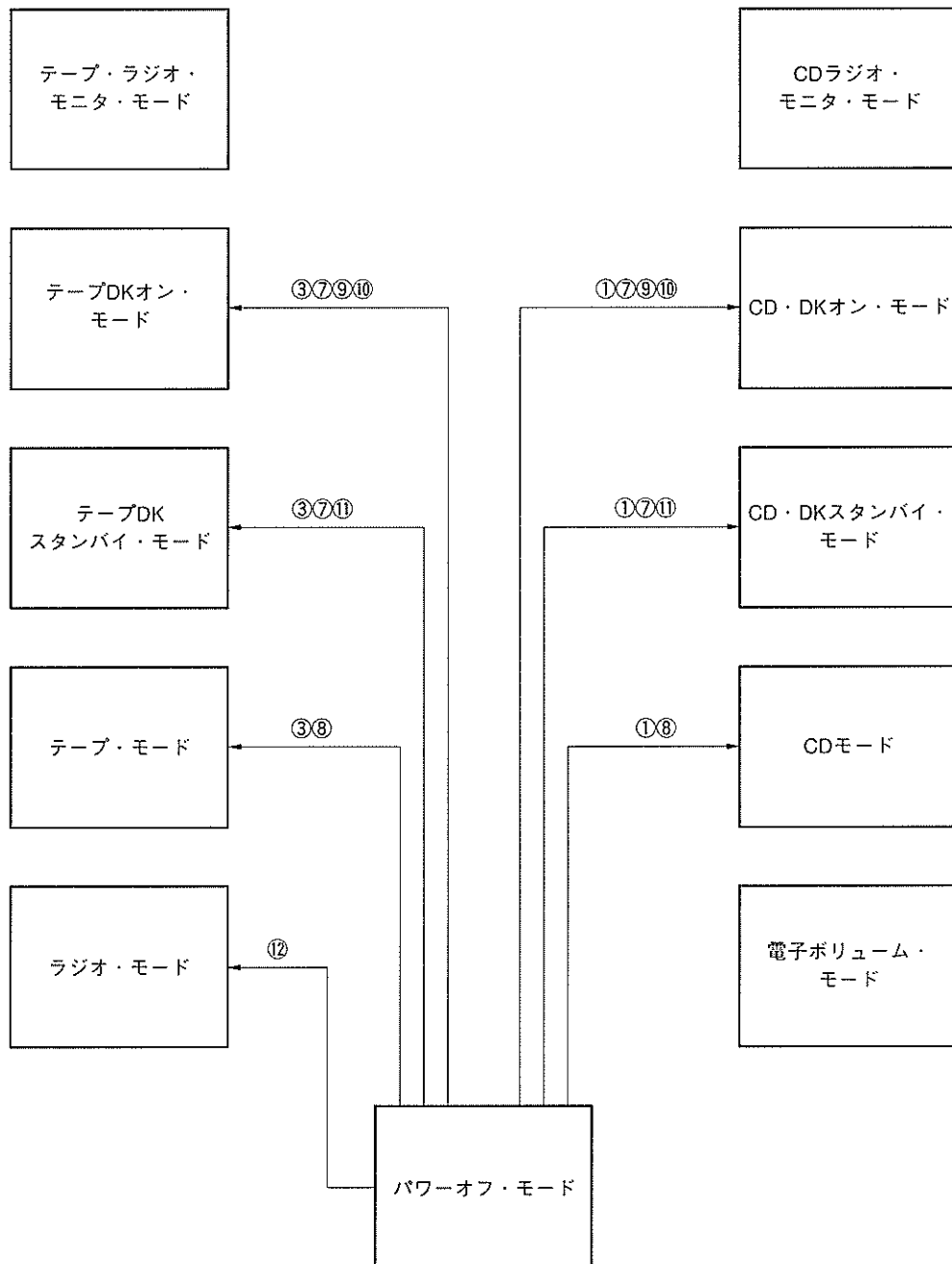
(i) CDラジオ・モニタ・モードから他モードへの移行



備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|--------------------------------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VF キー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | ⑭：電子ボリューム関連 キー・オン |
| ⑤：RDMONI キー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

(j) パワーオフ・モードから他モードへの移行

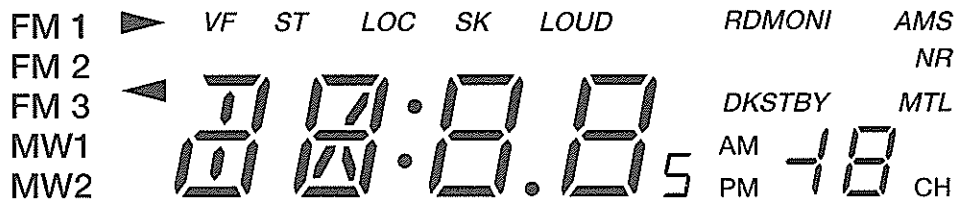


備考 ○に囲まれた数字は、次のことを示します。

- | | | |
|----------------|-------------|--------------------------------------|
| ①：CDSETスイッチ・オン | ⑥：VFキー・オン | ⑪：放送局非受信状態 or SKスイッチ・オフ or DKスイッチ・オフ |
| ②：CDSETスイッチ・オフ | ⑦：VFバンド受信 | ⑫：RDSETスイッチ・オン |
| ③：TPSETスイッチ・オン | ⑧：VFバンド以外受信 | ⑬：RDSETスイッチ・オフ |
| ④：TPSETスイッチ・オフ | ⑨：交通情報局受信 | ⑭：電子ボリューム関連キー・オン |
| ⑤：RDMONIキー・オン | ⑩：DKスイッチ・オン | |

4. 表 示

4.1 LCDパネル



4.2 字 体



4.3 表 示 例

(1) テープ・モード

(4) ボリューム・モード

(7) バランス・モード



(2) CDモード

(5) バス・モード

(8) フェーダ・モード

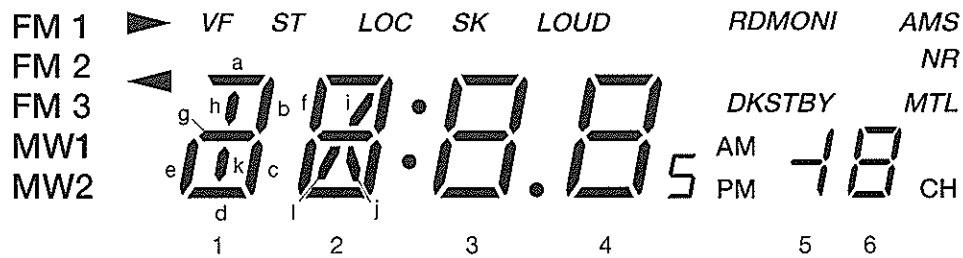


(3) オートストア

(6) トレブル・モード



4.4 LCD割り当て



4.5 LCD割り当て表

4.5.1 内蔵LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバのLCD割り当て表

端子名 (端子番号)	端子名 (端子番号)	COM ₀ (37)	COM ₁ (36)	COM ₂ (35)
LCD ₀ (57)		MW2	MW1	FM3
LCD ₁ (56)		FM2	1d, 1e, 1g	1a
LCD ₂ (55)		1c	1k, 1h	1b
LCD ₃ (54)		2e	2f, 2i	2f
LCD ₄ (53)		2d	2g	2a
LCD ₅ (52)		2c	2j	2b
LCD ₆ (51)		:	FM1	▶
LCD ₇ (50)		3e	◀	3f
LCD ₈ (49)		3d	3g	3a
LCD ₉ (48)		3c	.	3b
LCD ₁₀ (47)		4e	ST	4f
LCD ₁₁ (46)		4d	4g	4a
LCD ₁₂ (45)		4c	VF	4b
LCD ₁₃ (44)		LOC	5	SK
LCD ₁₄ (43)		PM	AM	LOUD
LCD ₁₅ (42)		RDMONI	5g	DKSTBY
LCD ₁₆ (41)		AMS	NR	5b, 5c
LCD ₁₇ (40)		6e	MTL	6f
LCD ₁₈ (39)		6d	6g	6a
LCD ₁₉ (38)		6c	CH	6b

備考 () 内の数字は μPD17012GF-054の端子番号


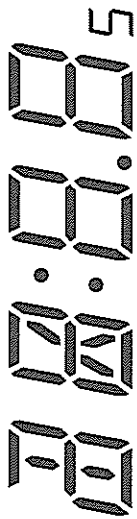

4.5.2 外部LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ (μPD17202AGF-011) のLCD割り当て表

端子名 (端子番号)	COM ₀ (62)	COM ₁ (63)	COM ₂ (64)
LCD ₀ (25)	ST	MW	FM1
LCD ₁ (24)	◀	LW	▶
LCD ₂ (23)	VF	FM3	FM2
LCD ₃ (22)	1l, i	1e	1f
LCD ₄ (21)	1g	1d	1a
LCD ₅ (20)	1k, h	1c	1b
LCD ₆ (19)		2e	2f
LCD ₇ (18)	2g	2d	2a
LCD ₈ (17)	2j	2c	2b
LCD ₉ (16)	:	3e	3f
LCD ₁₀ (15)	3g	3d	3a
LCD ₁₁ (14)	3h, k	3c	3b
LCD ₁₂ (13)	.	4e	4f
LCD ₁₃ (12)	4g	4d	4a
LCD ₁₄ (11)	4j	4c	4b
LCD ₁₅ (10)	AM	PM	MONO
LCD ₁₆ (9)		5e	5f
LCD ₁₇ (8)	5g	5d	5a
LCD ₁₈ (7)		5c	5b
LCD ₁₉ (6)		6e	6f

備考 空白：未使用、()内の数字はμPD17202AGF-011の端子番号

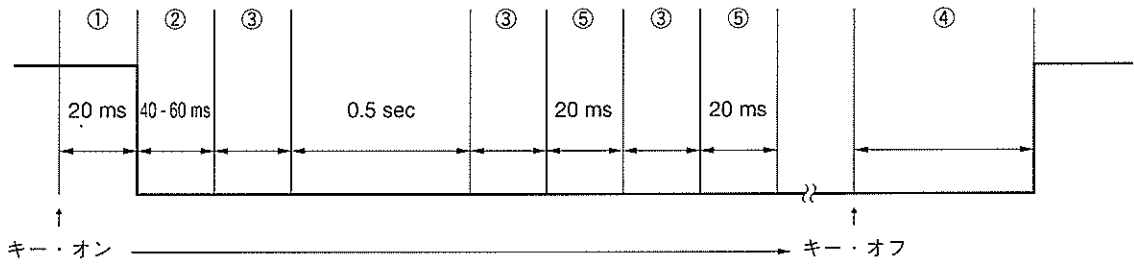
4.6 表示説明

表 示	説 明
VF	VFバンドを選択していることを示す表示です。 (1) CDモード, テープ・モード時 消灯します。 (2) 上記モード以外 VFバンド選択時点灯します。
SK	交通情報放送局を受信していることを示す表示です。 (1) CDモード, テープ・モード時 消灯します。 (2) 上記モード以外 FMまたはVFバンド選択時, 交通情報放送局受信状態のとき点灯します。 交通情報放送局受信状態とは, 放送局受信状態でSKスイッチがオンしている状態です。
ST	ステレオ放送を受信していることを示す表示です。 (1) CDモード, テープ・モード時 消灯します。 (2) 上記モード以外 FM, VF およびMWバンド選択時, 放送局受信状態でSTスイッチがオンでモノラル・オフ状態のとき点灯します (MWバンドは, 初期設定ダイオードMWS = 1でステレオ受信機能ありのときのみST表示を点灯します)。 なお, 選択バンドにかかわらずチューニング動作中は消灯します。
LOC	ローカル状態であることを示す表示です。 (1) CDモード, テープ・モード時 消灯します。 (2) 上記モード以外 ローカル状態のとき点灯します。
LOUD	ラウドネス・オン状態であることを示す表示です。 モードにかかわらず, ラウドネス・オン状態のとき点灯します。
MTL	メタル・オン状態であることを示す表示です。 (1) テープ・モード, テープDKスタンバイ・モード, テープDKオン・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード時 メタル・オン状態のとき, 点灯します。 (2) 上記モード以外 消灯します。
NR	NRオン状態であることを示す表示です。 (1) テープ・モード, テープDKスタンバイ・モード, テープDKオン・モード, テープ・ラジオ・モニタ・モード時 NRオン状態のとき点灯します。 (2) 上記モード以外 消灯します。
RDMONI	ラジオ・モニタ・モード状態であることを示す表示です。

表 示	説 明
DKSTBY	<p>DKスタンバイ状態またはDKオン状態であることを示す表示です。</p> <p>(1) CDモード、テープ・モード時 DKスタンバイ状態またはDKオン状態のとき、点灯します。</p> <p>(2) 上記モード以外 消灯します。</p>
	<p>テープの走行方向を示す表示です。</p> <p>(1) テープ・モード、テープDKスタンバイ・モード、テープDKオン・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード時 RLスイッチの状態により走行方向を表示します。またFFスイッチがオンであれば点滅を行います。</p> <p>(2) 上記モード以外 消灯します。</p>
<p>FM1 FM2 FM3 MW1 MW2</p>	<p>受信バンドを示す表示です。</p> <p>(1) CDモード、テープ・モード時 消灯します。</p> <p>(2) 上記モード以外 受信バンドを点灯します。</p>
	<p>受信周波数、“AP.”、“CD”、“TAPE”、“VOL”、“BRS”、“TREB”、“BAL”、“PRD”および時計を表示します。</p> <p>“VOL”表示中にパネル全体が点滅している場合は、ミュート状態になっています。</p>
AMS	<p>AMS (Auto Music Search) 状態であることを示す表示です。</p> <p>(1) テープ・モード、テープDKスタンバイ・モード、テープDKオン・モード、テープ・ラジオ・モニタ・モード時 AMSオン状態のとき、点灯します。</p> <p>(2) 上記モード以外 消灯します。</p>
AM PM	<p>12時間制の時間表示の午前 (AM) ,午後 (PM) 表示です。</p>
	<p>プリセット・メモリ・ナンバまたは電子ボリューム関連のボリューム値を示す表示です。</p> <p>プリセット・メモリの書き込み、呼び出しを行うと、対応するプリセット・メモリ・ナンバと“CH”表示を点灯します。電子ボリューム・モード時は、ボリューム値を点灯し、“CH”表示は消灯します。</p> <p>周波数表示中に点灯し、時計表示中は消灯します。</p> <p>プリセット・メモリ書き込み可能状態の時、“CH”表示が1 Hzで点滅します。</p> <p>プリセット・メモリ・スキャン中は対応するプリセット・メモリ・ナンバが1 Hzで点滅します。</p>

(b) 連続アップ/ダウン

(i) AUTO500スイッチ=0のとき



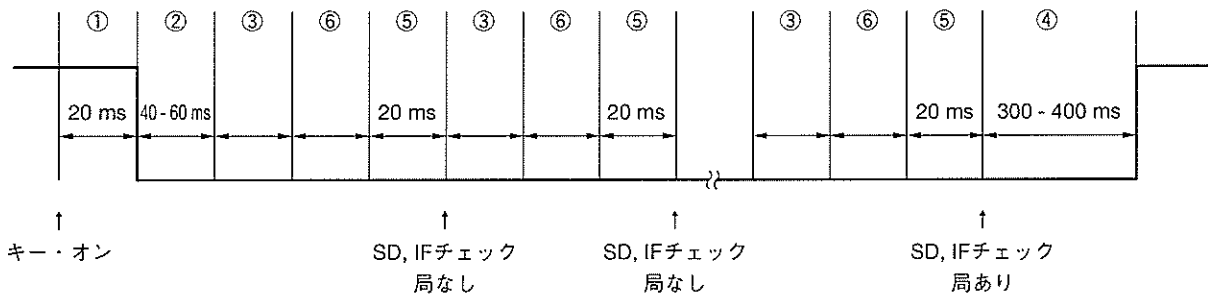
バンド・エッジでは⑤の時間は500 msとなり、④の時間は600 - 700 msとなります。

(ii) AUTO500スイッチ=1のとき

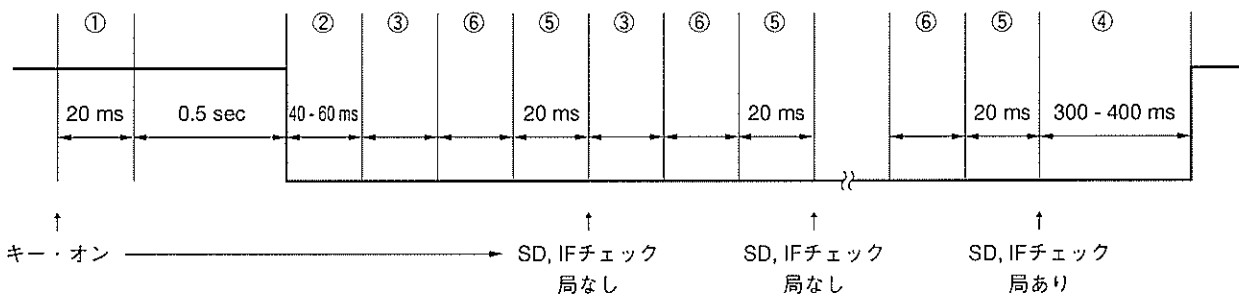
キーを0.5秒以上押し続けることによりオートチューニングとなるため、連続アップ/ダウンは行いません。

(2) オートアップ/ダウン

(a) **SEEK UP** , **SEEK DWN** , **SCAN UP** , **SCAN DWN** キー



(b) AUTO500スイッチ=1のときに **MAN UP** , **MAN DWN** キーを0.5秒以上押し続けた場合

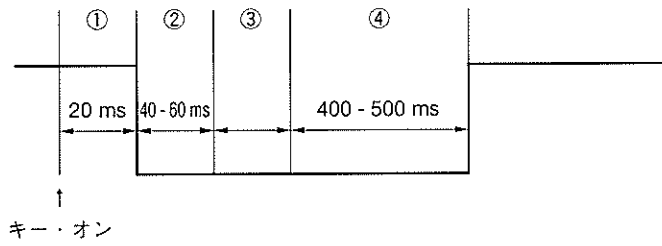


(a) , (b) とともにバンド・エッジでは⑤の時間が540 msとなります。

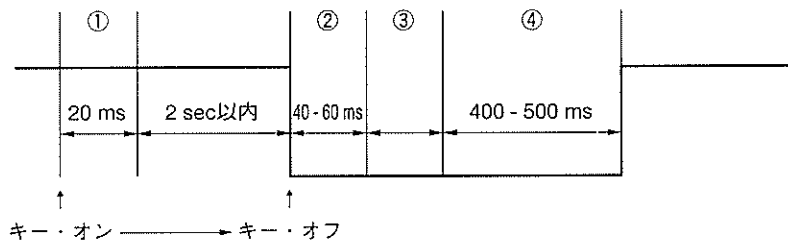
IFチェックは、FASTモードとSLOWモードで2回行います。

(3) プリセット・メモリ呼び出し

(a) M2Sスイッチ=0のとき

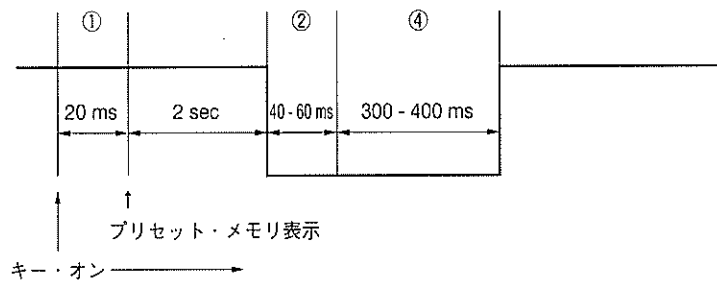


(b) M2Sスイッチ=1のとき



(4) プリセット・メモリ書き込み

(a) M2Sスイッチ=0のとき

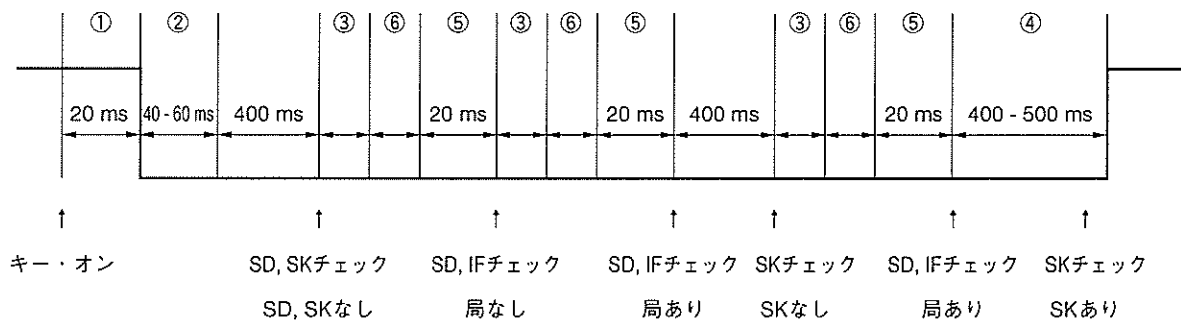


(b) M2Sスイッチ=1のとき

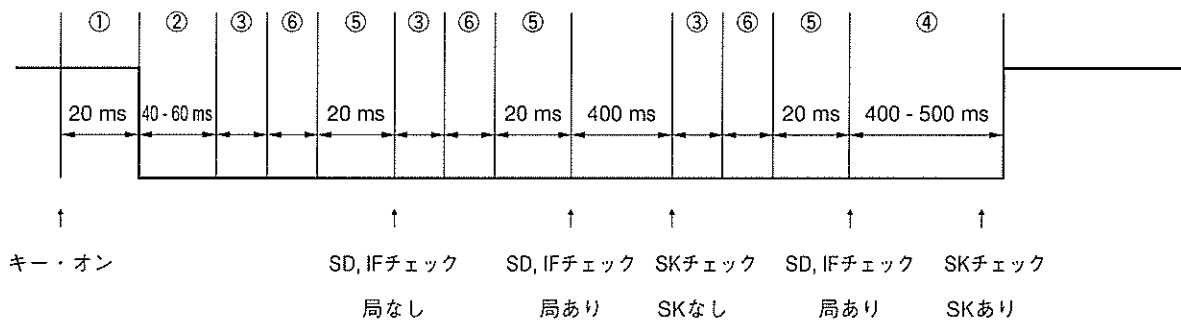
ミュートは出力しません。

(5) VFモード

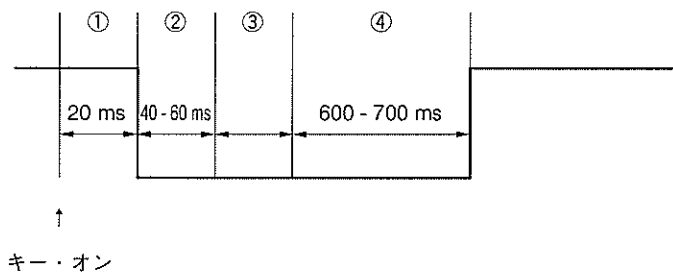
(a) VF キー・オンでVFモードとなったとき



(b) VFモード中のシークおよびスキャン動作

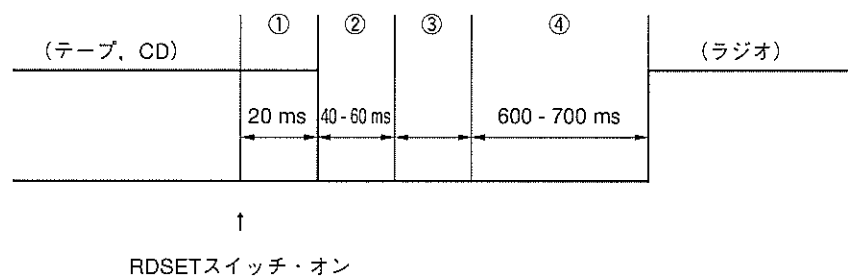


(6) バンド切り替え

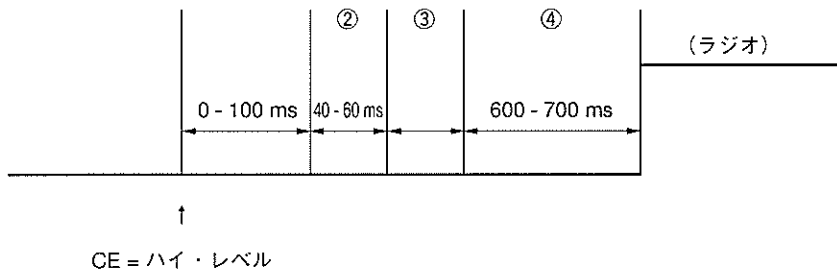


(7) ラジオのオフ → オン

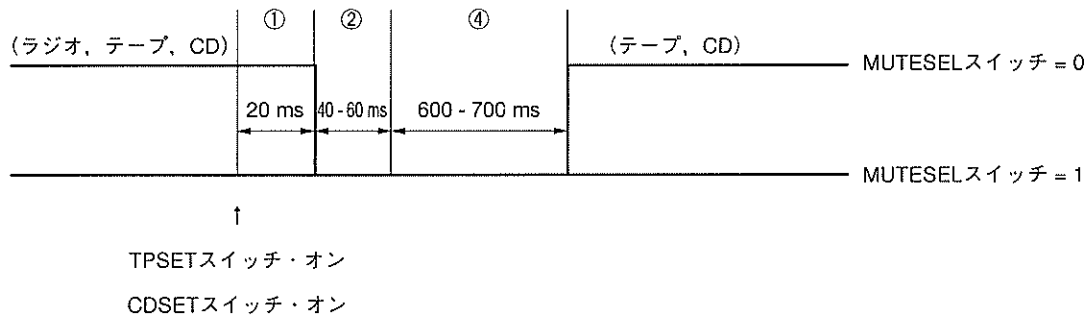
(a) RDSETスイッチの場合



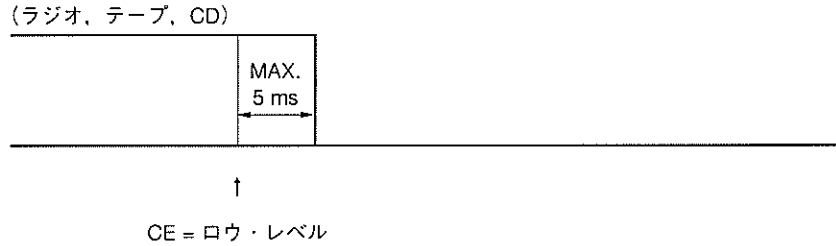
(b) RDONスイッチ=1によるCE = ロウ・レベル→ハイ・レベル



(8) テープまたはCDのオフ → オン

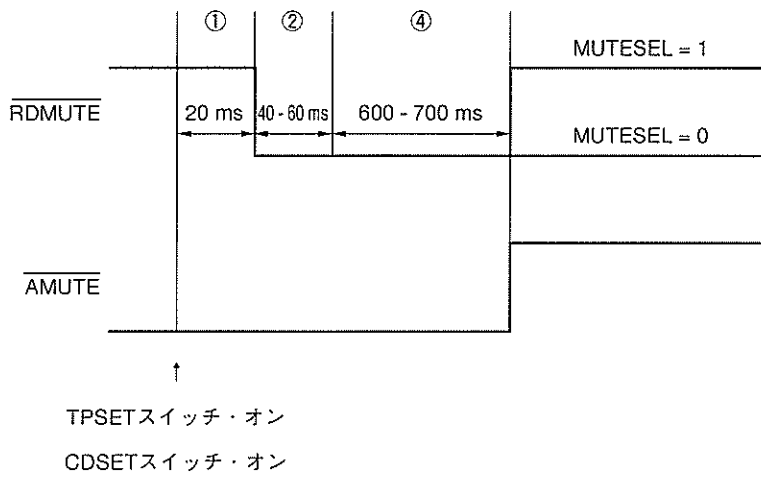


(9) CE端子のハイ・レベル → ロウ・レベル

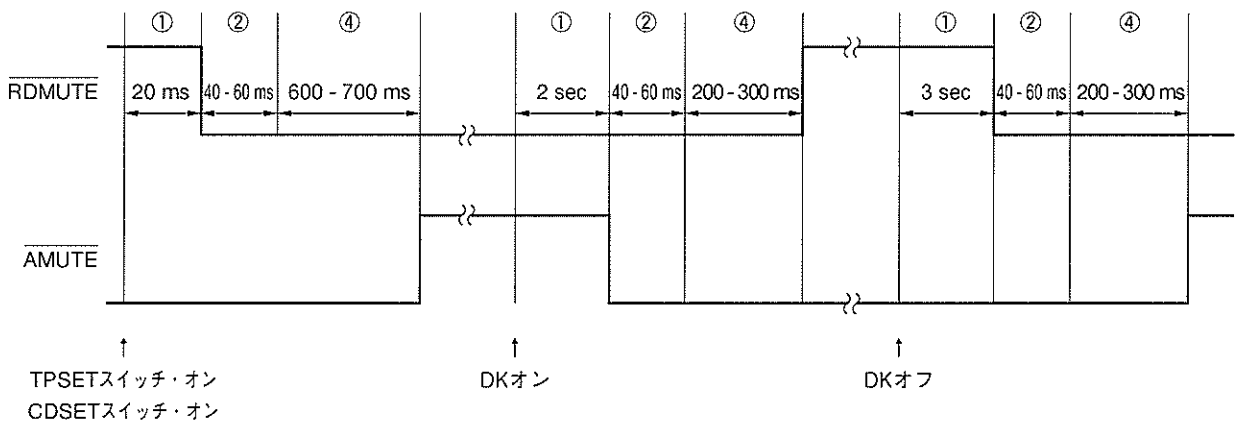


5.2 ラジオ・ミュート (RDMUTE端子) とオーディオ・ミュート (AMUTE端子) 出力タイミング・チャート

(1) ラジオ・モードからテープ、CDモードになったとき

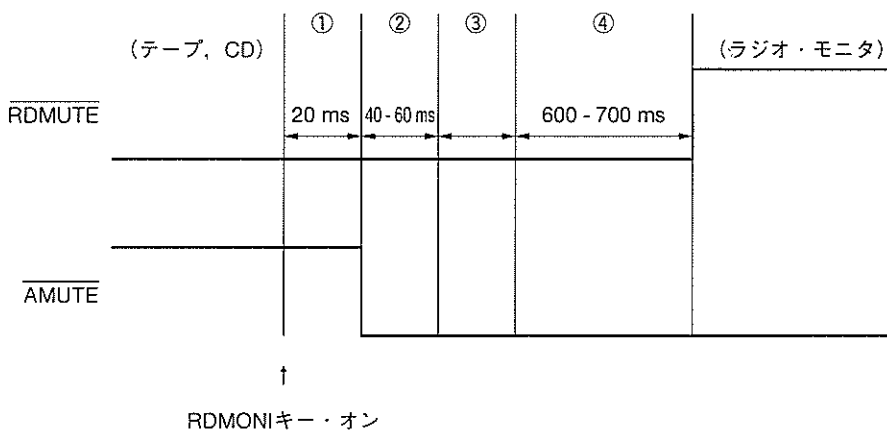


(2) VFバンドからテープ、CDモードになったとき (MUTESELは0にしてください)

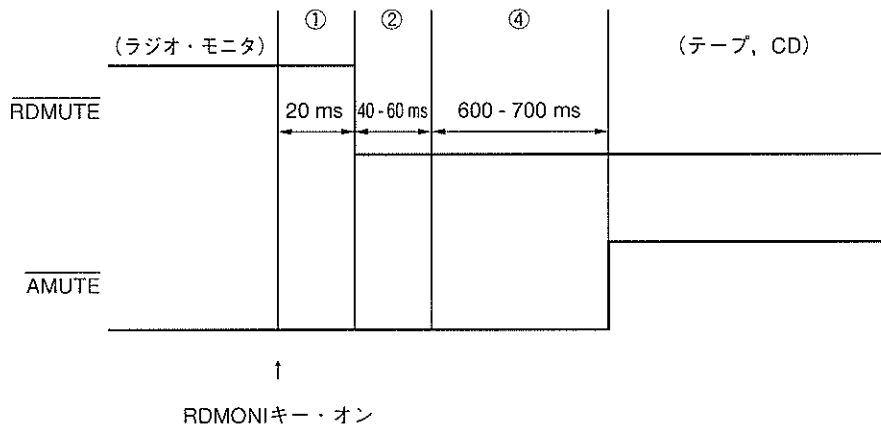


(3) ラジオ・モニタ時 (MUTESELは0にしてください)

(a) ラジオ・モニタ・オフ → オン



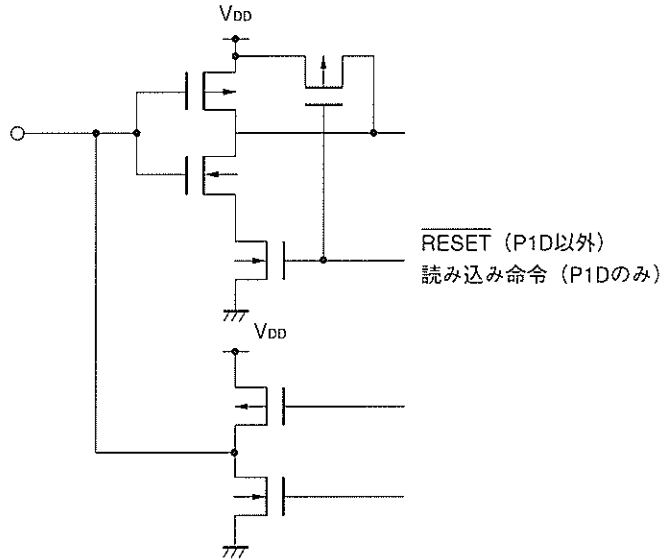
(b) ラジオ・モニタ・オン→オフ



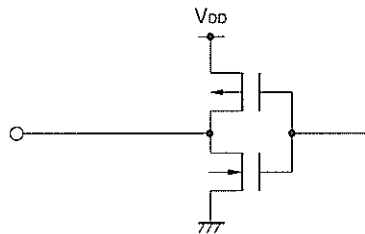
6. 端子の入出力回路

μPD17012GF - 054の各端子の入出力回路を一部簡略した形式を用いて示します。

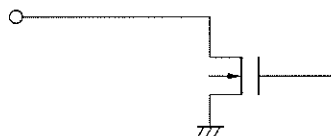
- (1) P0A (P0A0/CDOOUT, P0A1/SI, P0A2/SCK)
 - P0B (P0B3/EVOL_SCK, P0B2/EVOL_DA, P0B1/BEEP, P0B0/LOUD)
 - P1A (P1A2/POWER, P1A1/BAND1, P1A0/BAND2)
 - P1D (P1D3/MODE2, P1D2/MODE, P1D1/KS17, P1D0/KS16)
- } (入出力)



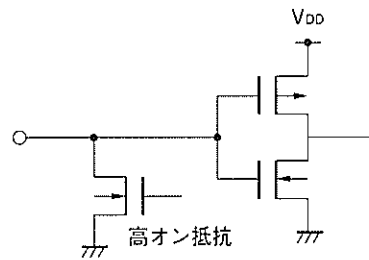
- (2) P1C (P1C3/AGCC, P1C2/LOC, P1C1/AMUTE, P1C0/RDMUTE)
 - P2E0/LCD16/BLANK, P2F0/LCD17/LOAD
 - P2G0/LCD18/LCD RES, P2H0/LCD19/POUT
 - PYA15/LCD15/KS15 - PYA0/LCD0/KS0
- } (出力)



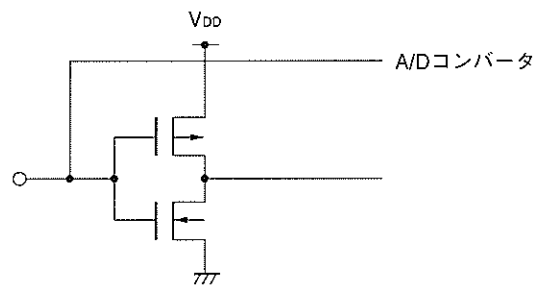
- (3) P0C (P0C3/SO, P0C2/AMS, P0C1/MONO/NR, P0C0/MTL) (出力)



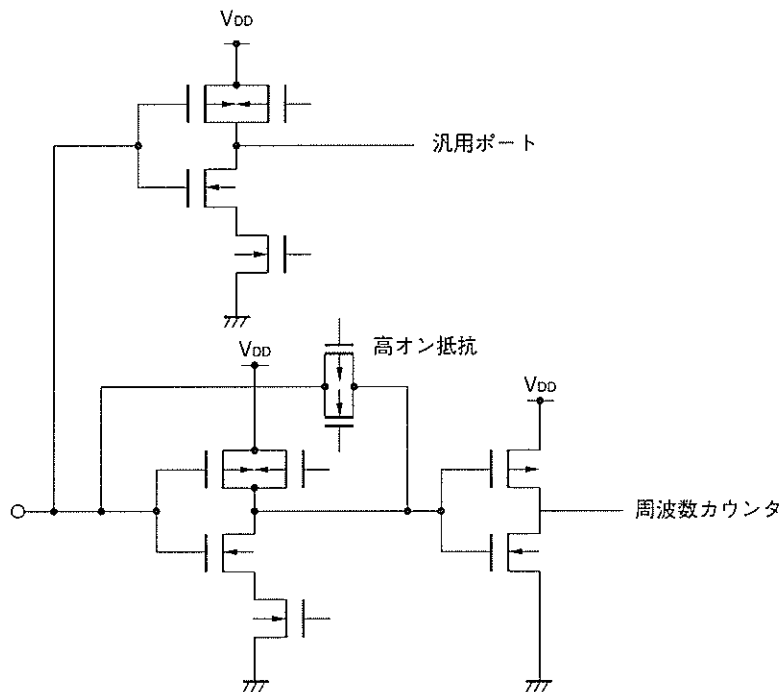
(4) P0D (P0D3/K3 - P0D0/K0) (入力)



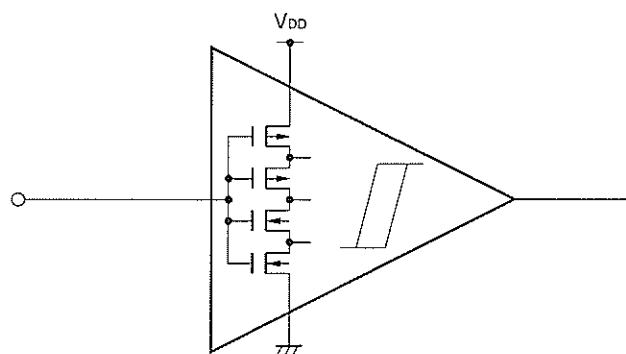
(5) P1B (P1B1/ADC1/INT, P1B0/ADC0/SD) (入力)



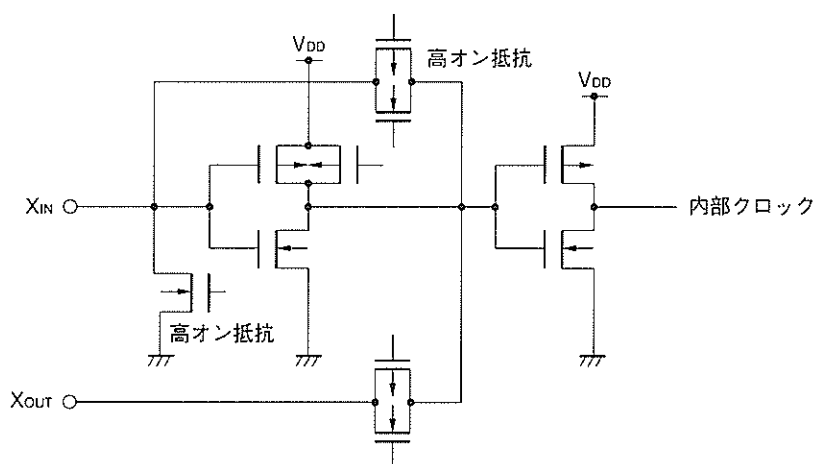
(6) P1B (P1B3/FMIFC, P1B2/AMIFC) (入力)



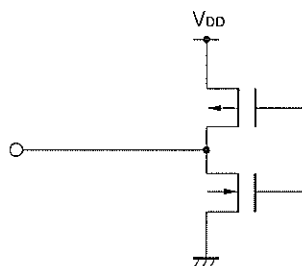
(7) CE (シュミット・トリガ入力)



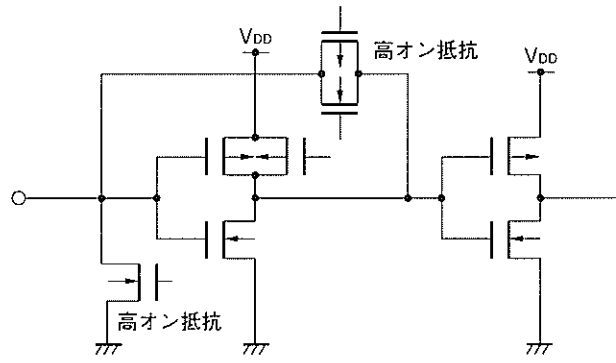
(8) XOUT (出力), XIN (入力)



(9) EO (出力)

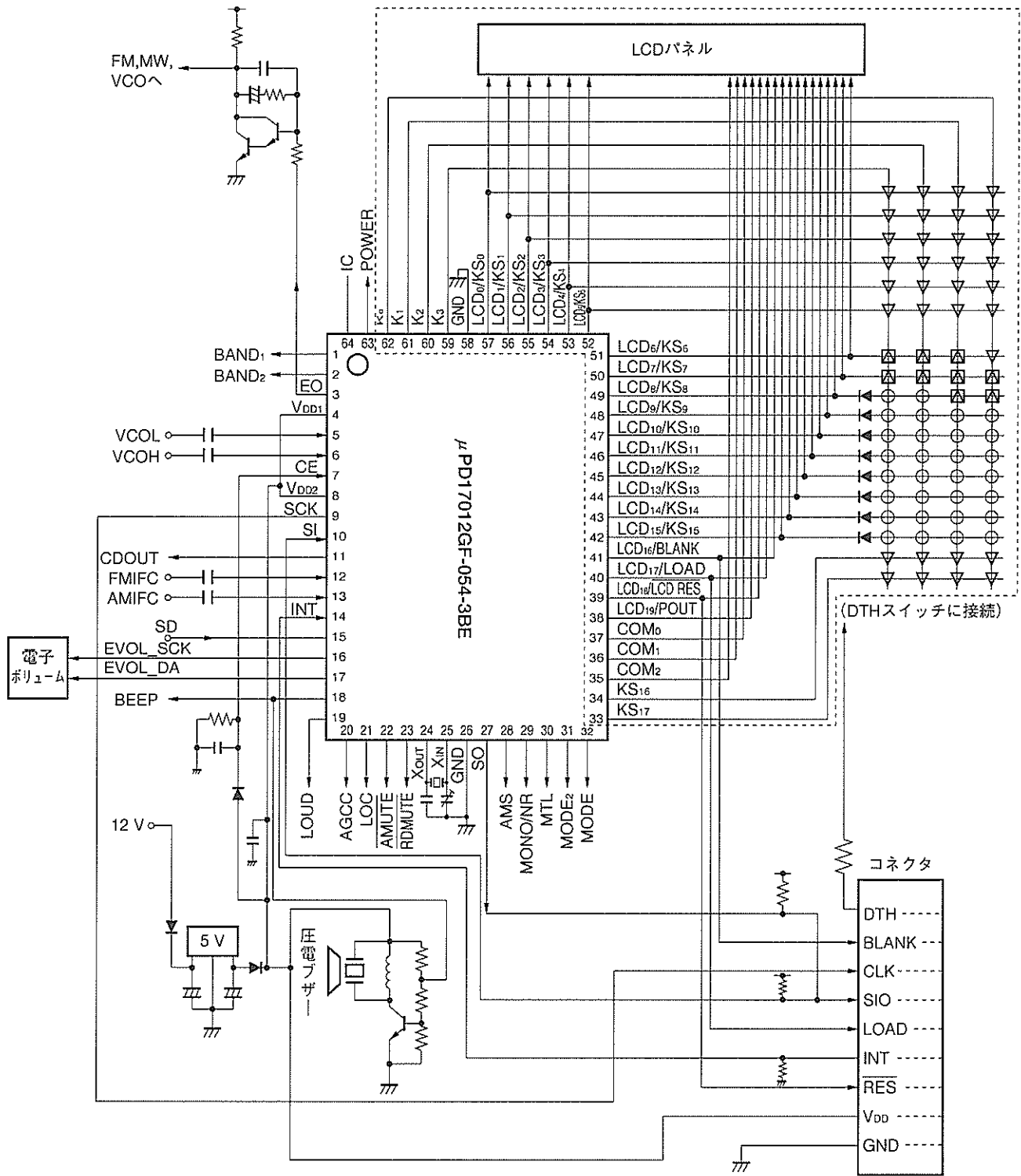


(10) VCOH } (入力)
 VCOL }



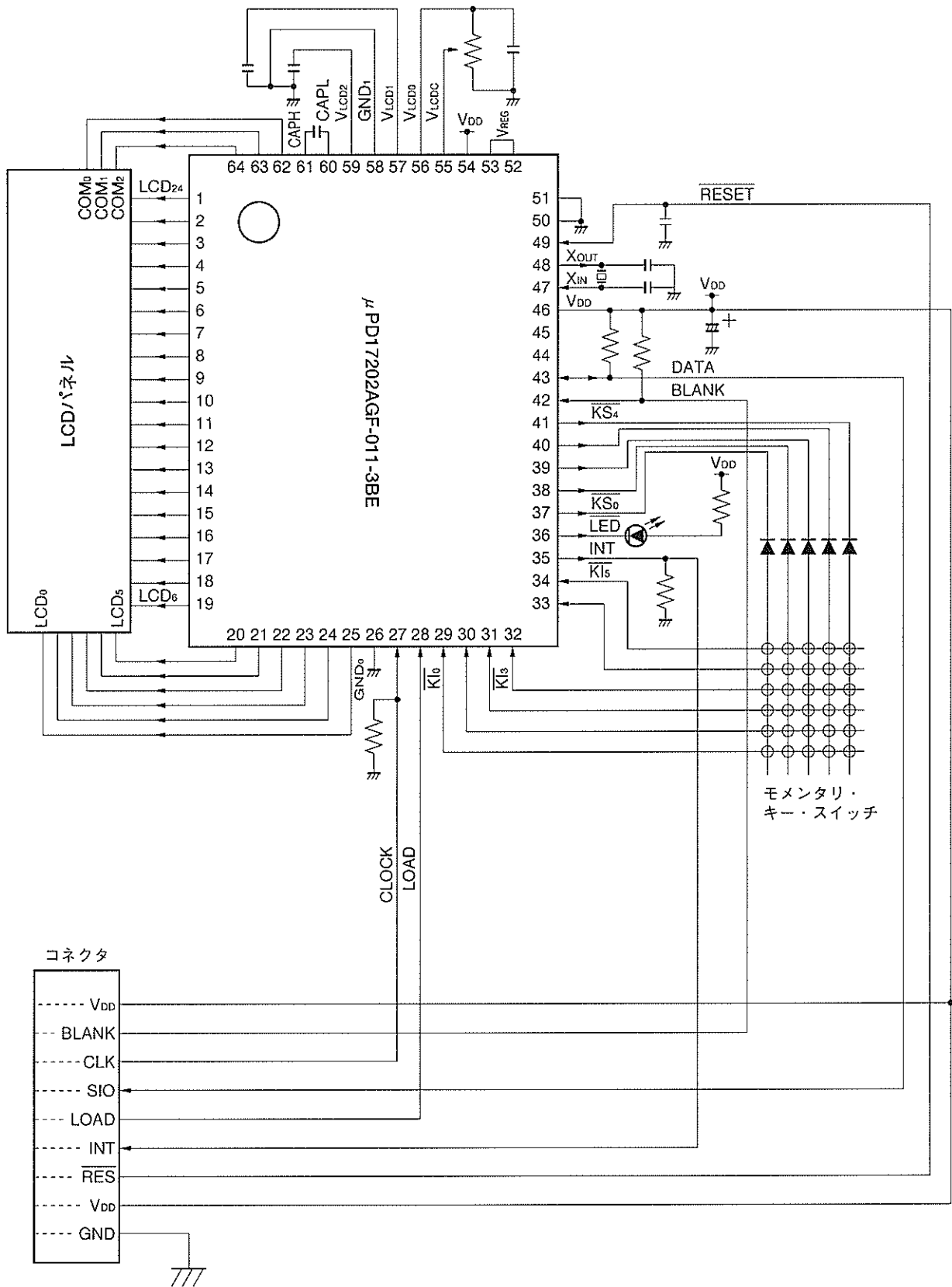
7. 応用回路例

KLCD = 0 (内蔵LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバおよびモメンタリ・キーが有効)



- オルタネートまたはトランジスタ・スイッチ
- 初期設定ダイオード
- モメンタリ・キー

KLCD=1 (外部LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ側のモメンタリ・キーが有効)



8. 電気的特性 (暫定)

絶対最大定格 (TA = 25 °C)

項目	略号	条件	定格	単位
電源電圧	VDD		- 0.3 ~ + 6.0	V
入力電圧	Vi		- 0.3 ~ VDD + 0.3	V
出力電圧	Vo	P0C0 - P0C3を除く	- 0.3 ~ VDD + 0.3	V
高レベル出力電流	IOH	1端子	- 12.0	mA
		全端子合計	- 20.0	mA
低レベル出力電流	IOL	1端子	15.0	mA
		全端子合計	30.0	mA
出力耐圧	VBDs	P0C0 - P0C3	10.0	V
全損失	Pt		400	mW
動作周囲温度	TA	全機能動作時	- 40 ~ + 85	°C
保存温度	Tstg		- 55 ~ + 125	°C

注意 各項目のうち1項目でも、また一瞬でも絶対最大定格を越えると、製品の品質を損なう恐れがあります。つまり絶対最大定格とは、製品に物理的な損傷を与えかねない定格値です。必ずこの定格値を越えない状態で、製品をご使用ください。

推奨動作範囲 (TA = - 40 ~ + 85 °C)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
電源電圧	VDD1	全機能動作	4.5	5.0	5.5	V
	VDD2	CPU動作, PLL停止時	3.5	5.0	5.5	V
データ保持電圧	VDDR	水晶発振停止時	2.3		5.5	V
出力耐圧	VBDs	P0C0 - P0C3			9.0	V
電源電圧立ち上がり時間	trise	VDD : 0 → 4.5 V			500	ms

DC特性 (TA = -40 ~ +85 °C, VDD = 5 V ± 10%)

項目	略号	条件		MIN.	TYP.	MAX.	単位
電源電流	IDD1	CPU動作、PLL停止、XIN端子正弦波入力 (fIN = 4.5 MHz, VIN = VDD)			2.0	3.0	mA
	IDD2	CPU動作、PLL停止、XIN端子正弦波入力 (fIN = 4.5 MHz, VIN = VDD) HALT命令使用			0.5	1.0	mA
データ保持電圧	VDDR1	水晶発振時	タイマFFによる停電検出使用	3.5			V
	VDDR2	水晶発振停止時	タイマFFによる停電検出使用	2.3			V
	VDDR3		データ・メモリ保持	2.0			V
データ保持電流	IDDR1	水晶発振停止時	VDD = 5 V, TA = 25 °C		2.0	4.0	μA
	IDDR2			2.0	20.0	μA	
	IDDR3		VDD = 2.3 V, TA = 25 °C	1.0	2.0	μA	
	IDDR4		VDD = 2.3 V	1.0	10.0	μA	
高レベル入力電圧	VIH1	P0A1, P0B0 - P0B3, P1A0 - P1A2, P1B0 - P1B3, P1D0 - P1D3		0.7 VDD		VDD	V
	VIH2	P0A0, P0A2, CE, INT		0.8 VDD		VDD	V
	VIH3	P0D0 - P0D3		0.6 VDD		VDD	V
低レベル入力電圧	VIL1	P0A1, P0B0 - P0B3, P0D0 - P0D3, P1A0 - P1A2, P1B0 - P1B3, P1D0 - P1D3				0.2 VDD	V
	VIL2	P0A0, P0A2, CE, INT				0.2 VDD	V
高レベル出力電流	IOH1	P0A0 - P0A2, P0B0 - P0B3, P1A0 - P1A2, P1C0 - P1C3, P1D0 - P1D3 VOH = VDD - 1 V		-1.0			mA
	IOH2	PYA0 - PYA15, P2G0, EO VOH = VDD - 1 V		-1.0			mA
低レベル出力電流	IOL1	P0A0 - P0A2, P0B0 - P0B3, P1A0 - P1A2, P1C0 - P1C3, P1D0 - P1D3 VOL = 1 V		1.0			mA
	IOL2	PYA0 - PYA15, P2G0, EO VOL = 1 V		1.0			mA
	IOL3	P0C0 - P0C3 VOL = 1 V		10			mA
高レベル入力電流	IIH1	VCOH端子プルダウン時 VIH = VDD		0.1			mA
	IIH2	VCOL端子プルダウン時 VIH = VDD		0.1			mA
	IIH3	XIN端子プルダウン時 VIH = VDD		0.1			mA
	IIH4	P0D0 - P0D3プルダウン時 VIH = VDD		10		150	μA
出力オフ・リーク電流	IL1	P0C0 - P0C3 VOH = 9 V				1.0	μA
	IL2	EO VOH = VDD, VOL = 0 V				±1.0	μA

AC特性 (TA = -40 ~ +85 °C, VDD = 5 V ± 10%)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
動作周波数	f _{IN1}	VCOL端子 MFモード 正弦波入力V _{IN} = 0.3 V _{p-p}	0.58		30	MHz
	f _{IN2}	VCOL端子 HFモード 正弦波入力V _{IN} = 0.3 V _{p-p}	5		40	MHz
	f _{IN3}	VCOH端子 VHFモード 正弦波入力V _{IN} = 0.3 V _{p-p}	30		250	MHz
	f _{IN4}	AMIFC端子, FMIFC端子 AMIFカウント・モード 正弦波入力V _{IN} = 0.3 V _{p-p}	0.3		1.0	MHz
	f _{IN5}	AMIFC端子 AMIFカウント・モード 正弦波入力V _{IN} = 0.1 V _{p-p}	0.44		0.46	MHz
	f _{IN6}	FMIFC端子 FMIFカウント・モード 正弦波入力V _{IN} = 0.3 V _{p-p}	5		15	MHz
	f _{IN7}	FMIFC端子 FMIFカウント・モード 正弦波入力V _{IN} = 0.1 V _{p-p}	10.5		10.9	MHz

A/Dコンバータ特性 (TA = -40 ~ +85 °C, VDD = 5 V ± 10%)

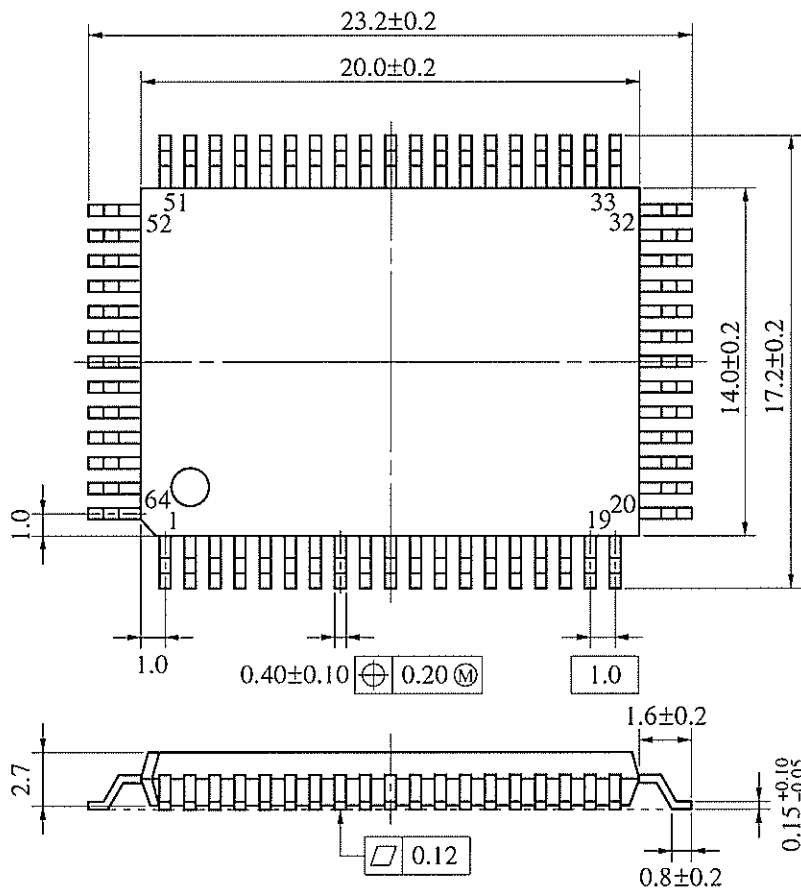
項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
A/D変換分解能					6	bit
A/D変換総合誤差		TA = -10 ~ +50 °C		± 1.0	± 1.5	LSB

参考特性 (TA = +25 °C, VDD = 5.0 V)

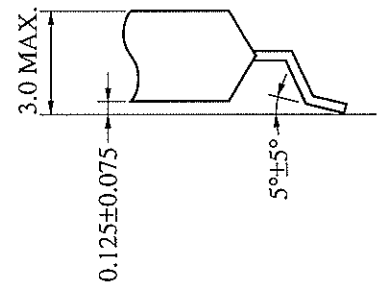
項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
電源電流	I _{DD3}	CPUおよびPLL動作, VCOH端子正弦波入力 (f _{IN} = 130 MHz, V _{IN} = 0.3 V _{p-p})		15		mA
	I _{DD4}	CPUおよびPLL動作, VCOH端子正弦波入力 (f _{IN} = 250 MHz, V _{IN} = 0.3 V _{p-p})		18		mA

9. 外形図

64ピン・プラスチック QFP (14×20) 外形図 (単位: mm)



端子先端形状詳細図



S64GF-100-3B8,3BE-2

10. 半田付け推奨条件

μPD17012GF-054の半田付け実装は、次の推奨条件で実施してください。

半田付け推奨条件の詳細は、インフォメーション資料「半導体デバイス実装マニュアル」(IEI - 616)をご参照ください。

なお、推奨条件以外の半田付け方式および半田付け条件については、当社販売員にご相談ください。

表10-1 表面実装タイプの半田付け条件

μPD17012GF-054-3BE : 64ピン・プラスチックQFP (14X20 mm)

半田付け方式	半田付け条件	推奨条件記号
赤外線リフロ	パッケージ・ピーク温度：235℃、時間：30秒以内（210℃以上）、回数：2回以内 制限日数：7日間 ^注 （以降は125℃プリベーク20時間必要） 〈留意事項〉 （1）2回目のリフロは1回目のリフロによるデバイス温度が常温に戻ってから開始してください。 （2）1回目のリフロ後の水によるフラックス洗浄はお避けください。	IR35-207-2
VPS	パッケージ・ピーク温度：215℃、時間：40秒以内（200℃以上）、回数：2回以内 制限日数：7日間 ^注 （以降は125℃プリベーク20時間必要） 〈留意事項〉 （1）2回目のリフロは1回目のリフロによるデバイス温度が常温に戻ってから開始してください。 （2）1回目のリフロ後の水によるフラックス洗浄はお避けください。	VP15-207-2
ウェーブ・ソルダーリング	半田槽温度：260℃以下、時間：10秒以内、回数：1回 予備加熱温度：120℃MAX.（パッケージ表面温度） 制限日数：7日間 ^注 （以降は125℃プリベーク20時間必要）	WS60-207-1
端子部分加熱	端子温度：300℃以下、時間：3秒以内（デバイスの一辺当たり）	—

注 ドライパック開封後の保管日数で、保管条件は25℃、65% RH 以下。

注意 半田付け方式の併用はお避けください（ただし、端子部分加熱方式は除く）。

付録A. LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ (μPD17202AGF-011) について

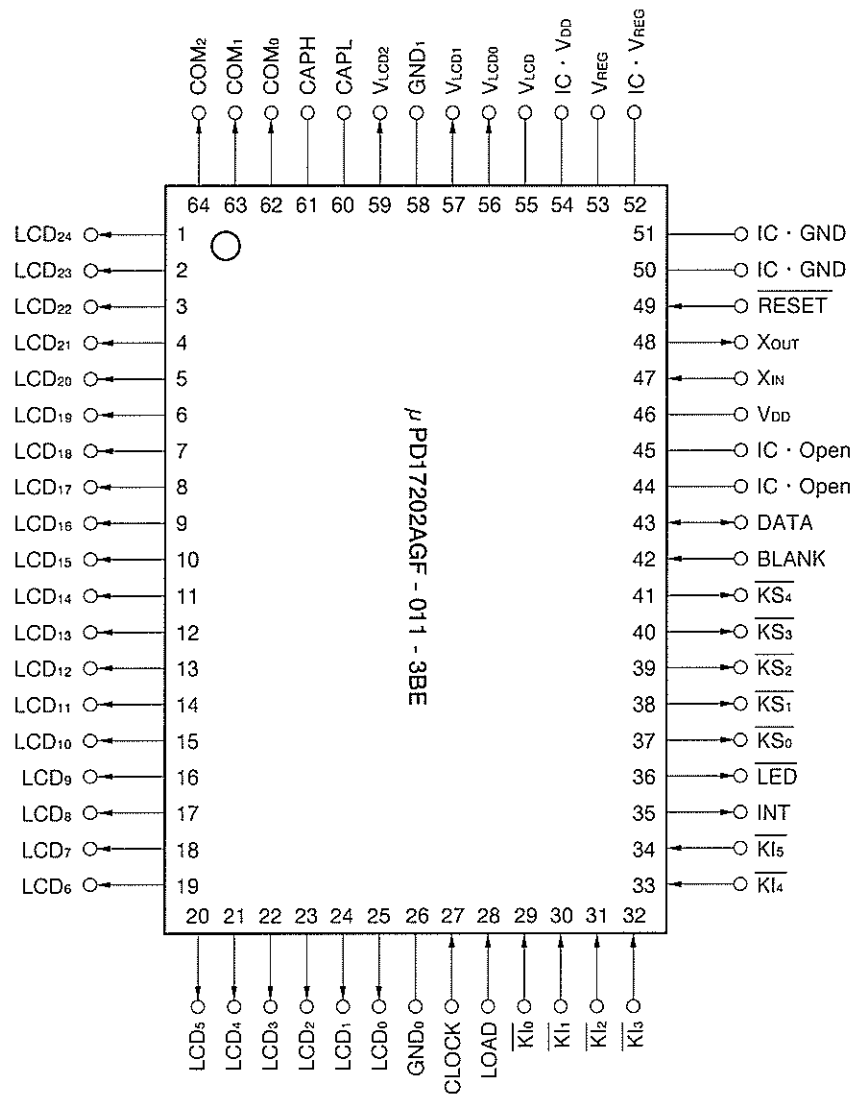
μPD17202AGF-011は、車載ステレオのフロント・パネル用CMOS 4ビット・シングルチップ・マイクロコントローラです。

外形は64ピン・プラスチックQFPで、LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバおよびキー・スキャン・ドライバを内蔵しているため、車載用ステレオをはじめとするフロント・パネルとマスタ・マイコンの間の配線を少なくすることができます。

特 徴

- LCDコントローラ/キー・スキャン・ドライバ (1/3デューティ, 1/3バイアス駆動, フレーム周波数 325.5 Hz, 最大75セグメント表示可能) 内蔵
- キー・スキャン・ドライバ (最大30 (5×6) キーの読み取り可能) 内蔵
- LED出力 (1本)
- マスタ・マイコンとの通信は、3線式シリアル通信 (CLOCK, DATA, LOAD)
- 電源電圧: 5.0V±10%
- システム・クロック 8 MHz

端子接続図 (Top View)



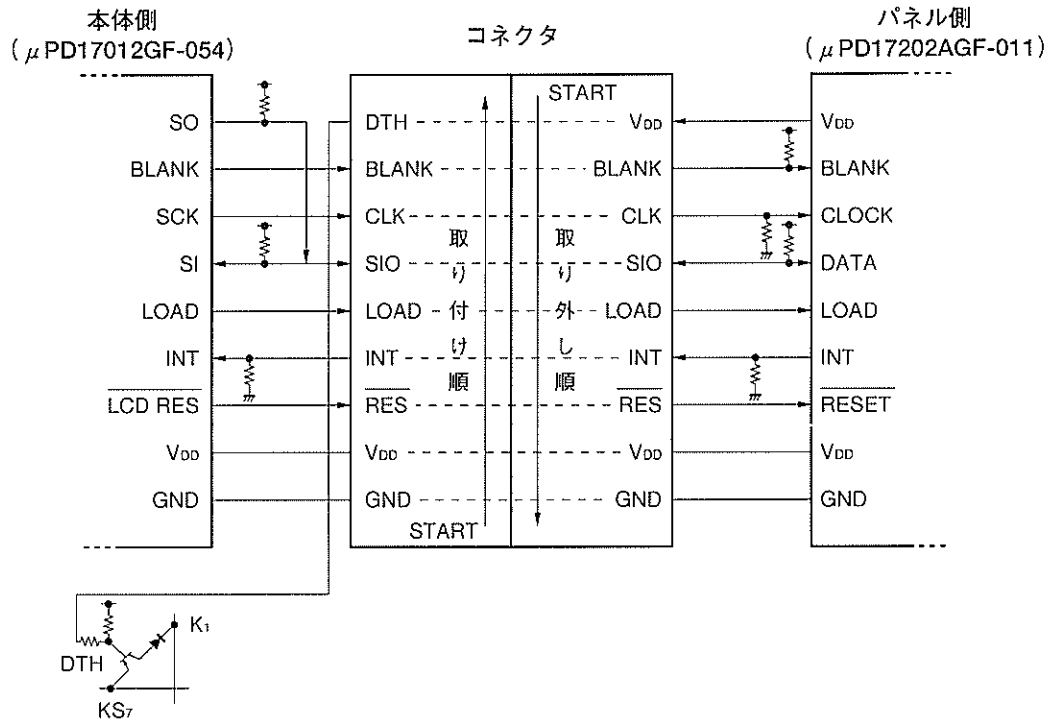
- 注意 1. “IC · Open” 端子はオープンにしてください。
 2. “IC · GND” 端子はGNDに直接接続してください。
 3. “IC · VREG” 端子はVREGに直接接続してください。
 4. “IC · VDD” 端子はVDDに直接接続してください。

備考 IC (Internally Connected) : 内部接続端子です。

付録B. 通信について

(1) 本体側 (μPD17012GF-054) とパネル側 (μPD17202AGF-011) の信号線処理

次の図のようにプルアップ抵抗、プルダウン抵抗を接続してください。



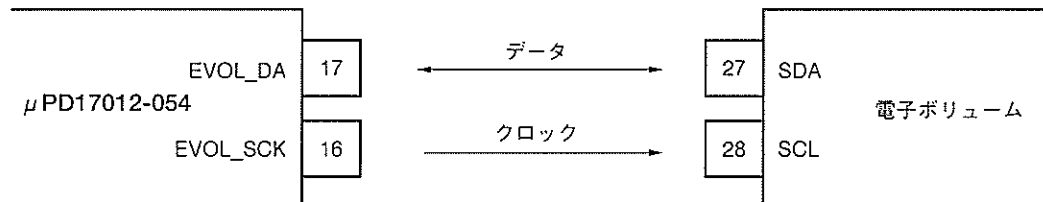
(2) 電子ボリュームICとの通信 (I²Cバス方式)

μPD17012-054は電子ボリュームへ任意のボリューム、バランスなどのデータを送ります。

電子ボリュームへのデータ出力には、データ、クロックの2本のデータ・バスが必要です。

これらはμPD17012-054のEVOL_DA端子 (17番ピン)、EVOL_SCK端子 (16番ピン) より出力します。

図B-1 端子接続 (電子ボリューム)

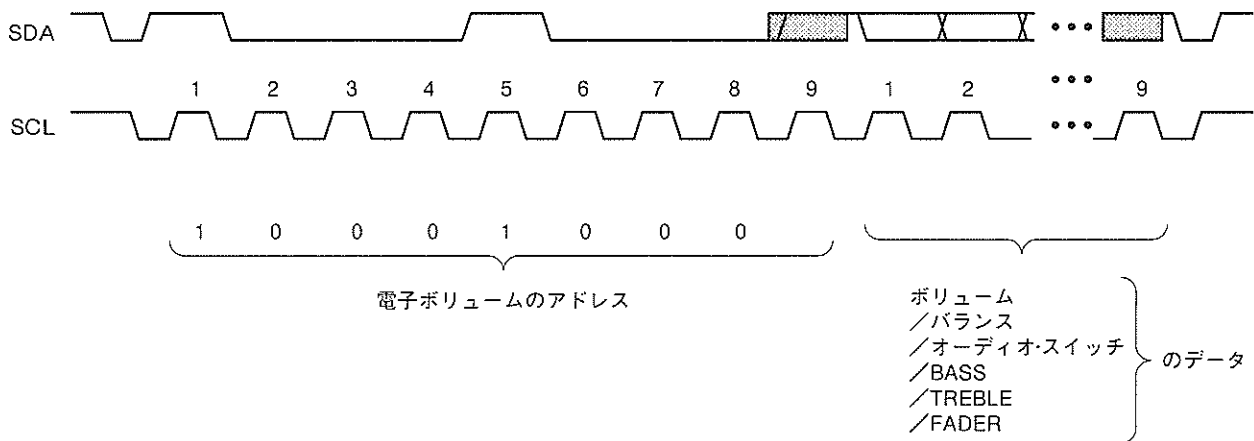


電子ボリュームのデータ構成は9ビット (データ: 8ビット + 確認信号: 1ビット) です。

電子ボリュームのアドレス (9ビット) + コントロール・データ (9ビット) の構成でN回続けて転送します。

ただし、Nはボリューム、バランス等の送信するデータの個数です。

図B-2 データ転送フォーマット (電子ボリューム)



(× ㉔)

CMOSデバイスの一般的注意事項

①静電気対策 (MOS全般)

注意 MOSデバイス取り扱いの際は静電気防止を心がけてください。

MOSデバイスは強い静電気によってゲート絶縁破壊を生じることがあります。運搬や保存の際には、NECが出荷梱包に使用している導電性のトレーやマガジン・ケース、または導電性の緩衝材、金属ケースなどを利用し、組み立て工程にはアースを施してください。プラスチック板上に放置したり、端子を触ったりしないでください。

また、MOSデバイスを実装したボードについても同様の扱いをしてください。

②未使用入力の処理 (CMOS特有)

注意 CMOSデバイスの入力レベルは固定してください。

バイポーラやNMOSのデバイスと異なり、CMOSデバイスの入力に何も接続しない状態で動作させると、ノイズなどに起因する中間レベル入力が生じ、内部で貫通電流が流れて誤動作を引き起こす恐れがあります。プルアップかプルダウンによって入力レベルを固定してください。また、未使用端子が出力となる可能性 (タイミングは規定しません) を考慮すると、個別に抵抗を介してV_{DD}またはGNDに接続することが有効です。

資料中に「未使用端子の処理」について記載のある製品については、その内容を守ってください。

③初期化以前の状態 (MOS全般)

注意 電源投入時、MOSデバイスの初期状態は不定です。

分子レベルのイオン注入量等で特性が決定するため、初期状態は製造工程の管理外です。電源投入時の端子の出力状態や入出力設定、レジスタ内容などは保証しておりません。ただし、リセット動作やモード設定で定義している項目については、これらの動作ののちに保証の対象となります。

リセット機能を持つデバイスの電源投入後は、まずリセット動作を実行してください。

注意：本製品はI²Cバス・インタフェース回路を内蔵しています。

I²Cバス・インタフェースを使用される場合には、カスタム・コードをご発注いただく時に、事前
にその旨ご申告下さい。申告に基づき、以下の特典が受けられます。

日本電気株式会社のI²Cバス対応部品をご購入いただくことにより、これらの部品をI²Cシステムに
使用する実施権がフィリップス社I²C特許に基づき許諾されることになります。ただし、これらの
I²Cシステムはフィリップス社によって設定されたI²C標準規格に合致しているものとします。

Purchase of NEC I²C components conveys a license under the Philips I²C Patent Rights to use these
components in an I²C system, provided that the system conforms to the I²C Standard Specification
as defined by Philips.

本資料に掲載の応用回路および回路定数は、例示的に示したものであり、量産設計を対象とするものではありません。

- 文書による当社の承諾なしに本資料の転載複製を禁じます。
- この製品を使用したことにより、第三者の工業所有権等にかかわる問題が発生した場合、当社製品の構造製法に直接かかわるもの以外につきましては、当社はその責を負いませんのでご了承ください。
- 当社は品質、信頼性の向上に努めていますが、半導体製品はある確率で故障が発生します。当社半導体製品の故障により結果として、人身事故、火災事故、社会的な損害等を生じさせない冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等安全設計に十分ご注意願います。
- 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」、「特別水準」およびお客様に品質保証プログラムを指定して頂く「特定水準」に分類しております。また、各品質水準は以下に示す用途に製品が使われることを意図しておりますので、当社製品の品質水準をご確認の上ご使用願います。
 標準水準：コンピュータ、OA機器、通信機器、計測機器、AV機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット
 特別水準：輸送機器（自動車、列車、船舶等）、交通用信号機器、防災/防犯装置、各種安全装置、生命維持を直接の目的としない医療機器
 特定水準：航空機器、航空宇宙機器、海底中継機器、原子力制御システム、生命維持のための医療機器、生命維持のための装置またはシステム等
 当社製品のデータ・シート/データ・ブック等の資料で、特に品質水準の表示がない場合は標準水準製品であることを表します。当社製品を上記の「標準水準」の用途以外でご使用をお考えのお客様は、必ず事前に当社販売窓口までご相談頂きますようお願い致します。
- この製品は耐放射線設計をしておりません。

M4 94.6

— お問い合わせは、最寄りのNECへ —

【営業関係お問い合わせ先】

半導体第一販売事業部 半導体第二販売事業部 半導体第三販売事業部	〒108-01 東京都港区芝五丁目7番1号 (NEC本社ビル)	東京 (03)3454-1111 (大代表)
中部支社 半導体販売部	〒460 名古屋市中区栄四丁目14番5号 (松下中日ビル)	名古屋 (052)242-2755
関西支社 半導体第一販売部 半導体第二販売部 半導体第三販売部	〒540 大阪市中央区城見一丁目4番24号 (NEC関西ビル)	大阪 (06) 945-3178 大阪 (06) 945-3200 大阪 (06) 945-3208
北海道支社 東北支社 岩手支店 山形支店 郡山支店 いわき支店 長岡支店 土浦支店 水戸支店 神奈川支社 群馬支店 群馬支店 宇都宮支店	札幌 (011)231-0161 仙台 (022)261-5511 盛岡 (0196)51-4344 山形 (0236)23-5511 郡山 (0249)23-5511 いわき (0246)21-5511 長岡 (0258)36-2155 土浦 (0298)23-6161 水戸 (0292)26-1717 横濱 (045)324-5511 高崎 (0273)26-1255 北田 (0276)46-4011 宇都宮 (0286)21-2281	小山支店 (0285)24-5011 長野支社 (0262)35-1444 松本支店 (0263)35-1666 上諏訪支店 (0266)53-5350 甲府支店 (0552)24-4141 埼玉支社 (048)641-1411 立川支社 (0425)26-5981 千葉支社 (043)238-8116 静岡支社 (054)255-2211 沼津支店 (0559)63-4455 浜松支店 (053)452-2711 北陸支店 (0762)23-1621 福井支店 (0776)22-1866
富山支店 三重支店 京都支社 神戸支社 中国支社 鳥取支店 岡山支店 四国支社 新居浜支店 松山支店 九州支社 北九州支店	富山 (0764)31-8461 津 (0592)25-7341 京都 (075)344-7824 神戸 (078)333-3854 広島 (082)242-5504 鳥取 (0857)27-5311 岡山 (086)225-4455 高松 (0878)36-1200 新居浜 (0897)32-5001 松山 (0899)45-4111 福岡 (092)271-7700 北九州 (093)541-2887	

【本資料に関する技術お問い合わせ先】

半導体ソリューション技術本部 第三システム技術部	〒210 川崎市幸区塚越三丁目4番4地	川崎 (044)548-8878	半導体 インフォメーションセンター FAX(044)548-7900 (FAXにてお願い致します)
半導体販売技術本部 東日本販売技術部	〒108-01 東京都港区芝五丁目7番1号 (NEC本社ビル)	東京 (03)3798-9619	
半導体販売技術本部 中部販売技術部	〒460 名古屋市中区栄四丁目14番5号 (松下中日ビル)	名古屋 (052)242-2762	
半導体販売技術本部 西日本販売技術部	〒540 大阪市中央区城見一丁目4番24号 (NEC関西ビル)	大阪 (06) 945-3383	